



平成 28 年度文化遺産を活かした地域活性化事業

河内の自治体・観光宣言  
河内の国全市町村観光案内・第 2 版

# ロマンあふれる河内へようこそ!

19 市町村勢要覧で繙く河内の歴史と文化&楠公史跡

■北河内

枚方市・交野市・寝屋川市・守口市・門真市・四條畷市・大東市

■中河内

東大阪市・八尾市・柏原市

■南河内

松原市・藤井寺市・羽曳野市・富田林市・大阪狭山市・河内長野市・太子町  
河南町・千早赤阪村

平成 29 年 3 月

“河内の国”文化遺産総合活用実行委員会



# 河内からの熱い思い



河内の国文化遺産総合活用実行委員会  
委員長 池田 清

河内からの熱い思い、このたび観光案内第2版として「ロマンあふれる河内へようこそ！ 19市町村勢要覧で繙く河内の歴史と文化 & 楠公史跡」を刊行いたしました。

河内と呼ばれる大阪東部に位置する地域には多くの名所・史跡があります。古くは古市・百舌鳥および生駒山麓西面などの古墳群から、中世に活躍した楠正成・正行父子にまつわる史跡、そして江戸時代の和利川付け替え工事に関わるもの等々です。

そして京都と高野山を結び、河内地域を南北に貫く東高野街道およびこれと交わる諸街道は、歴史のストーリーを発信する街道文化ともいえます。

これらの貴重な歴史遺産と現代に生きる地域資源を継承発展させ、活用していくなら、それは有望な観光・文化資源として、ムラおこし・街づくりの大きな糧となるでしょう。

東京一極集中、それと対をなして関西の地盤沈下がいわれていますが、東京型の都市建設だけが、地域浮揚の道ではありません。よき自然と、これにとけ込む由緒ある建物・街並み、そして都市部との調和、これらを総合的に活かしていくことこそ大事です。

わたしたちはまた、河内の街道文化の“日本遺産”への登録を目指しています。これは、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、これを国内外に発信し、地域の活性化を図ろうというものです。

本誌が、河内の魅力、河内のロマンを発信し、皆様に活用され、活力ある地域づくりに役立つことができれば幸いです。

## = 目次 =

### 河内の国の歴史と文化 / 3

#### 市町村勢要覧で繙く河内の歴史と文化

北河内 枚方市 / 4 交野市 / 8 寝屋川市 / 12 守口市 / 16 門真市 / 19

四條畷市 / 22 大東市 / 26

中河内 東大阪市 / 30 八尾市 / 34 柏原市 / 38

南河内 松原市 / 42 藤井寺市 / 46 羽曳野市 / 50 富田林市 / 54 大阪狭山市 / 58

河内長野市 / 62 太子町 / 66 河南町 / 70 千早赤阪村 / 74

河内に残る楠公史跡 / 78 楠公父子の生きざま / 79

#### 楠公史跡

四條畷市 / 80 交野市 / 81 大東市 / 82 東大阪市 / 83 八尾市 / 84 藤井寺市 / 85

羽曳野市 / 86 富田林市・河内長野市 / 87 千早赤阪村 / 90 大阪市 / 92

河内今昔フェスタ第1回・第2回フォト特集 / 93

川中邸と屋敷林 / 94 河内街道音頭 / 95

## 河内の国の歴史と文化

### ●奈良時代に成立

カワチーそこには古代のロマンがある。

直木孝次郎氏（大阪市立大学名誉教授）が提唱した「河内王権」の当否はともかくとして、時のヤマト政権に直結する大和川水系の政治勢力が、河内の地に根を下ろしていたことは間違いない。

百舌鳥・古市の巨大古墳群の存在はそれを物語る。そして百舌鳥・古市古墳群の前夜には玉手山古墳群（現柏原市）が出現し、6世紀中葉まで続く古市古墳群と時代を同じくして、河内湖（瀧）周辺には水走・鬼虎川・瓜生堂・巨摩・久宝寺などの遺跡が配置する。まさに古代の躍動が存在したのである。

14郡からなる河内の国が成立したのは奈良時代。古墳に代わって宝通寺・河内寺など仏教寺院が登場する。建武の中興・南北朝の時代に活躍した楠木正成・正行父子は河内の出身であった。千早城、上赤坂城は名高い。武士が政権を相争う時代は、交通の要衝や見晴らしの良い場所には城が作られた。1580（天正8年）年代までは存在した若江城もそうした城の一つであった。

江戸時代には、農具・肥料・農業技術の改良により農業生産が大きく伸び、治水、灌漑や新田開発が活発に行われ、こうした中で、大和川の付け替え工事が行われた。古代、現在の東大阪市北部は陸地ではなく、河内湖（瀧）であった。大和川は、大阪湾に直接注ぎ込むのではなく、石川と合流する今の柏原市中心部から北へ伸びて、この河内湖跡の池へと注いだ。大雨が降ると氾濫し、流域は洪水の被害にたびたびあった。これを解消するための付け替え工事であり、旧大和川の川床は新田に変えられた。瀧池新田や川中新田が開発されたのもこのころである。新田で作物の綿から作られた製品は「河内木綿」として全国に広まった。

### ●北・中・南と3つの地域、南北に広がる

明治・大正以降、産業技術の発展とともに、大阪電気軌道（現在の近鉄線）や浪速鉄道（学研都市線）が開通し、人々の生活が大きく変化して都市化も進んだ。現在の東大阪市は旧布施・河内・枚岡の三市が合併して誕生し、「モノづくりのまち」「ラグビーのまち」として知られている。「まいど1号」の打ち上げも記憶に新しい。八尾市も「モノづくりのまち」として知られ、また「河内音頭」発祥の地のひとつでもあり、八尾枝豆は近畿一の収穫量を誇る。柏原市は今なお豊かな自然環境を備え、山麓にはブドウ畑が並び、このブドウから作られるワインも有名である。この三市が中河内である。

富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町及び千早赤阪村の6市2町1村からなる南河内は、古墳や遺跡・文化的遺産が数多く点在する。富田林寺内町は近世の伝統的街並みが保存され、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。東の山麓部には、なす、きゅうり、ぶどうなどの産地や田辺大根などのなにわの伝統野菜の栽培地が広がる。山間部は、「河内林業」と呼ばれる府内随一の林業地域である。

淀川水系となる北河内（枚方市、交野市、寝屋川市、守口市、門真市、四條畷市、大東市）は、古くから京街道や古堤街道、東高野街道が通り、大阪と京都、大阪と奈良、京都と高野山を結ぶ中継地であった。現在は関西文化学術研究都市の一翼を担う。

### ●価値ある資源を活かす

このように歴史と文化、伝統産業豊かな河内の地域であるが、少子高齢化と経済停滞の波はここにも押し寄せてきている。地域経済を支える町工場は櫛の歯が抜けるように撤退し、住工混在の問題も起こる。個人商店も廃業が相次ぐ。河内域内の公共交通網は決して十分ではない。生き生きとした地域文化と地域生活を持続・発展させるには、価値ある資源を活かして、積極的な方策に打って出ることが必要である。

後世に残したい ふるさとの景観

## 枚方八景

市制施行35周年(昭和57年)を記念して市民公募を行い、昭和59年に制定しました。



よどがわ しき  
**淀川の四季**

古来、命の源として沿岸の歴史や文化を育んできた淀川。その美しさはドイツ人医師・シーボルトが賞賛したほどでした。



くずはのみやあと もり  
**樟葉宮跡の杜**

6世紀初め、継体天皇が即位したと伝えられる樟葉宮跡は、今の交野天神社の辺りだと言われています。



まきの さくら  
**牧野の桜**

片苳神社の北側にある牧野公園は、春になるとソメイヨシノやシダレザクラが咲き誇り、多くの市民が訪れます。



やまだいけ つき  
**山田池の月**

府営山田池公園の中にある山田池は、約1200年前にかんがい用のため池としてつくられ、野鳥や四季折々の花木を楽しめます。



くにみやま てんぼつ  
**国見山の展望**

国見山は生駒へと続く山並みにあり、標高約300mの展望デッキからは枚方のまち並みを一望できます。



くぢらじあと しょうじゆう  
**百濟寺跡の松風**

百濟寺跡は、百濟の王族の末えい・百濟王氏が8世紀後半に建立した寺の跡と考えられ、昭和27年、国の特別史跡に指定されました。



まんねんじやま りょくいん  
**万年寺山の緑陰**

万年寺山の上にある慈賢美神社の石段を登ると、木々の中に苔むした標石や十三層の石塔があり、近年では梅の名所として知られています。



こうりだんち なみさ  
**香里団地の並木**

昭和30年代に「東洋一のニュータウン」と呼ばれた香里団地。開発時に植えられたけやき通り・いちよう通りと並ぶ街路樹が、移りゆく季節を彩ります。



市の花「桜」  
平成19年制定



市の花「菊」  
昭和42年制定



市の鳥「カワセミ」  
平成14年制定



市の木「柳」  
昭和42年制定

## 枚方のシンボル



風・せりり 夢・ひらり

シンボルマークとキャッチフレーズ

平成9年公募により制定。



市旗

コバルトブルーの中央に図案化した枚方の「ひ」を置き、大空に羽ばたく鳥の姿に見立てています。昭和42年制定。



市章

淀川とともに栄えてきた枚方は船と深い縁があります。カタカナの「ヒ」「ラ」と漢字の「方」を組み合わせ、三十石船をかたどっています。昭和22年制定。

- 教員(小・中学校) 児童・生徒 16.8人に1人
- 水道(配水量) 1日に12.9万㎡
- 鉄道(京阪) 1日に14.9万人(乗車) 14.8万人(降車)
- 公園 市民1人あたり5.1㎡
- 救急出動 1日に51.2件
- 交通事故(人身) 1日に4.3件
- 火災 1日に0.4件

- 図書館(貸出冊数) 1日に1万239.6冊
- 医師(歯科医師を除く) 市民408.7人に1人(平成24年)
- 電灯(使用量) 1日に222.5万kwh
- 都市ガス(需要量) 1日に38.6万㎡
- ごみ収集量 1日に297.2t
- し尿収集量 1日に9.0kl

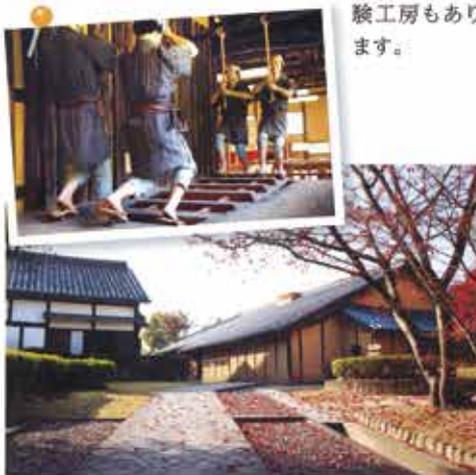




# 枚方を調べる

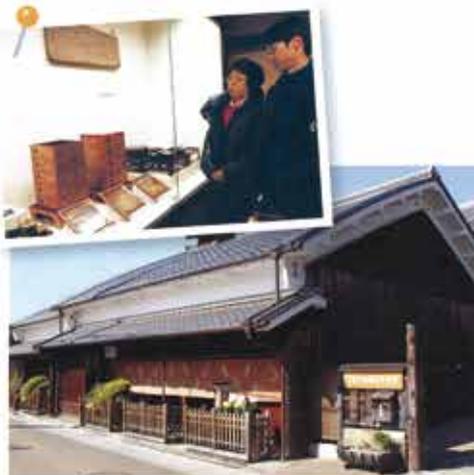
## 旧田中家鋳物民俗資料館

田中家は江戸時代、枚方で鍋や釜などの日用品や寺院の梵鐘などを鋳造していた鋳物業に携わっていました。大阪府指定文化財である鋳物工場と主屋を移築・復原し、昭和59年に資料館としてオープン。江戸時代の鋳物工場の姿を現在に残す国内唯一の建物で、日本の優秀な鋳物技術と江戸時代の生活をうかがい知ることができます。鋳造や七宝焼などの体験工房もあります。



## 枚方宿鍵屋資料館

江戸時代、京街道の宿場町だった枚方は淀川を行き交う三十石船の中継港としてもにぎわい、鍵屋は枚方宿の代表的な船待ち宿でした。江戸後期の主屋と昭和初期の別棟を市が整備し、平成13年に枚方宿の歴史や文化を紹介する施設としてオープン。歴史講座や伝統文化に関するイベントも開かれています。



### 特別史跡

#### 百済寺跡

百済寺は奈良時代後半、朝鮮半島にあった百済の国の王族の子孫、百済王氏が建てた氏寺と考えられています。礎石が残る寺院跡は昭和27年、国の特別史跡に（大阪府内では他に大坂城跡のみ）。昭和42年には全国に先駆けて史跡公園となり、現在、再整備を進めています。



### 重要文化財

#### 片笠神社本殿

慶長7年（1602）に豊臣秀頼が片桐且元を総奉行として再建したもので、三間社流造、檜皮葺で細部に至るまで桃山時代の華麗な様式をよく示しています。



### 交野天神社本殿

交野天神社末社八幡神社本殿

いずれも一間社流造、檜皮葺で室町時代中期に遡る枚方市内の建築物としては最古のものです。



### 厳島神社末社春日神社本殿

一間社流造、檜皮葺で、室町時代中期の建築と考えられます。後世の補修がみられますが、建築当初の姿をよく伝えています。



### 国史跡

#### 禁野車塚古墳

全長120mの前方後円墳。奈良県の箸墓古墳と墳形がよく似ており、築造時期は古墳時代前期前半（4世紀前半）と考えられます。



#### 牧野車塚古墳

全長107.5mの前方後円墳。埋葬施設の構造や副葬品は不明ですが、築造時期は古墳時代前期中頃（4世紀後半）と考えられます。



#### 楠葉台場跡

幕末期、江戸幕府が京都防衛のため、勝海舟を設計の総責任者として築造した、砲台を備えた要塞跡。河川に面して作られた全国でも珍しい台場。



## 枚方を調べる

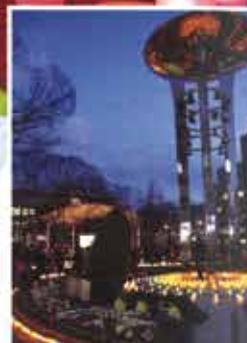
### 3月1日は「枚方市平和の日」

昭和14年に禁野にあった陸軍火薬庫が大発火し、約700人の死者を出した日であり、昭和29年に太平洋ビキニ環礁で米軍が水爆実験を行い、漁を行っていた第五福竜丸が被ばくした日でもあります。市は平成元年、2つの惨事を風化させず平和の大切さを考える日として3月1日を「枚方市平和の日」に制定しました。



### 平和の燈火

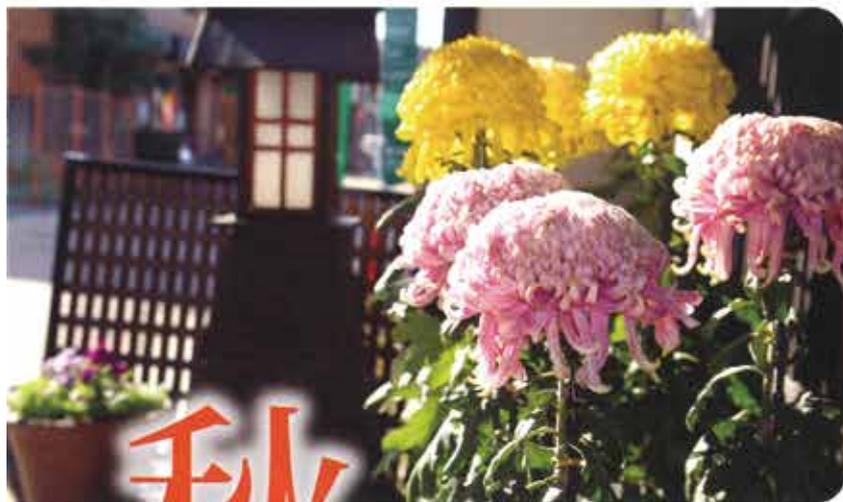
毎年3月には、多くの市民の平和への願いを込めたキャンドルを灯し恒久平和を誓う「平和の燈火」をはじめ、さまざまな平和事業を実施しています。



# 冬

### 新春走ろうかい

成人の日に約5000人が淀川ペリを駆け抜ける恒例のマラソン大会。新成人が晴れ着姿で走るイベントも。



# 秋

### ふとん太鼓

五穀豊穡を願い約300年前に始まったといわれる伝統行事。「エラサッサー」の掛け声とともに、あふれんばかりの熱気で枚方宿地区周辺をみこしが練り歩きます。



### ひらかた菊フェスティバル

かつて、ひらかたパークの大菊人形展で全国的に知られた枚方の菊。現在は10月～11月に市民による2000鉢以上の菊や菊人形が枚方市駅周辺や歴史街道を彩り、秋の枚方は菊一色に染まります。





時記

# 春



## 桜

平安時代、枚方は桜の名所として在原業平の歌にも詠まれました。市内には今でも桜を楽しむスポットが数多くあり、お花見に訪れる人でにぎわいます。



## 枚方・百済フェスティバル

朝鮮半島との交流の歴史が残る国の特別史跡・百済寺跡の魅力を知ってもらおうと、古代をイメージした衣装をまとった市民がチャング(太鼓)をたたきながらにぎやかに行進します。



## 花しょうぶ

市のほぼ中央に位置する山田池公園の花しょうぶ園には約130種8000株以上が咲き誇り、大阪府内有数の名所として多くの人でにぎわいます。



## 枚方まつり

夏を彩る枚方最大級のイベント。2日間にわたって枚方市駅周辺で開催され、約10万人が訪れます。

# 夏



四季折々のイベントや花の見どころを紹介します。

天の川の流れるまち◎The Town Across the Milky Way



天野川  
Amiano River



交野市には、「星」にまつわる地名、伝説があります。

In Katano City is a Place Name that Celebrates the Stars

# 天の川の流れるまち

かりくらし たなばたつめに 宿からん  
あまの河原に われはきにけり (在原業平)

「星のまち☆かたの」というキャッチフレーズのとおり、交野市には、星にまつわる地名や伝説があります。

まずは、なんといつても天野川です。稲作がはじまった頃に、この地をたたえてあまの(甘野)といい、川水をあまのかわ(甘野川)といったことが由来といわれています。「あまい」という言葉は、人の最もよるこぶ味覚の表現で、また親しみをこめた形容です。それを平安時代、交野が原へ遊覧に訪れていた菅原氏が、歌合わせの際に、夜の夜空に星の連なる「天の川」になぞらえたことから、この名が定着したと伝えられています。もともとの意味は想像とは違ったものかもしれませんが、長い間この川を「天の川」として、さまざまなロマンに思いをはせていたことが、このほかの地名からもわかります。

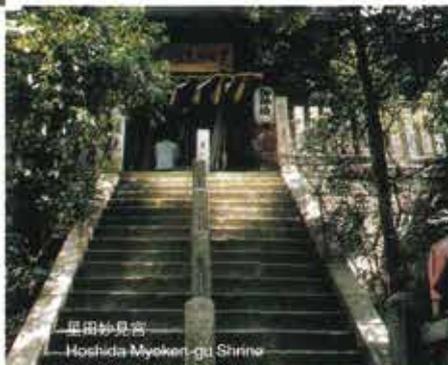
この天野川にかかる橋も「逢入橋」と呼ばれ、年に一度、天棚比賣大神(倉治の機物神社祭神)と牽牛星

(枚方市の庵中山観音寺) が出た場所と伝えられています。

交野山麓に暮らしていた交野忌す一族の村々に繁栄した機織の技を見て、さらに機織の社に出会い、この神こそが織女星、すなわち棚機女として、崇められるようになりました。星田という地名も遊覧者の空想から生まれたものといわれています。



機物神 Hatamochi Shrine



星田妙見宮 Hoshida Myoketsu Shrine

用水の不足で水田の耕作ができず、牧場にされたこの地は「乾し田」と呼ばれていました。それを、八丁三所の降星の伝説から、天界に広がる美しい星の田と改称されたということです。

天田神社も、かつて甘田の田の神を祭祀していたところですが、天の川や、たなばたつめの宮を創造したので、ひこぼしをこの宮に持つてきて、天田を耕す神の宮、天田の宮と称したといえます。

このように、名前の一つひとつに古人のロマンが感じられます

星の森 Hoshi-no-Mori Forest



天田神社 Amada Shrine



金剛(月の輪)の滝 Kongo (Circle of the Moon) Waterfall

Just as our catchphrase, "Star City: Katano" implies, Katano City has legends and place names that celebrate the stars.

First and foremost, there is Amanogawa ("Milky Way River"). When rice cultivation first began, they praised the land and, it is said, the original name of the river was the euphonic Amanogawa ("Sweet Fields River"). The word amai ("sweet") expresses the taste most delightful to mortals, and is also an adjective that expresses human closeness. It is also said that during the Heian Period, whenever court noblemen who visited Katano to hunt in the fields held poetry contests, it was their comparisons to the Milky Way, which binds the stars across the night sky, that gave the region its name.

The bridge that spans the Amanogawa ("Milky Way River") is also called the Aiaibashi ("love bridge"), and according to legend, once a year, is the site on which Amano-Tanabata-hime-no-okami (the deity of the Loom Shrine in Kuraji) and Kengyusei (the star Altar, at the now deserted Nakayama Kannonji Temple in Hirakata City) meet.

Furthermore, looking at the weaving businesses and techniques that have prospered in the villages of the Katano Imiki clan, this god has itself come to be revered as the star Vega; in other words, as the princess Tanabata-tsume.

Hoshida ("star field") was unable to be used for rice paddy cultivation because of a water shortage, so the region, which was used for pasture, was called Hoshida ("dry field"). Its name was changed to the beautiful field of stars that spreads across the heavens due to the legend of eight stars falling to Earth at Hacho-midokoro.

Amada-no-Miya Shrine also used to celebrate the god of the Amada (sweet fields), but due to the creation of the Milky Way and a shrine to Tanabata-tsume, Altar was brought to the shrine, and the shrine was renamed the euphonic Amada-no-Miya, shrine of the gods who cultivate the star fields. In this way, the tales of the ancients can be felt in each and every place name.

Iwafune Shrine

## 磐船神社

磐船神社のご神体は船形をした高さ12メートルもある巨岩で、饒速日命ニギハヤヒノミコトがこの樟船に乗って天下ったという伝説があります。

この神社周辺は、天野川の上流で、流れの段差がはげしく、自然美にあふれ、野趣ゆたかなこの溪谷は磐船地峡と呼ばれています。



Yamazoe Family Home (Nationally specified important cultural treasure.)

## 山添家住宅 (国指定・重要文化財)

山添家住宅は、江戸時代の庄屋の住居で、今では全国でも数少ない萱葺きの屋根です。特徴は、雨の日などは農事がしやすいよう母屋の土間が広く作られていることです。



Standing Amida Nyorai Buddha  
(Nationally specified important cultural treasure.)

## 阿弥陀如来立像

(国指定・重要文化財)

鎌倉時代の仏師、快慶の作で、建久3～14年(1192年～1203年)頃の作と推定されています。穏やかな表情をたたえ、衣線も流れるように美しく、全体に小づくりで整っています。



*Kitada Family Home (Nationally-designated important cultural asset, and former residence of the Edo Period regional governor.)*

## 北田家住宅 (国指定・重要文化財、旧代官屋敷)

北田家住宅は敷地面積約3,768平方メートル。全体に豪壮な構えであり、代官屋敷と呼ばれています。

特に日本一の長さを誇る長屋門（約56メートル）と母屋の玄関が上手に突き出た形式の民家は全国でも数少ない貴重なものです。

元和5年（1619年）、私部村の3分の2が、徳川旗本畠山修理太夫の知行となり、この地の代官を務めたのが北田家です。



*Seated Yakushi Nyorai Buddha (National treasure)*

## 薬師如来坐像 (国宝)

櫃の木の一刀彫りで、高さは92センチ。仏像の肌にとびたりと流れるようにまとわりつく衣紋は、平安初期弘仁年間（810年～824年）の翻波式の彫刻技法を表しています。さらに豊満な体軀と切れ長の目、端正な鼻を持つ美しい顔は藤原時代の様式を見せており、両時代過渡期の作品といわれています。

# 古の語り部

古くから文化が開け、また、交通の要衝として栄えたこの地には、さまざまな史跡・文化財が数多く残っています。In this land, where culture has developed since ancient times, and the region has flourished as a key transport hub, there remain numerous historic sites and cultural treasures.

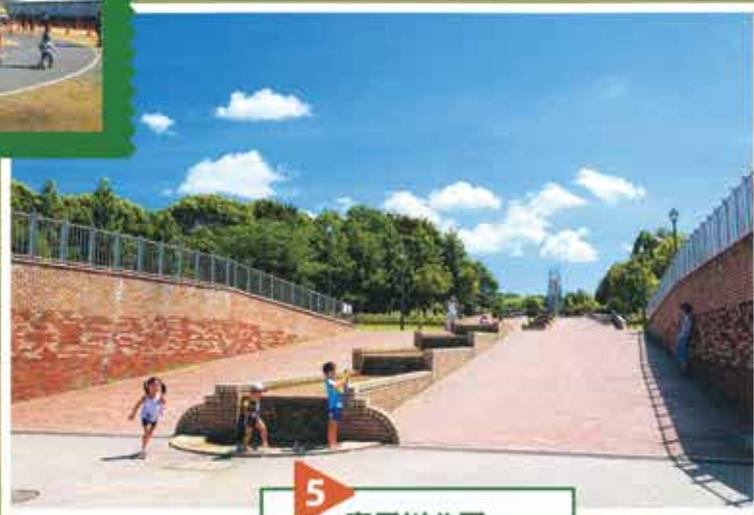
古の語り部 Tales from Ages Past

## 「自転車の駅」で ちょっと休憩

自転車利用者のための施設で休憩所のほかに自転車の練習や講習会が行えるサイクルトラックや自転車シミュレーターを備えています。



安全運転の講習会も実施しています



## 5 寝屋川公園

広い園内に野球場や陸上競技場などの施設が整備されています。春の桜、秋の紅葉の名所としても市民に親しまれています。



## 6 寝屋のまちなみ

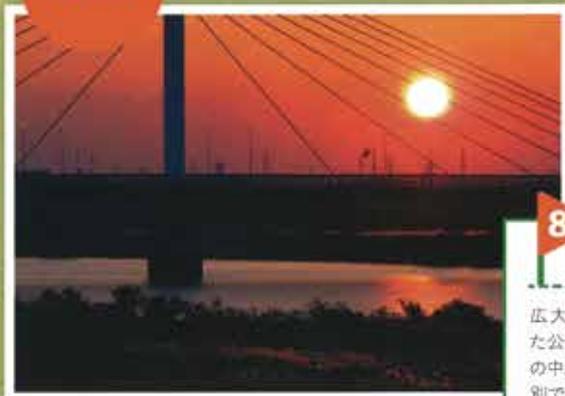
民話『鉢かづき姫』ゆかりの「はちかづきの里」として知られ、土塀のある民家が軒を連ねる通りは趣があります。

## 7 成田山不動尊

千葉県成田山新勝寺の大阪別院として昭和9年(1934)に開創され、関西有数の交通安全の神様として広く信仰されています。



Goal!



## 8 淀川河川公園

広大な淀川河川敷に整備された公園です。夕映えのシルエットの中、沈みゆく夕陽の美しさは格別です。

旅のしめくりに  
きれいな夕日を見よう





みんなが  
笑顔になれる  
場所

Start!

1 萱島駅のくすのき

萱島神社の御神木。駅舎の移築で構内に取り込まれ、高架ホームにそびえています。大阪府の「みどりの百選」に選ばれています。



はちかづきちゃんと  
1Day Trip

新寝屋川  
八景

Eight Picturesque Sights in Neyagawa  
新寝屋川八景  
신네야가치 팔경

はちかづきちゃん

寝屋川市が舞台の民話「はちかづき姫」をモチーフにした寝屋川市のマスコットキャラクターです。

新寝屋川八景は平成21年に市民の投票によって選ばれ、大阪ミュージアム構想にも登録された寝屋川市民が誇る風景・景観です。

2 友呂岐緑地

桜木町から萱島駅に至る南北約3.5kmの緑豊かな遊歩道です。四季折々の眺めが美しく、特に春は桜並木が満開の花をつけ、見事です。



春の満開時の  
桜並木が  
きれいです

4 太秦高塚古墳

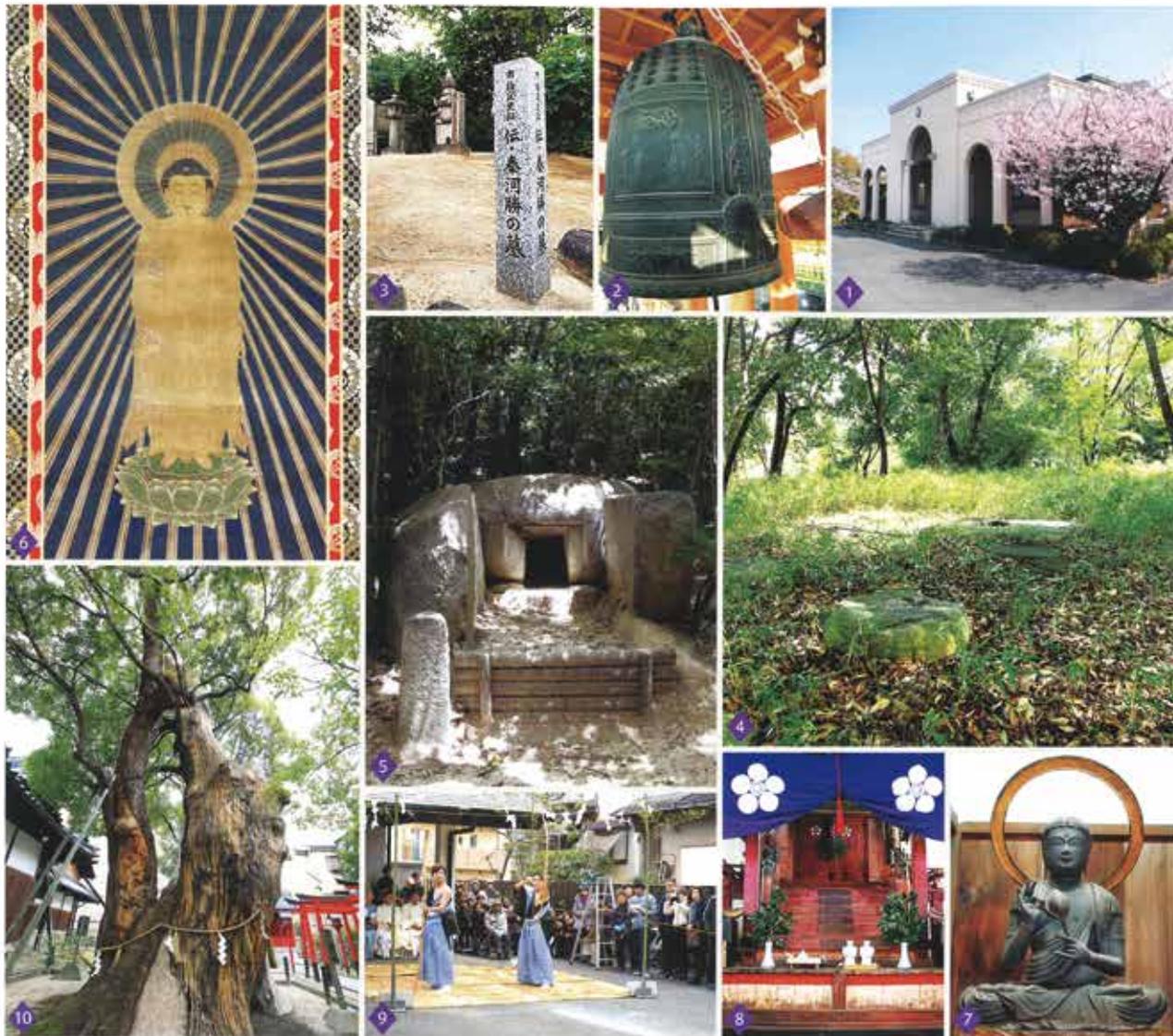
5世紀に築かれた市内最大の古墳で、発掘調査をもとに築造当時の姿に復元整備され、古墳公園として公開されています。



3 ねや川戎

寝屋川のえべっさんとして親しまれる住吉神社で新春に催される十日戎には、1年の福を求めて大勢の人が詰めかけます。





## 歴史文化財

Historical Cultural Assets 历史文化遗产 역사 문화재

### 1 聖母女学院校舎

著名な建築家アントニン・レーモンドの設計で昭和7年(1932)に建てられたアーチが印象的な建物。国の登録文化財です。

### 2 正立寺梵鐘

鐘に刻まれた銘文によると鑄造は寛永4年(1707)で、天人像の浮彫など裝飾性が豊かで跡上がり・意匠ともに優れています。

### 3 伝・秦河勝の墓

泰山と呼ばれる寝屋川北岸の丘陵上にある五輪塔で、秦氏の族長で聖德太子の補佐を務めた秦河勝の墓と伝えられています。

### 4 高宮廃寺跡

高宮にある白鳳時代創建の古代寺院跡です。発掘調査で塔や金堂、講堂、回廊の位置が確認されています。

### 5 石宝殿古墳

古墳時代終末期に築造された北河内唯一の古墳で、巨石を組み合わせた構造は国内に4例しかない希少なものです。

### 6 西正寺絹本着色方便法身尊像

光明を放つ阿彌陀如来の絵画です。裏面に文龜2年(1502)の文字があり、本市で最古の年号を持つ絵画です(通常非公開)。

### 7 法安寺木造聖観音坐像

像高57.4cmのヒノキづくりの観音像です。鎌倉時代の作と推定され、表情や姿勢など当時の作風をよく伝えています。

### 8 菅原神社本殿

市の有形文化財で江戸時代前期の建造と推定されます。装飾の幕設には竹に虎、梅に鯉、牡丹が彫り込まれています。

### 9 三井のお弓行事

成人の日の前日に地元の新成人の若者2名が交互に12本の弓を射、その年の天候と豊凶を占う神事です。

### 10 神田天満宮のくすのき

河内平野はくすのきの巨木が多く自生しています。神田天満宮境内の「千年くす」は幹回りが約10mあり、市内最大です。



みんなが  
笑顔になれる  
場所

## 成田山不動尊の 節分祭

日本一大きい「千升大筒  
餅」を使って邪退思掛けと  
交通安全を祈る豆まき式  
が行われ、著名人が毒男・  
毒女として参加します。



## 第3回 東校区納涼まつり

東校区地域協働推進会・東校区納涼まつり実行委員会



## 夏まつり

プログラムが盛りだくさん  
の夏まつり。各地域で開催  
され、地域の人が一つに  
なって盛り上がっています。

# 寝屋川祭時記

Neyagawa City's Festivals 寝屋川祭時記 네아가와 축제 일정



## エンジョイフェスタ inねやがわ

さまざまなレクリエーショ  
ンプログラムや舞台演技  
が充実した、子どもから高  
齢者までみんなが楽しめる  
イベントです。



## 農業まつり

子どもから高齢者までさま  
ざまな市民が農に出れる  
機会として毎年開催。特  
に地産産野菜の直売が人  
気です。

## ねや川戎さんの 十日戎

1月10日の前後3日間に開  
催され、商売繁盛と市内  
安全を祈願に訪れる市内  
外からの参加者は10万人  
を数えます。







# 守口宿物語

日本の歴史上に登場する偉人数多く輩出  
義民の志高く今に伝わる

◆守口宿が最も輝いた時代、江戸幕末期より明治・大正・昭和・平成…

## 明治天皇大坂御親征と守口宿一夜の帝都

慶応4年(1868)1月3日鳥羽で激しい戦い(戊辰戦争)で、幕府軍が敗れて東海道を大坂へ敗走しました。それを追うという名目で、3月21日天皇の大坂御親征軍が京都をご出発、その夜は八幡の行在所で仮泊、翌22日戌(9時)小雨ふる中、守口行在所の難宗寺にご到着。翌23日午前8時に大坂行在所の津村別院へ。

この御親征には、大坂遷都の計画があり、文武百官に三種の神器をまつる内侍所も同行(東御坊=盛泉寺に安置)され、この一夜、守口が帝都になりました。その後、大坂遷都は中止になり東京へ都が移りました。



明治天皇大坂行幸一行1700余、大坂津村別院入場図

## 守口が一日首都に

幻の大坂遷都にまつわる守口宿(明治天皇一行御宿泊の誓れ)



盛泉寺内侍所の碑



難宗寺行在所の碑



盛泉寺明治天皇を設けた玉座



難宗寺玉座

## 白井家と大塩平八郎

白井家は、守口宿の村役人を務める名家で、本陣前の櫓形付近から現在の国道付近までの大邸宅でした。

主の白井孝右衛門は、陽明学者の大塩平八郎(元大坂奉行所与力)と師弟関係にあり、経済的にも援助していました。また、自宅の隠居所を解放し、大塩平八郎を招き、近在の人たちに陽明学を学ばせていました。



大塩平八郎が讀書をした書院(直原玉書画)

その頃、全国的な凶作が続き(天保の大飢饉)、民衆の窮状忍びがたく、度々上申する

も、役人と豪商が結託して地元の窮状を見ない状況でした。社会規制や権限に関係なく正邪を明確にする陽明学の立場からは許されぬ現状。大塩は窮民救済のために武力行動を計画。門下生もそれに応じ、白井孝右衛門は軍資金を提供しました。しかし、計画は事前にもれ、豪商の蔵を破り米を飢えた人々の手にとの計画も、僅か半日で鎮圧されました。この行動には守口から175名が何らかの意味で参加しました。

乱後は孝右衛門と長男は処刑され、幼い息子は島流しになりました。守口では罪の重軽は別として、193人が罰せられました。この乱は後の社会に大きな影響を与え、幕末維新へ向けて動き出しています。

## 朝鮮通信使と守口宿

秀吉の朝鮮侵略以後、朝鮮との交流がとだえていましたが、徳川家康の努力と対馬藩の宋氏の力添えで慶長12年(1607)に朝鮮通信使が来日し、以降12回来日しました。

一行は300~500人で大坂で川船に乗り換え、淀川を上り、淀の納所に向かいます。朝鮮通信使に関しては、守口では、佐太の代官所より指示が出ていました。

守口でも川底の浚えや淀川の大部分は船を引綱で上るので、船曳の人夫が駆りだされました。また、朝鮮通信使をひと目みようとする見物人が淀川両岸に集まってきました。



淀川をさかのぼる朝鮮通信使(紀州藩の川御座船)



## 守口駅と新川

文久元年(1861)頃に書かれた旅行記です。当時の守口駅辺りの景色です。守口駅辺りを「土居村の上」にあり、是より岸をはなれ内に、人浪華よりに京師に上る陸路の官道第一の駅…」とあります。



文禄堤宿駅(淀町付近の復元図) 当時の堤上の宿駅イメージ画



淀川両岸一瞥 上里船之部

## 守口駅 新川

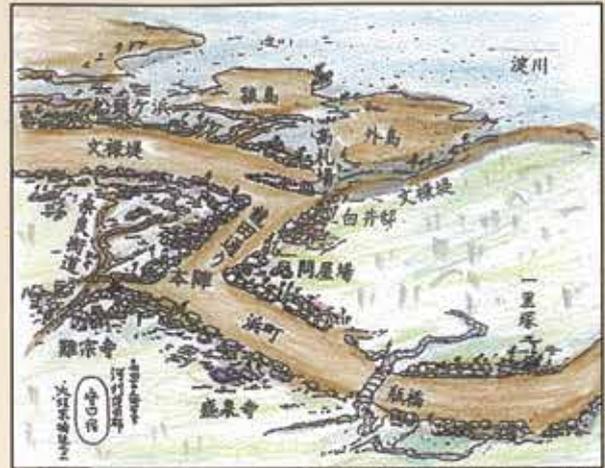
船はあれど  
よこの堤  
なぐじしの声に  
生かれて  
うらやゆかまし  
守口あたり  
百尺

史登る  
秋の夜小ねに  
さるゝあらし  
ひまより  
露も

守口  
淀川  
百尺

## 守口宿の原画

文化年間(1801~1817)の守口縮図(国立博物館所蔵)



※わかりやすくするために地名を記入しました。

## 守口宿の名物・名産・はやり唄

### 守口名産 守口大根と守口漬

守口付近は川が運んだ土砂、砂が多く作物が育ちにくい、そんなところで育った守口大根です。指の太さぐらいで長さも1倍以上になります。



この大根を利用して開発されたのが守口漬で、たまたま豊臣秀吉公に献上の機会があり、お褒めにあずかり、守口漬の名前を頂いた由緒ある品物で、代々徳永家で販売されていました。この大根も淀川の改修で産地が愛知県に移り、今は木曾川育ちの名古屋名物です。

### 守口宿銘酒と守口宿せんべい



「守口宿 純米吟醸 生貯蔵酒」  
山野酒造(片野)



「守口宿 おせんべい 総合せ」  
ねぼり堂(守口)

## 守口宿名物 宿雁

宿雁は、落雁にあんこが入った「もなか」のような菓子です。西行法師の足跡を調査していた名僧似雲が、丁字屋そばの茶店(大和屋出店)で休んでいた時、床下から雁の鳴き声が聞こえ、主人に聞くと、羽根を傷めた雁を飼っていると聞き、和歌一首、「帰るべきとこ世の国を床の下に おもひ出してや雁の啼くらむ」この和歌にちなみ宿雁と名付けました。



現代南画の巨匠  
直原画伯の高筆の歌

東海道五十七次守口宿  
守口夢ごよみ

一、江戸から数えて 五十と七つ  
ここは守口 宿場町  
今は昔の 文禄堤  
歩いてみたい あの人と  
遠い幻 逢うように

二、さつき花咲く 夢持ちの宿  
かわす盗 差し向かい  
あなただの胸に 心を染めて  
唇をめぐると はなれ茶屋  
秘めた思いに 紅を差す

三、暮れる水面に 町並揺れて  
流れ尽さない 淀の水  
私の願いを 小舟に乗せて  
そつとあなたに 届けたい  
面影しのぶ 旅の宿

作詞 山崎いづみ 補作詞 松本成子  
作曲 またのえじ 歌 松本穂

- 日木橋
- 品川宿
- 川崎宿
- 神奈川宿
- 保土ヶ谷宿
- 戸塚宿
- 藤沢宿
- 平塚宿
- 大磯宿
- 小田原宿
- 箱根宿
- 三島宿
- 忍津宿
- 原宿
- 吉原宿
- 蒲原宿
- 由比宿
- 鶴津宿
- 江尻宿
- 府中宿
- 丸子宿
- 岡部宿
- 藤枝宿

東海道57次宿駅



# 門真に残る歴史・文化財

Historical and cultural artifacts in Kadoma  
門真遺留下来的历史及文化财产



## 河内国絵図

寛文2年(1662)3月の年記があるもので、郡別に村名を八つの色分けで特定しています。大坂城や四天王寺が描かれるなど、本市に現存する江戸期秀逸の絵図です。

The illustrated map of Kawachi Province It has a description as drawn in March 1662, and specifies each village in each county with 8 colors. This is an Edo-period map, and also includes an illustration of the Osaka castle and Shitenno-ji temple.

### 河内国絵図

图中记载有寛文2年(1662)3月の年号,按郡分类,用八种颜色区别村名。这幅绘图是本市现存的江戸时期杰作,绘有大坂城和四天王寺等。



## 盾持人埴輪

現在のところ市内唯一の古墳、普賢寺古墳(6世紀前半築造)から出土した盾持人の埴輪です。顔に入墨を表現し、盾を持った姿で古墳の前に立てられていたと考えられます。

### Clay figure of a man with shield

This is a clay figure of a man with shield, which was unearthed from Fugenji Kofun Tumulus (constructed in the first half of the 6th century), the only Tumulus in Kadoma city. It has a tattoo in its face, and is considered to have been placed in front of the Tumulus with shields.

### 持盾陶俑

这是从市内目前唯一的古墓、即普贤寺古墓(6世纪前半叶建造)中出土的持盾陶俑。一般认为,这些陶俑面部绘有文身,古时以持盾姿态立于古墓之前。



## 銅鐸(大和田遺跡)

昭和38年(1963)、京阪電車大和田駅工事中に銅鐸が3個同時に出土しました。弥生時代中期に製作された小型で荒い作りが特徴です。当時相当有力な集落がこの辺りにあったことがうかがえます。

### Dotaku (Owada Ruins)

In 1963, three dotakus were during the construction of Owada station on the Keihan Line. These were produced in the middle of Yayoi period, and possess the typical small size and rough work characteristics of this period. These show that there used to be a powerful village in this area in that time.

### 铜铎(大和田遗迹)

昭和38年(1963)年,在京阪电车大和田站建设工程中,同时出土了3个铜铎。其于弥生时代中期制作,体积小、比较粗糙。可以看出,当时在这一带曾存在着相当有实力的村落。



一休生母の墓 MAP P26

室町時代の禅宗の僧、一休宗純(1394~1481)の母の墓と伝えられています。

**The grave of the real mother of Ikkyu**  
This is said to be a grave of the mother of Soujun Ikkyu (1394~1481), a Zen Buddhist in the Muromachi period.

一休生母之墓

据说这是室町时代禅宗僧人一休宗纯(1394~1481)母亲的坟墓。



大塩平八郎と茨田郡士

江戸時代後期の天保8年(1837)2月19日、「救民」の旗を掲げ、大坂町奉行所元与力大塩平八郎と門人たちが起こした乱は、幕府・庶民に大きな衝撃を与えました。門真からも多くの人々が参加しており、なかでも門真三番村の茨田郡士は大きな役割を果たしました。

Heihachiro Oshio and the matta warriors

On February 19, 1837, Heihachiro Oshio, a former Yoriki (police sergeant) in Osaka magistrate's office rose in rebellion together with his disciples, under the flag "Save People" and gave a great shock to the Shogunate and the common people. Many people participated in this rebellion from Kadoma, and the Ibarada warriors of Kadoma Sanban village especially played a big role in this event.

大塩平八郎与茨田郡士

江戸時代後期の天保8年(1837)2月19日、身为大坂町奉行所原与力(注:职位名称)の大塩平八郎和门生们举“救民”之旗,发动起义,对幕府和百姓造成极大冲击。门真也有许多人参加,其中,门真三番村的茨田郡士发挥了很大作用。



大塩平八郎の掛け軸(右)  
昭和40年代の茨田郡士



願得寺  
本尊阿弥陀如来立像 MAP P26

15世紀末、蓮如が浄土真宗の道場として開いたのが始まり。平成18年(2006)、本堂、山門などが建造物としては市内で初めて府の有形文化財に指定されました。

愿得寺  
本尊阿弥陀如来立像

15世紀末,莲如在此开设了净土真宗的道场。平成18年(2006),本堂、山门等建筑物在市内首次被指定为大阪府有形文化财产。

Gantokuji Temple  
Main Image: Amida Nyorai standing statue

The origin of this temple was the training center of Jodo Shinshu opened by Rennyo at the end of 15th century. In 2006, the main building, the Sanmon gate, etc were designated as Tangible Cultural Properties of Osaka prefecture, and this was the first time that a building in Kadoma city was designated as a historical building.





喜左衛門樋の碑 **MAP P26**

江戸時代初期、喜左衛門は悪水に苦しむ村のために幕府の許可を得ずに排水樋を設けましたが、近隣の村々から反対にあい、樋を残すかわりに、処刑されました。

**Monument of Kizaemon drainpipe**

At the beginning of Edo period, in order to save the villages that were suffering due to drainage water Kizaemon constructed a drainpipe without permission of the Shogunate. However, his work was opposed by the surrounding villages, and he was executed in exchange for maintaining the drainpipe.

喜左卫门水管之碑

江戸時代初期、喜左卫門为了帮助深受污水之苦的村子，未经幕府许可，安设了排水管。但是，这种做法遭到附近各村的反对，最终虽然保留了水管，喜左卫门却被处刑。

府史跡 伝茨田堤 **MAP P27**

日本書紀に仁徳天皇が淀川からの洪水を防ぐために築かせたと記述がある最古の堤防のことで、市内にその伝承がある遺構が残されています。

**Den Mandanotsutsumi Bank, Osaka Prefecture designated historic site**

Finding mention even in the Nihon Shoki and constructed by order of Emperor Nintoku in order to keep the Yodo river from overflowing, the legend of this oldest bank exists even today.

府史迹 传茨田堤

这是日本书记中亦有记述的、仁德天皇为防止源自淀川的洪水而构筑的最古老的堤防。在市内仍残存着具有其遗风的筑体。



段蔵 **MAP P26**

水害から家財を守るために建てられた農家の蔵。切石の石垣を5~10段積み上げたところに建てられています。

**Dangura (warehouse on stair-shape base)**

This is a farm warehouse build in order to protect the household goods from flood. It is constructed on the 5 to 10 layers of cut stones.

层仓

为防止家产遭遇水灾之害而修建的农家仓库。建于累有5~10层石砌墙之处。

守口街道 **MAP P26**

奈良に向かう道で「奈良街道」「奈良道」、また奈良時代に行基が整備したという伝承により、「行基道」ともいわれます。

**Moriguchi Kaido Road**

This is a road to Nara, and is also called "Nara Kaido Road", "Nara Road", as well as "Gyoki Road" according to the legend that Gyoki developed this road in Nara period.

守口街道

由于其是通向奈良的道路，亦被称为“奈良街道”或“奈良道”。另外，据说该道路由奈良时代的行基所铺设，因此也被称为“行基道”。





■四條畷神社（明治二十三年創建）  
南朝方として四條畷の合戦で戦死した正行など二十五名と正行の侍を祀っています。  
地元の人々が土地やお金などを寄付し、土を運び、石を積むなど協力されました。  
四條畷市はこの神社の名が由来です。

参考文献  
・四條畷市史 第一巻  
・楠正行 田中俊資著（評伝社 一巻、五巻  
昭和五十五年、五十六年発行）

「もはやこれまで」  
葦の生い茂る中で弟の正時とお互いの腹を刺して命を絶ち、叔父の正家もそれに続ききました。時はすでに夕暮れ、飯盛山もかすんできました。

一方賢秀は必死に正行を探しましたが見あたりません。一人敵の中に紛れ込んで大将を打ち取るうとしましたが、敵に見つかり喉をつかれて、ついに首を切られてしまいました。悔しさのあまり賢秀の眼は火のように燃え相手をにらみつけたその時、かすかに正行の音が聞こえたのです。

「賢秀、僕を見失ったら逃げて郷に帰れ！」  
この時、正行二十三歳、正時二十一歳、賢秀二十二歳、寿王丸十七歳。強い絆で結ばれた若き武將たちでした。

## なわての民話

### ■雁塔物語

戦国時代初頭の文明年間という時代のこと。ある冬の初め、一人の狐師が雄の雁を射止めました。ところが不思議なことに首がどこにも見当たりません。おかしいこともあるものだなと思いつつ、いつしか忘れていきました。

そして春も近づいたある日、狐師は再び一羽の雁を射止めました。拾い上げてみると瘦せ衰えた雄の雁で、翼の下になんと雁の首を抱えているではありませんか。

狐師は冬の初めに射とめた首のない雄雁のことを思い出し、雁の夫婦の情愛の深さに身もだえして泣き崩れました。それから弓矢を折って仏門に入り、小さな菩提石を立て、線香や花を絶やさなかったといま

す。これを伝え聞いた里人が寛延二年（1749年）、牌石を建てました。これが現在、四條畷消防署北側に祀られている雁塔です。



### ■舍利吹歌音

江戸時代の中ごろ、音羽という名の、それは美しい娘がおりました。村一番の器量よしと評判の高いこの娘を、両親は宝物のように大事に育てていました。ところが不

運にも、娘は流行り病の癩瘡にかかってしまい、美しい顔は見るも無残な傷跡におおわれてしまいました。

悲嘆に暮れた娘と両親は弥勒寺の観音堂にお籠りして必死に祈願。そして満願の十日目の夜明け、夢うつつの両親の目に写ったのは、もどおりの美しい顔にもどった娘の姿でした。

親子はたいそう喜び、早速観音さまにお礼を申し上げようとお顔を見上げてびっくり仰天。観音さまのお顔には一夜にして舍利が吹き出していたのです。

観音さまはわが身を持って親子の祈りに応えられたのでした。これを聞いた村人は、誰言うともなく「舍利吹歌音」と呼ぶようになり、以来、慈悲深き観音菩薩として信仰を集めるようになったといわれています。



### ■権現の滝

ある夏のこと。当地では日照りが続き、村をあげて雨乞いしても一塊の雲も呼ぶことができませんでした。そこへ通りかかった行基というお坊さまが、里人を救おうと滝壺に衣を敷き、「雨降らせたまえ」と祈願すると、これに感応した「龍王が、一老翁となつて姿を現し、「我！民を救わん」と言う」と忽ち消えて、あら不思議、一天にわかにかき曇り、たちまち大粒の雨が大地に降りそそぎ始めたのです。

この滝は、これよりたれ言うことなく権現の滝と呼ばれるようになりました。

恵みの雨が上がつて里人が山のかなたを見晴らすと、頭と胴と尾の三つにちぎれて木にかかっている龍が。龍はわが身を裂いてまで民衆の苦しみを救ったのでしよう。人々は頭の落ちたところに龍光寺、胴体のところに龍間寺、尾のところに龍尾寺を建て、竜王の霊を弔いました。



### ■照浦の大井戸

むかし、むかし。ある暑い日に、身なりのきたないお坊さんが田原の里を通りかかったところ、村の若い娘が声をかけました。娘はとても喉が潤いている様子だったお坊さんに、村の井戸から水をくんで差し上げました。

お坊さんは、お礼を言つて立ち去り、それから数日が過ぎ、あのお坊さんが、弘法大師というとても偉いお坊さんだったことがわかりました。

それ以降、不思議なことにこの井戸の水は、どんなに日が照つても水不足の時でも枯れることがなく、冷たくおいしい水がコンコンと湧き続けました。村の娘がだれにでも親切にしていたおかげです。

村の人たちは、弘法大師様のおかげで水が枯れることのない井戸を「照浦の大井戸」と呼んで大切におまつりするようになり、現在でも、この大井戸をおまつりする「水供養」が地域の熱意で続けられています。





# まさかつら物語

660年ほど前の南北朝時代、金剛山のふもとの千早赤阪村周辺をおさめていた武將、楠木正成は延元元年（1336）、湊川の戦い（神戸）で戦死しました。正成は長男の正行に南朝方の武將として生きぬいていくよう遺言を残しました。その時、正行は十二歳でした。

## 慕われる武將に成長

楠正行は、どちらかというと体が弱かったのですが、文学や書道の才能があり、やさしい心の持ち主でした。お母さんは楠一族をまとめる武將になれるだろうかと心配して正行を勵ましながら厳しく育て、また、周りの大人からは人としての生き方を学び、特に、叔父にあたる楠正家に立派な武將になるための教育をうけて成長し、さまざまな戦いで勝利するまでになりました。



■正行が勝利した渡辺橋の合戦 正平二年（1347）十二月（渡辺橋＝大阪市東島）  
正行の戦い方は、敵の兵であつてもできるだけ殺さず退散させ、大将と直接対決して勝利することでした。  
渡辺橋の戦いでは、負傷して川に落ちた兵士や川に飛び込んで逃げようとした兵士を川から助け、治療をしました。衣類や食事を与えた上で敵軍に帰るように言いました。  
この時、助けられた寿王丸は四條畷の合戦に参加しましたが、正行の遺言に驚いて泣く泣く生き延びました。そして正行の理想をとむらいました。



■四條畷の合戦 正平三年（1348）正月五日  
北朝方の総大将高師直は京都を出発し東高野街道を南へ、南朝方の総大将正行も同じく東高野街道を北に向けて出陣。大東から四條畷にかけての地域で戦いました。  
正行は、戦いにおける世の中に生まれながら、高師直や人の命を大切にすることを重視しました。そのような人柄に敵味方なく多くの人が慕い、後に太平記が書かれた小楠公孫所ができたのです。

出陣を前にして一人の若い兵士が戦いに加わりたくて申し出ました。よく見ると渡辺橋で助けた寿王丸でした。  
「故郷の出雲に帰れと言ったではないか」「いいえ帰りません。あの時、助けていただいた命です。なんとしても正行様と運命を共にしたいのです」

族をまとめる武將になれるだろうかと心配して正行を勵ましながら厳しく育て、また、周りの大人からは人としての生き方を学び、特に、叔父にあたる楠正家に立派な武將になるための教育をうけて成長し、さまざまな戦いで勝利するまでになりました。

そのような時、京都から敵がせめてくるとの情報が入り、正行が敵を迎え撃つことになりましたが、敵軍は六万人。それに比べ正行軍は三千人。誰が見ても勝てない戦です。正行は死を覚悟して、お世話になった人や家族に別れを告げました。

寿王丸のように、敵でありながら命を助けられた多くの兵士たちが、正行のもとに集まってきたのです。

## 四條畷の合戦

正平三年（1348）正月五日、ようやく空がぼんやりと明けた頃、正行軍は敵を迎え撃つため六万寺（東大阪）から出陣。正行は母の用意した鎧形の兜と鎧を身につけ白馬「初霜」にまたがり、東高野街道を進みました。初霜は激戦を予感して気持ちが高ぶるのか頭を上へ下へとふり、鼻をブルブルと鳴らし、白く凍った息を巻き上げます。正行の通った跡には良い香りがたどられました。  
「この人のためなら命をかけて戦える」  
正行の美しく堂々とした姿に兵士の心は一つに。  
正行は、菊水の旗をにかけて進みました。正行のそばには弟の正時、叔父の正家、従



■小楠公孫所（大阪府指定史跡・天然記念物）  
若くして戦死した正行をかわいそうに思った人たちが、この場所に塚をつくり二本の楠を植えて供養しました。楠は500年以上の月日を経て一本の大樹となりました。巨大な石陣には「願従三位楠正行朝臣之墓」とあります。



■和田賢秀墓（大阪府指定史跡）  
賢秀は楠正行のいとこで鎌刀の名手でした。いつも正行と戦いを共にし、絶好の信頼を得ていました。  
四條畷の合戦で、死んでも敵のよろいを喰んで養ってきたと伝わり、南の神様として信仰されるようになりました。

兄弟の和田賢秀が。寿王丸も離れることなく従いました。正行軍は少ない人数ながら、さまざまな戦術と団結で有利に戦っていました。正行は、火を噴くような勢いで敵の総大将を打ち取りました。しかし、兜をとってみると・・・。  
「正行どの、これは総大将ではありません。大将はもっと太っております」  
と寿王丸。総大将は偽物だったのです。正行の顔は血の気がひいて真っ青でした。その時、四方八方から矢が雨のように降り注ぎ、ついに正行軍はバラバラになってしまいました。  
初霜は矢を受けて倒れ、正行は勝にあたった矢で立つこともできません。頼りにしている賢秀の姿もみえません。その上、矢が雨のように降り注ぎ、全身に矢をうけ出血がひどく意識はもうろうとして、だんだんと目もみえなくなってきました。  
正行は、寿王丸や負傷した兵士を郷に帰しました。一人でも多くの命を助けたかったのです。しかし正行は、



▲馬形輪  
高山下遺跡  
古墳時代  
市指定有形文化財  
※優しい表情に心なごみます



▲盛行木製四脚器  
瀬屋遺跡  
弥生時代  
市指定有形文化財  
※蓋は朱塗りでした器には美しい文様が彫ってあります



▲Y型製形勾玉  
城島遺跡  
弥生時代  
市指定有形文化財  
※新羅原産の貴重な石で作っています

■馬飼いの里 古墳時代  
倭国大乱を経て、国のまとまりが見られるようになり、権力者は小山のような墓（古墳）を造り、四條畷でも忍岡古墳が造られました。  
また、河内には、朝鮮半島から最新技術が伝わりました。四條畷は、馬と馬の飼育技術を伝えた渡来人やその子孫がおおぜい生活する馬飼いの里に。  
馬は軍事や通信など国づくりに欠かせない存在であり、この頃、馬飼いの人々は山楯などに古墳群を造り、人や動物の形をした埴輪が作られ古墳や村に立てました。

■米づくりと倭国大乱 弥生時代  
今から2500年ほど前、讃良川の下流に北九州から米作りが伝わりました。近畿地方で最初に米を食べたのは四條畷の人々だったでしょう。  
米づくりによって食糧が計画的に生産できるので、人口も増え大集落ができました。祀りでは、豊作を願ってまじないをし、銅鐸が鳴らされました。また、村や家族の団結を示すように大きな家族墓もつくられました。  
やがて農地や鉄製品をめぐって村同士の争いごとが増えて倭国大乱の時代へ。卑弥呼が女王になり大乱を治めるなか、四條畷では、鉄の豊富な日本海側の村と活発に交流をしていました。（倭国＝日本）

▲田原城主のキリシタン墓碑  
田原城主頼朝千光寺跡  
安土山時代  
天正九年（1581）  
大坂府指定有形文化財  
※禁教令によって寺の地に建てられていました



▲宣教師と田原城主  
安土山時代  
※洗礼を受けた田原城主は、田原レイマンと名乗りました。天正三年（1575）に頼朝千光が京都に漂泊していた際には、他のキリシタン武士とともに後援に行っていました



▲百灯明のまつり 室町〜江戸時代  
砂地区の大将軍社という神社の跡で室町時代の鏡が見つかり、創建の年代がわかりました。  
神社では血に灯明をともし奉納する百灯明というまつりが行われ、人々に厚く信仰されました。

■百灯明のまつり 室町〜江戸時代  
砂地区の大将軍社という神社の跡で室町時代の鏡が見つかり、創建の年代がわかりました。  
神社では血に灯明をともし奉納する百灯明というまつりが行われ、人々に厚く信仰されました。



▲築垣柳物及巻鐘  
頼朝千光寺跡  
（大佛堂跡）  
室町時代  
※神社の建物があった中心部分で見つかりました

■治水・水車と学問 江戸時代  
大規模な治水工事や新田開発が行われ、かつて河内湾や河内湖とよばれた地域も安定し、田畑が増えていきました。  
四條畷では室池の新田開発や、川の流れを利用した水車産業が発展し、寺小屋で読み書きを教え、教育施設も充実しました。

■歴史民俗資料館  
考古資料展示室と、明治時代の土蔵を利用した民俗資料展示室で構成され、市内出土の文化財を中心に展示しています。館内は文化財とともに当時の暮らしを再現したイラストを多数展示するなど、来館者が楽しみながら四條畷の歴史を学べるよう工夫を凝らしています。



■歴史民俗資料館  
考古資料展示室と、明治時代の土蔵を利用した民俗資料展示室で構成され、市内出土の文化財を中心に展示しています。館内は文化財とともに当時の暮らしを再現したイラストを多数展示するなど、来館者が楽しみながら四條畷の歴史を学べるよう工夫を凝らしています。



# なわての歴史

古代、四條畷の西側は、海や湖でした。今の外環状線あたりが水際だったと考えられています。いつの時代も水につかることなく、歴史が受け継がれてきました。

四條畷には、大阪府指定有形文化財や市指定有形文化財がたくさんあります。わがまちの自慢と誇りです。



▲木葉形尖頭器  
岡山南遺跡 旧石器時代  
※穂の先につけて使いました

▲ヒスイ製の釣り道具  
更夜岡山遺跡 縄文時代  
市指定有形文化財  
※儀式に使われました



▲縄文土器 深鉢  
更夜岡山遺跡  
縄文時代  
※美しい文様です  
※煮炊きに使いました

## ■危険な狩り 旧石器時代

今から2万年前の旧石器時代はとても寒く凍りついた時代で、人々は一カ所にとどまることなく獲物を追いました。ナウマンゾウやオオツノジカなど大型の動物は石でつくったやりなどで仕留めるため、接近戦となり、とても危険でした。讃良川流域でこうした道具が見つかっています。

## ■野山のめぐみ 縄文時代

温暖な気候となり、植物や小中動物が育まれ食料が豊富に。それらを煮炊きする土器や弓矢も発明されました。讃良川流域に村が点在し、豊かな生活が営まれ、野山の恵みや子孫繁栄を願う土偶・石棒やヒスイ製のものなどさまざまな祭具がみられるようになります。



▲飯盛城全景  
左：飯盛城石垣  
戦国時代  
お城の上からは、当時室町幕府の將軍がいた京都への入口から大阪平野にかけて全体を見渡すことができました。二好長慶は眼下に街道が交わる交通の要衝であったこの城を拠点にしました。

飯盛城  
掘りて長慶  
廟をきさそう



▲四條畷郷土史カルタ  
昭和五四年に四條畷中学校一年生が作成したカルタと句碑を、平成二六年に四條畷中学校の美術部と総礼作委員が、前回の絵札をもとに切り絵で作成して複製しました。市内五十カ所に再建した句碑を訪ねて楽しんで下さい。



▲青磁神燈香炉  
田原城主菩提寺千光寺跡  
鎌倉時代  
大阪府指定有形文化財  
※中国産来の高級品



▲小丸海軍軍艦墓  
飛鳥多里遺跡  
飛鳥古墳群時代  
※儀式に使いました

## ■仏教の広まりとまつり

飛鳥く平安時代  
朝鮮半島の百濟から仏教が伝わり、次々と大寺院が建立されるようになり、四條畷でも飛鳥時代に正法寺や讃良寺が建立。

奈良時代に四條畷では新しい土地区画制度の条里制が取り入れられ、鏡を使つた都と同じまつりが行われました。

平安時代になると仏教の教えを庶民にわかりやすく教える僧侶もあらわれ、あちらこちらで寺院が建立されました。

## ■続く戦国の世と飯盛城

鎌倉く安土桃山時代  
南北朝の戦いでは、四條畷で合戦があり、楠正行が戦死。その後も戦乱は止まず、地方の武士が力をつけて、天下取りをねらいました。

戦国時代の終わり頃、三好長慶が飯盛城主となり、そこを拠点に五畿内と四国の一部を支配しました。飯盛城は、石垣を使う城としては初期の頃の本格的なもので、一時期、首都的な役割を果たした日本の政治の中心でした。

## ■田原城主とキリシタン

鎌倉く安土桃山時代  
田原城は飯盛城の支城でした。田原城の北側に菩提寺の千光寺があり、初代の殿様のお墓から中国産の青磁神燈香炉が発見されています。

安土桃山時代、飯盛城下でキリスト教

## 飯盛城―戦国「天下人の城」

永禄3(1560)年、足利將軍を京都から追放し、「天下」を制した三好長慶が飯盛城に入り、ここが日本の政治の中心、「首都」となります。

飯盛城では、連歌師や宣教師らとの文化交流も盛んに行われ、三箇頼照など多くの家臣は、城内でキリスト教の洗礼を受けました。

飯盛城は、飯盛山に築かれた石垣や郭などの堅固な防御機能を備えた山城で、山頂付近からは、長慶が統治した近畿や四国を広範囲に見渡すことができました。大東市では、現在でも遺構が良好に残る飯盛城跡の国史跡指定を目指し、調査・研究に取り組んでいます。



河内飯盛城想像鳥瞰図  
(山本ゾンビ、2015年作画)



飯盛山に残る石垣



市街地から飯盛山を望む

### 飯盛城跡

城の範囲は南北約650m、東西約400mで大東市内最大の規模を誇ります。永禄3(1560)年から4年間、三好長慶の居城でした。

In 1560, a samurai warrior, Nagayoshi Miyoshi, made his way into Imori Castle after he drove the Ashikaga Shogun out of Kyoto and took over the levers of power among the "Tenka". He welcomed cross-cultural communication with people like the Renga song-makers and missionaries. Influenced by him, many of his vassals, including Yoriteru Sanga, were baptized in the castle.

The remains of Imori Castle, which still stands in fairly good condition, are now under survey and research with the hope that they will be designated as a national historic site.

Sanga Castle stood on an island in the Fukono pond. As Lord Yoriteru Sanga (also known as Sancho Sanga) became a Christian, so did many of his people under his reign. This unique phase was reported to Europe afar by missionary Luis Frois. Sanga Castle itself has not yet been discovered, and it is regarded as mysterious and deemed by many as "a phantom castle".

## 信仰と

### ともに生きて

#### 三箇キリシタンの城

深野池に浮かぶ島には三箇城があり、城主の三箇頼照(サンチヨ)の影響で領民の多くがキリスト教に帰依し、島には大きな教会も建てられました。その様子は宣教師ルイス・フロイスらによって遠くヨーロッパにまで伝えられましたが、三箇城の遺構は未だに発見されておらず、「幻の城」として人々のロマンを誘っています。



### 三好長慶 1522-1564

阿波国(現在の徳島県)に生まれ、室町幕府をしのぐ権力者となりました。海外交易やキリシタンの保護などを積極的に行ったことから、森田信長に先立つ天下人として評価されています。

三好長慶像(大徳寺・聚光院蔵)



### 三箇城址碑

三箇城は深野池に浮かぶ島にあったと推定されています。



# まちを象る歴史ロマン

**御領水路**  
昭和の時代まで御領地区の民家の裏には水路と船着き場があり、畑や田んぼまでの道の役割を果たしていました。現在では保存会で水路を整備し、田舟の乗船体験も行っています。

## 太古からはじまる自然との共存

縄文時代に生駒山麓まで広がっていた海は、徐々に水がひき、湾から湖へと変化していきます。弥生時代には、水辺に集落が形成されるようになり、古墳時代には、山際に有力者の古墳が築かれました。

江戸時代中期、大和川の付け替えと新田開発によって、今日につながる大東市の地形が形成され、農業や舟運の拠点として、「天下の台所」大坂の発展を支えました。

明治時代には、浪速鉄道（後の片町線）の開通により大阪都心部と北河内一帯との関係がより密になり、現在に続く近郊都市化に貢献しました。他にも多くの歴史的資源に恵まれた大東市では、平成27年に「歴史的資源活用基本方針」を策定し、歴史的資源の保全と活用による、まちのにぎわい創出に取り組んでいます。

### Romantic history throughout the city

In the mid-Edo era, projects were implemented in this region to reroute Yamatogawa River and develop new rice fields. As a result, the region became an agricultural and transportation hub, supporting prosperity of the great Osaka known as "The kitchen of Tenka (the Japan)". In the Meiji era, Naniwa Railway (later Katamaebi Line) started its service, which developed a closer relationship between the center Osaka and north Kawachi area. The suburban function we serve for Osaka began here. Daito, rich in many historical resources, established "Basic Policy on Utilization of Historical Resources" in 2015 to create a lively atmosphere in the community by conserving and utilizing historical resources.

1号墳  
甲冑



大阪府教育委員会所蔵・大阪府指定文化財

### 堂山古墳群

生駒山地の西方の尾根に築造された、8基からなる古墳群。出土品から、古墳時代の祭祀や他地域との交流の様子などがうかがえます。

3号墳四注式陶棺



大阪府教育委員会所蔵



**競演する大東の糺**

大東市内には、33台の地車があり、そのうち32台が毎年10月に行われる秋まつりで曳行されています。巨大な地車が通れるように市内の要所では信号機や看板を通常よりも高めに設置しています。地車を飾る彫物や飾幕は地域ごとに異なり、その見事な姿が見られるのも楽しみのひとつです。

まつりでは子どもも大人も法被をまとい、五穀豊穡を願い、お囃子の音とともに、荘厳かつ勇壮に地車を曳行します。近年では女性の参加も多くなり、伝統を引き継ぎながらも、世代を越えた地域行事として、受け継がれています。

### Residents hand down their Danjiri tradition

We have 33 four-wheeled carts (Danjiri) within the city. Thirty two of them are pulled along in the parade at the annual autumn festival in October. Each Danjiri is elaborately carved and decorated with tapestries, a dashing sight to see. Residents from children to adults in Happis (a Japanese traditional festive costume) pull the Danjiri along in the parade with musical accompaniment to wish for an abundant crop for the year. Recently, many female participants have been enjoying this parade, too, and it has been treasured by people in the community from generation to generation.



### 地車を生かした地域共働事業

歴史民俗資料館で活動する市民学芸員が、市内の地車の調査を行っています。

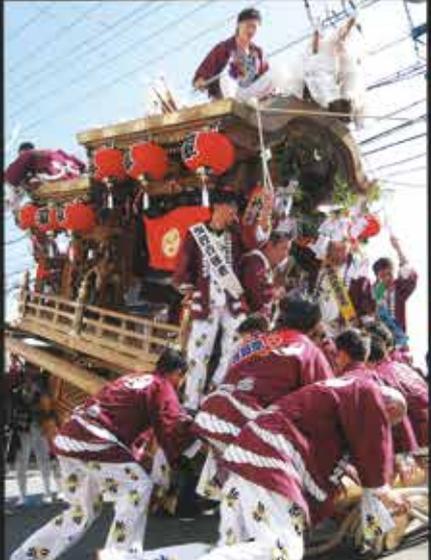




先人からの贈り物

# 地域で曳き継ぐ 誇りと願い

10月に入ると、市内各地で太鼓や鐘の音に合わせて聞こえる「ヨイイサー」や「オーサー」の掛け声。伝統と願いを受け継ぐ地車のもとで人々はともに舞い歩み、絆を深めています。





## 歴史、文化、そして

歴史あるまち東大阪は、貴重な史跡や偉大な作家の記念館、子どもたちの遊びや学習を支援する施設が充実しています。

Nurture history, culture and people

A historic city of Higashiosaka boasts of valuable historic sites, memorial museums honoring great writers and support facilities for children to play and study.

### 市内にある文化施設

**1. 鴻池新田会所** ▶ 豪商鴻池家が江戸時代に開発した新田の管江戸時代の建造物と庭園、鴻池家から寄贈された民具類を現代に数蔵等の建造物は、国の重要文化財に指定されています。

鴻池元町2-30 TEL06-6745-6409 ●開館時間/10時～16時(入館は15時30分まで) ●休館日/月館)、祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)、年末年始

**2. 郷土博物館** ▶ 古来から「かわちのくに」と呼ばれていた東大阪市年前から昭和時代までの道具や活動の跡を通じて、各時代の暮らしをみます。

上四条町18-12 TEL072-984-6341 ●開館時間/9時30分～16時30分(入館は16時まで) ●休館日/休館)、祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)、年末年始

**3. 旧河澄家** ▶ 江戸時代、日下村の庄屋を務めた旧家。数寄屋風書呼ばれる奥座敷や大きな土蔵など風格ある佇まいを観ることができ日下町7-6-39 TEL072-984-1640 ●開館時間/9時30分～16時30分 ●休館日/月曜日(祝日の場(土・日曜日の場合は開館)、年末年始

**4. 児童文化スポーツセンター「ドリーム21」** ▶ プラネタリウム、科るのびのびひろばなどがある子どものための屋内施設。さまざまなイ教室も行っています。

松原南2-7-21 TEL072-962-0211 ●開館時間/9時30分～17時(入館は16時30分まで) ●休館日/の翌日(土・日曜日、祝日の場合は開館)、年末年始



市以外の施設

**1.大阪商業大学商業史博物館** ▶ 近世大阪の商業をテーマにさまざまな歴史資料を収集・調査研究・展示・保管しています。展示資料には、蔵屋敷・市場・両替商・大阪三郷の自治制に関する古文書や千両箱、大判、小判など貴重な実物資料もあります。

御所栄町4-1-10 TEL06-6785-6139 ●開館時間／10時～16時30分 ●休館日／日曜日、祝日、創立記念日(2月15日)、年末年始、大学の休業中

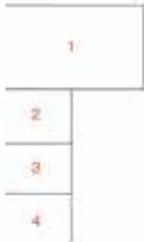
**2.田辺聖子文学館** ▶ 東大阪市内にある大阪樟蔭女子大学の前身である樟蔭女子専門学校を卒業した田辺聖子氏の偉業をたたえ、大阪樟蔭女子大学が創立90周年記念事業として開館しました。在学中の原稿や思い出の品々とともに文学世界をはじめ、人生や世界観など多様な角度から田辺聖子氏に触れることができます。

美里西4-2-26 大阪樟蔭女子大学小阪キャンパス図書館内 TEL06-6723-8182 ●開館時間／9時～17時(土曜日は16時まで) ●休館日／日曜日、祝日、大学の休業日

**3.司馬遼太郎記念館** ▶ 国民的作家であり、東大阪市の名誉市民でもある司馬遼太郎氏の功績を後世に伝えるため、司馬遼太郎氏の自宅と安藤忠雄氏の設計による建物で構成された記念館。記念館には、当時のままに残された書斎やたくさんの貴重な資料が展示されています。また、司馬遼太郎氏の命日(2月12日)である「菜の花忌」には、菜の花が飾られ、シンポジウムや講演会も開かれています。

下小阪3-11-18 TEL06-6726-3860 ●開館時間／10時～17時(入館は16時30分まで) ●休館日／月曜日(祝日、振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末年始、特別資料整理期間(9月1日～10日)

# 人を育む



理・運営を行った施設。伝えていきます。本屋、屋

曜日(祝日の場合は開館し、翌日休

の歴史を紹介。約2万ぶりに触れることができ

日／月曜日(祝日の場合は開館し、翌

院造りの「樓鶴楼」とます。

合は開館し、翌日休館)、祝日の翌日

学展示室、遊具で遊べイベントや各種の子ども

／月曜日(祝日の場合は開館)、祝日



# 豊か 自然に 抱か

生駒山麓の緑豊かで美しい自然に抱かれた東大阪市。四季折々の鮮やかな風景が市民

Blessed with full of nature

Higashiosaka, richly endowed with natural beauty at the foot of Mt. Ikoma.  
Vivid landscapes of each season add spice to citizens' daily life.

夏



## 稲田桃 (第二寝屋川堤防沿い)

見ごろ 4月上旬

江戸時代後期に稲田地区で盛んに栽培された稲田桃。平成13年に市民による「稲田桃再生栽培プロジェクト」が立ち上げられ、原木から桃の種を採取して増やし、現在は約600本がピンクの花を咲かせます。

Peach cultivation has flourished in Inada area during late Edo period. With an aim of propagation of Inada peach, "Inada Peach Reproduction Project" was launched by citizens in 2001 to take seeds from virgin trees. Currently, approximately 600 trees produce masses of pink flowers in season.

## アジサイ (ぬかた園地)

見ごろ 6月中旬～7月中旬

大阪府内で最大の規模を誇るあじさい園には、30種類以上、2万5千株ほどのアジサイが1.5kmにわたって植えられ「あじさいプロムナード」と呼ばれています。標高500mの位置にあるため、通常より2～3週間遅く見ごろを迎えます。

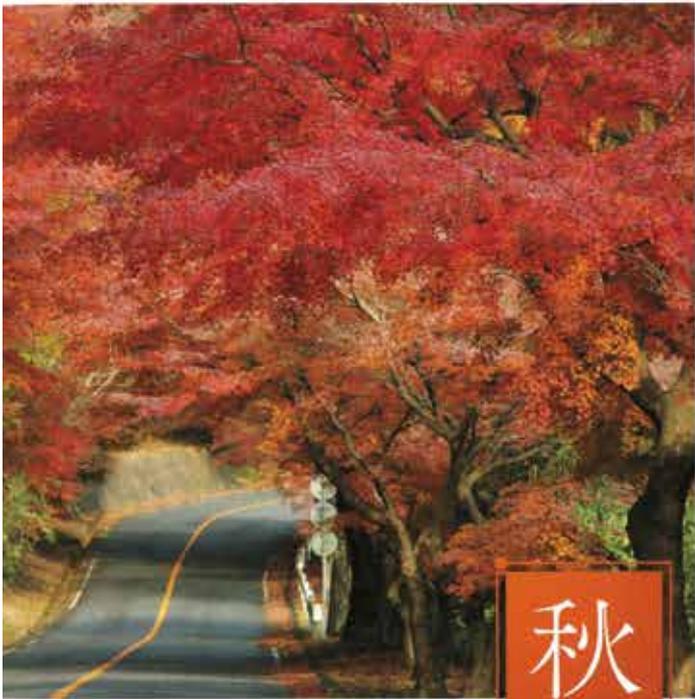
The hydrangea park, one of the largest in Osaka Prefecture, boasts of approximately 25,000 hydrangea shrubs of more than 30 types planted on the walking trail called "Ajisai (hydrangea) Promenade" for over 1.5km long. The best season to view the flowers is about 2-3 weeks later than usual as the park is located at a height of 500m above sea level.



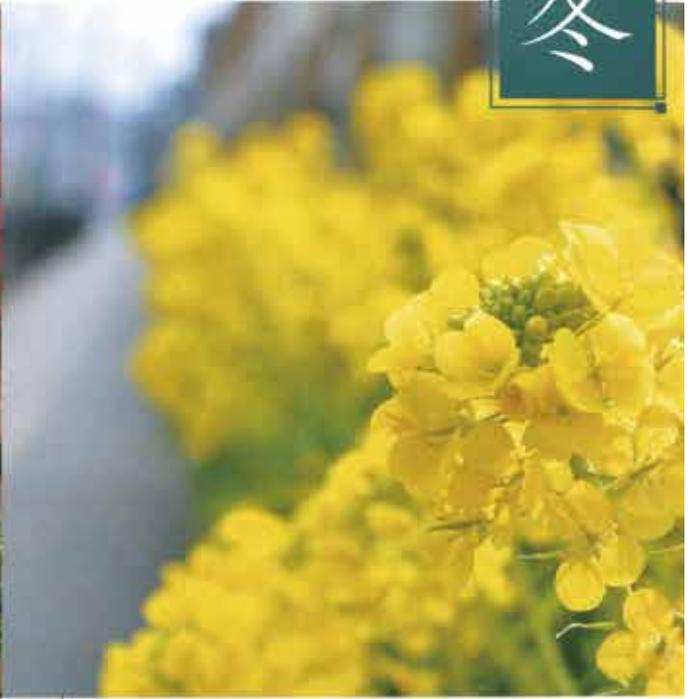
れ て

の暮らしを彩ります。

冬



秋



紅葉(生駒山)

見ごろ 11月下旬～12月上旬

緑豊かな生駒山は、秋が深まると美しい紅葉を楽しむことができます。生駒山山頂付近を南北に走る信貴生駒スカイラインでは、カーブを曲がるたびに絶景に出合えます。

In late autumn, people can enjoy beautifully colored leaves at Mt. Ikoma, a lush green mountain. Magnificent views jump to the eye when going round every curve on the "Shigi-Ikoma Skyline" road which runs north-south around the mountain top area.

菜の花(小阪・八戸ノ里周辺)

見ごろ 2月中旬～下旬

市の名誉市民である司馬遼太郎氏が好きだった菜の花。この季節になると、菜の花が司馬遼太郎記念館と小阪・八戸ノ里周辺を明るく彩ります。

Field mustard, a flower loved by Ryotaro Shiba who is an honorary citizen of Higashiosaka. At this time of year, field mustard flowers brilliantly color "Shiba Ryotaro Memorial Museum" and its neighborhood Kosaka and Yaenosato area.





情熱に舞う  
櫓太鼓の  
バチさばき



河内  
音頭

# 古の鼓動

八尾といえば河内音頭。音楽性豊かな踊りの魅力は、世代を超えて人々を熱狂させる。  
Resonance with Ancient Heartbeats  
聆听古老的心跳

## Exuberant energy spurred by joy of dancing

Yao is home to Kawachi Ondo (a local traditional song accompanying a dance). In the summer, a network of communities linked by a love for dancing and the spirit of their citizens merge into one around a high stage, forming and extending a circle of loving friendship. There, one can feel the true energy and pride for dance. Kawachi Ondo has been passed down from generation to generation with the joy of dancing and hopes for a brighter future. Community involvement and collaboration while enjoying the process demonstrates the sympathetic nature of the citizens of Yao and highlights the fascination of Kawachi Ondo.

## 欢歌起舞，热情洋溢

八尾是河内民歌舞(当地流传的歌舞)的发祥之地。每逢夏季，当地热爱舞蹈的人们欢聚在一起，带着对民歌歌舞的热爱，在这里，可以感受到汗水交辉之时的充沛活力和对舞蹈的热爱。一直以来，河内民歌舞通过舞蹈的方式传承对下一代的期望，发落在人们的心中。当地人们同声高歌，尽情享受其中乐趣，这体现了八尾人的热情，也是河内民歌舞的魅力所在。

りを愛する地域のつながりと、市民の心意気がひとつになり、櫓を中心し人情の輪が広がります。エレキギターやシンセサイザーなどによる演出も加わり、新しい感覚が研ぎ澄まされていくのも河内音頭の魅力です。その醍醐味は、いつの時代も踊る喜びと、次代への希みを託しながら、人々の心に響いています。地域の方が声を掛け合い、力を合わせながら楽しむ。これが八尾の人情の熱さであり、河内音頭の今とこれからをほぐくんでいきます。



次代へと響く  
爽快な旋律



# が響き合う

踊る喜びに沸き立つ  
本場のエネルギー

ときにはゆつたりと、ときには軽やかに音を刻む手さばき、足さばき。世代を超えて、その瞬間に湧き出るパワーこそ、踊る楽しさと受け継ぐ喜びが満ちあふれる、河内音頭の不思議な魅力です。夏場には市内各所に櫓が立ち、本場ならではの活力と、踊りへの誇りが宿っています。

地域に溶け込み愛される、音楽性豊かな河内音頭。その起源は、『八尾地蔵物語り』で名高い初日山常光寺の流し節正調河内音頭といわれています。室町時代、常光寺が再建される際に、京都から材木を八尾まで運んできたときの「木遣り音頭」が元になつたと伝えられており、昭和20年代以降は浪曲の節が多く取り入れられ、全国に知られるようになりました。

河内音頭の本場、八尾の夏。踊

## 偉大なる先人たち

Great Predecessors  
偉大なる先人



聖徳太子  
Prince Shotoku

今から1400年ほど昔、蘇我氏・聖徳太子の連合軍と、物部氏との間で崇仏戦争が起こりました。聖徳太子は四天王寺像をつくって戦勝祈願し、物部氏に勝利したことから、大聖徳軍寺を建立したといわれています。



弓削道鏡  
Yari no Doko

奈良時代の高僧・道鏡は、称徳天皇の寵愛を一身に受けた人物で、太政大臣神保から法王の位にまで昇りつめました。八尾市南部の一部は、弓削氏一族の本拠地といわれています。



在原業平  
Aizawa no Mariko

平安時代の六歌仙の一人で、情熱的な和歌を詠む歌人。神社の茶屋「福屋」の娘に恋をした彼は、「業平の高安通い(八百夜通い)」という伝説を八尾の地に残しました。百年の恋も一夜にして…、それは、いとほやかなき恋物語です。



大和川



河内木綿  
Kawachi Cotton  
河内棉布

独特の風合いと柄を今に伝える河内木綿。江戸時代、大和川付け替え後の新田開発で農家の副業として木綿栽培が始まり、全国にその名を馳せました。明治、大正と時代の流れの中でいつしかその姿を消しましたが、復元や創作など、人々の愛着は今も生きています。



久宝寺寺内町の町並み

Townscape in Kyuhoji Jinei-cho  
久宝寺寺内町の街景

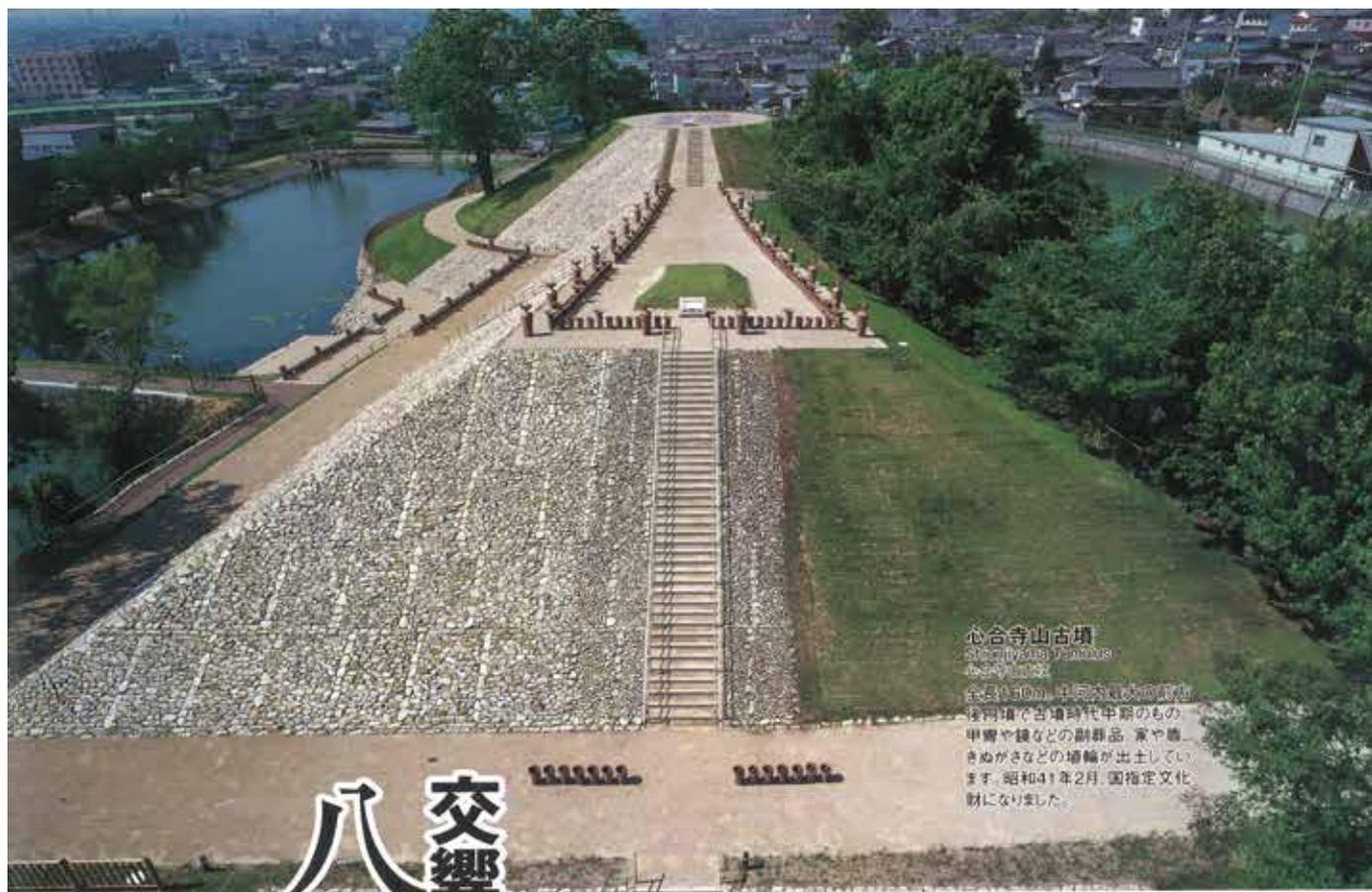
白壁やむしご窓、番盤の目のような路地など、伝統的な町並みが今も残ります。

蓮如

Rennyō  
蓮如

室町時代から戦国時代にかけて、親鸞聖人の教えを人々に説き、本願寺の興隆の礎をつけたのが蓮如上人です。久宝寺村で布教し、その盛況な様子は「釋するもの市のごとし」と記されています。久宝寺御坊として現在親しまれる御経寺の前身、西院寺を建立しました。その後、蓮如の息子実順や過海によって、久宝寺寺内町が整えられています。





**心合寺山古墳**  
Shirojima Tumulus  
全長150m、中央部に大和川を  
模した石段を有する。古墳時代中期のもの  
甲冑や鏡などの副葬品、冢や墓  
さゆがさなどの埴輪が出土してい  
ます。昭和41年2月、国指定文化  
財になりました。

# 交響史 八尾の宝

The Reverberations of History -  
The Treasures of Yao  
歴史 八尾の宝  
幾重にも時代を見つめてきた文化は、  
いつしかまちの宝となり、時の彼方へと語りかける。

## 時の記憶をたどる

高安山の後線を仰ぐなららかな田園風景の中に心合寺山古墳があります。古墳時代中期に造られた古墳は、平成13年度からの史跡整備事業によって現代にのみがえりました。

八尾市内に残る史跡は、その時代背景がうかがえる。このまちの記憶。白壁の寺内町にたえずむ自治都市の面影、近世の発展をうながした大和川をはじめとする豊かな自然と豊穡の大地。そして、計り知れない人々の力によって、八尾市の文化ははぐくまれてきました。生駒山系の西麓、遺跡に眠る古代豪族の夢のかたわらで河内平野を一望するとき、まちの創造に生きた先人の姿が写し出されます。

### Reminiscent of the Past

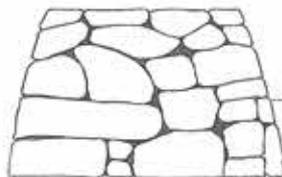
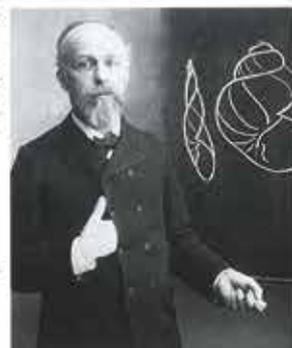
The Shirojima Tumulus, which was built in the mid-Tumulus period, has been revived in our time through the city's historical sites improvement project. The Yamato River, which has prompted the development of Yao in modern times and the old images of the city remaining in Jirai-cho suggest that the culture of Yao has been fostered by the immeasurable efforts of our predecessors.

### 追憶时光的记忆

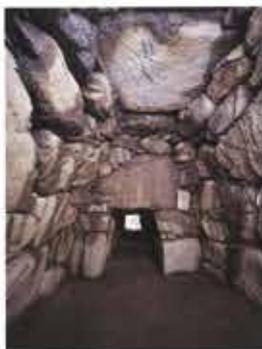
心合寺山古墳始建于古坟时代中期，通过史迹修复建设实现了现代复苏。同时，通过促进近代发展的和川和对寺内町留下的自治城市面影，还可以了解到通过人的无穷力量而绽放的八尾市文化之花。

### エドワード・S・モース(1838~1925)

Edward Sylvester Morse (1838~1925)  
日本の近代考古学における基礎を築いた人物。明治10年(1877)に来日後、多くの遺跡を調査・研究しました。そのひとつが高安古墳群の調査で、「日本におけるドルメン」という論文にその記録を残しています。



モースが描いた開山塚古墳のスケッチ



**開山塚古墳**  
Kaizenzuka Tumulus  
開山塚古墳  
古墳時代後期の古墳。高安古墳群中最大級の横穴式石室で、モースが調査したことで著名な古墳。法蔵寺の境内に良好な状態で残されています。平成16年度に市指定文化財となりました。

ベスト再発見  
がしわら

# 柏原さんぽ

## 大坂夏の陣コース

近鉄道明寺駅～近鉄河内国分駅

平成26年(2014)・平成27年(2015)は  
大坂の陣400周年

### 「大坂の陣」とは

慶長19年(1614)の大坂冬の陣、翌・慶長20年(1615)の夏の陣と、2度にわたって行われた豊臣氏と徳川氏の最終決戦。柏原市の玉手山付近では、大坂夏の陣の戦端が開かれた場所であり激戦が繰り広げられました。

### 大坂冬の陣

1614年10月～12月

- ◆ 木津川口の戦い
- ◆ 鶴野の戦い
- ◆ 今福の戦い
- ◆ 博労淵の戦い
- ◆ 野田・福島島の戦い
- ◆ 真田丸の攻防
- ◆ 本町橋の夜襲戦

和議により一時休戦

1614年12月～1615年3月末

### 大坂夏の陣

1615年4月～5月

- ◆ 紀州一揆
- ◆ 大和郡山の戦い
- ◆ 堺占領
- ◆ 櫻井の戦い
- ◆ **道明寺の戦い** (小松山の戦い) **X**
- ◆ 若江の戦い
- ◆ 八尾の戦い
- ◆ 天王寺・岡山の最終決戦



小松山の戦いの後、伊達政宗は石川を渡り、真田幸村軍と戦う。真田軍は、味方諸將の撤退理由のため真田村に前進、伊達軍の攻撃を撃退し敗走させたものの、八尾・若江方面の戦いで木村軍が壊滅したとの報告を受け、大坂城へ撤退。

徳川方 (水野勝成・伊達政宗・松平忠明軍など)  
豊臣方 (後藤基次・真田幸村軍など)

### — 道明寺の戦いで最後まで奮戦した名将 —

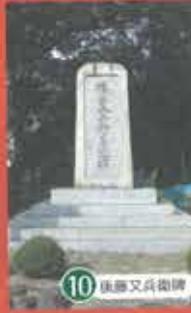
**後藤又兵衛**  
ごとう またべえ  
**基次**  
もとつぐ



福岡市博物館 所蔵

後藤又兵衛基次は、真田幸村、長宗我部盛親、毛利勝久、明石掃部とともに豊臣方の5人衆と呼ばれた1人。大坂夏の陣で豊臣方の先陣として、小松山で徳川方の水野忠明、本田忠政、松平忠明、伊達正宗軍と激闘の果て討ち死にした。

### X 道明寺の戦い (小松山の戦い)



10 後藤又兵衛陣

豊臣方は、大坂冬の陣の後、大坂城の堀を埋められてしまったため、夏の陣では城を出て戦わざるをえなかった。そこで、後藤基次は大和口から来る幕府軍が河内平野に入る前に迎え撃つ作戦を遂行し、先陣として出撃。しかし、予想より早く幕府軍が国分に到着しているのを知ると小松山に登り陣を構えた。後藤勢は孤軍ながら奮闘し、幕府軍を数度にわたり撃退。幕府軍に最後の突撃を敢行するも、伊達政宗、松平忠明らの激しい銃撃により被弾し、6時間を超える激闘の末に討ち死にした。

### 8 玉手橋



登録有形文化財

昭和3年、西日本最初の遊園地である玉手山遊園地(現在は市立玉手山公園)に通じる橋として、近鉄の前身であった大鉄が石川に架けた、長さ151m、幅約3mの鉄製の吊り橋です。五径間という日本で唯一の構造で、平成13年10月に、国の登録有形文化財となりました。



初蟬や人松陰をしたふ比

雲折りく適に青菜見ゆ玉手山

小林一茶は玉手山で俳句を2句残しています。玉手山公園内には、「初蟬や」の句を「西国紀行」の原文から複写拡大して刻んだ句碑が建っています。

柏原市ガイド



9 小林一茶の句碑

大坂夏の陣 古戦場跡 10~14

玉手山丘陵から大和川にかけての一带は、大坂夏の陣で徳川方・豊臣方が激突した古戦場です。この戦いで豊臣方を率いていた後藤又兵衛基次は傷を受けて戦騎の指揮がとれなくなり、切腹したと伝えられています。後藤又兵衛基次の碑は市立玉手山公園の中にあります。また、徳川方で討ち死にした奥田三郎右衛門、山田十郎兵衛の墓も残されています。

平成12年2月、又兵衛基次を記念して、基次が花と散った玉手山の地、市立玉手山公園内の基次の碑の横に「後藤又兵衛しだれ桜」が、市民からの寄付により植樹されました。





# 柏原さんぽ

## 柏原舟ゆかりのコース

近鉄法善寺駅～近鉄安堂駅



おすすめ  
さんぽ道

### 15 アクアロード柏原

柏原市ガイド



長瀬川沿いに親水遊歩道などが設けられており、鯉や草魚などが放流されています。両岸に植えられた柳の川面に映る風情はまた格別。平成9年に建設省(現・国土交通省)の「手づくり郷土賞」を受賞しました。

道には柏原を描いた“かるた”があるよ!

### 16 寺田家住宅

江戸時代には地域の庄屋をつとめ、また北条屋の屋号で油粕問屋や柏原舟を営業していました。主屋は約240年前に建てられたもので、敷地内にはこの他に、土蔵、米蔵、南門、東門があります。平成7年に国の登録有形文化財になりました。



登録有形文化財

### 17 三田家住宅

旧奈良街道に面し江戸時代には街道町として、また「柏原船」の拠点としてにぎわった今町にある町家。柏原船の経営に参加した三田浄久が、寛永17年(1640)、大坂伏見呉服町から柏原に移転。明和3年(1766)から5年にかけて改築した家が現在に残る三田家住宅です。昭和44年に国の重要文化財に指定されました。



国指定重要文化財

## 大和川 付替え工事と

なか じんべえ 中甚兵衛

大和川は、奈良盆地の諸流を集めて西へ向かい大阪平野へと流れ出ます。大阪平野はもともと海であった場所に、淀川や大和川などが運ぶ土砂が積み重なり平野となりました。このため、大和川と淀川が合流するまでの間には枝分かれた細かな河川が数多く、増水するたびに多大な洪水被害を引き起こしていました。

やがて「洪水の原因となる流れを逃がす川をつくり氾濫を防ぐことはできないだろうか」という考えが生まれ、「大和川を付け替えたい」という願いが広まっていきました。





Let's go

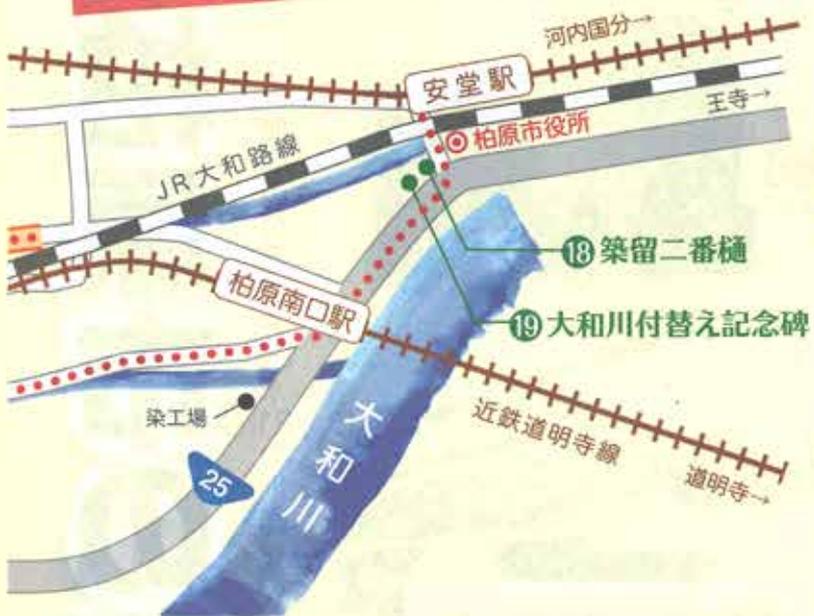
他にも「あすのさんぽ道」と  
柏原市ホームページご案内しています！  
<http://www.city.kashiwara.osaka.jp/>  
かしわらガイドマップ 検索

この橋は、明治21年頃に大和川から長瀬川農業用水路として取水する目的で築造されました。イギリス積みと呼ばれるレンガ積みのアーチ型橋門で、平成13年10月に国の登録有形文化財になりました。



登録有形文化財

柏原市ガイド



19 大和川付替え記念碑



大和川は、もともと本市から北上して淀川にそそいでいましたが、河内平野が低湿地であるため度々洪水が起こりました。これを改善するため、1704年(宝永元年)に付替え工事が行われ、本市から西、堺の方へ流れる新大和川(現在の流路)が開通しました。築留には、この付替えの功労者・中甚兵衛の銅像が建っています。

大阪ミュージアムモバイルガイド

スマートフォン片手に大阪府内のまち歩きを楽しもう！

※無償のアプリケーションソフト「ふらっと案内」をダウンロードしてご利用ください。

- 「ふらっと案内」を使うと…
- 地図いらす** 現在地から、府内の歴史的な建物などのスポットの位置がわかります。
- 書籍いらす** 各スポットには簡単な解説や、さらに詳しく知りたい方に向けた解説記事へのリンクなども掲載しています。
- まち歩きの手帳いらす** 自分だけの情報や感想もFacebook、Twitterで仲間と共有できます。

iPhoneの場合(iOS対応スマートフォン) Androidの場合  
 AppStoreから「ふらっと案内」を検索 GooglePlayから「ふらっと案内」を検索

<http://www.osaka-museum.com/>

「大阪ミュージアム構想」の最新情報はパソコンでもご覧いただけます。

このような人々の願いを汲んで立ち上がったのが、今米村(現在の東大阪市今米)の庄屋の家に生まれた**中甚兵衛**(なかじんべえ)です。甚兵衛は付替え促進派の中心として、江戸幕府に大和川付け替えや治水計画を50年近くにわたって嘆願し続けました。嘆願のたびに、新しい川筋となる村々から強い反対の声が上がり、工事は実現しませんでした。甚兵衛は多くの文書や絵図を作成して状況の改善と新田開発の有効さを訴え続けました。そして、付替え運動が下火になっていくなか、幕府は付替えを決定し、大和川は1704年(宝永元年)に今の姿に付替えられました。新しい大和川ができたことで、奈良盆地から流れて来た水の大部分は直接大阪湾へ運ばれて行き、旧大和川流域で起きていた洪水被害はほとんどなくなり、安心してすごせるようになりました。



大和川付替えの図  
(市立歴史資料館所蔵)



**中甚兵衛**(なかじんべえ)  
 付替え時66歳。翌年剃髪して乗久を名乗り、享保15年92歳の天寿を全うして永遠の眠りにつきました。



丹比柴籬宮礎石碑  
(大正8年・大阪府建立)

# 史跡・文化財紀行

まつばら歴史さんぽ

松原市域は、古代より人々が往来する交通の要衝で、古道や街道が通り貴重な史跡や文化財が数多く残されています。

上田7丁目 反正天皇 丹比柴籬宮伝承地

松原市には縄文時代以降、人々が住み続け、5世紀には反正天皇が丹比柴籬宮をおき、5年余り政治を行なったと伝わる。6世紀中葉ごろ、陵墓参考地の河内大塚山古墳がつくられたのをはじめ、国の登録有形文化財、大阪府や松原市の指定文化財など、歴史遺産が数多く残されている。

市域は、古代は河内国丹比郡に属し、のち大部分は丹北郡となり、丹南は丹南郡、河合は八上郡に属していた。明治31年以降、丹北郡は中河内郡、丹南・八上郡は南河内郡となり、中河内郡松原・天美町、三宅・布忍・恵我村が、昭和30年2月1日に合併して松原市となった。のち、32年に丹南・河合を合わせた。



北新町1丁目 大林寺 十一面観音立像

## まつばらの街道の風景

松原市域には飛鳥時代の難波大道や、竹内街道・長尾街道・住吉街道(斜向道)・中高野街道・下高野街道・古市街道といった古道が縦横に走っていました。人々は江戸時代に入って、これらの街道を利用して寺社参詣や商いなどで行き交いました。今もこれらの街道沿いには、人々の信仰を集めたお社やお堂も建ち、古い町並みを残しながら、生活道路として息づいています。



F 正定不退寺前の古市街道

### ■古市街道

#### 【ふるいちかいどう】

市域東部の大堀や小川を斜めに走る街道で、摂津平野郷と南河内の古市を結ぶ。大坂街道とも呼び、古市で竹内街道と合流する。



### ⑥ 伊勢灯籠 (いせとうろう)

小川4丁目、古市街道沿いに明治2年(1869)9月、太神宮すなわち伊勢神宮(三重県)へお参りする人々の道中安全のため、常夜燈の役目をもって建立された。花菱形製で、「太神宮(常夜燈)」と刻まれている。



### ■難波大道

#### 【なにわだいどう】

市域西部を南北直線方向に伸びる飛鳥時代の道路跡です。道路幅は19mもあり、当時の一級官道としての規模を備えたもの。

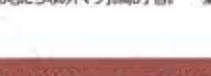
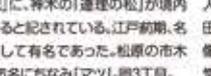
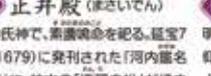
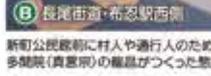
### ■下高野街道

#### 【しもこうやかいどう】

市域の西部を縦断する街道です。天王寺や住吉大社方面から至って、大阪狭山市で中高野街道と合流して高野山へ向かう。

### ② 中門の分量石

(ちゅうもんのかんりょうせき)  
南から流れてきた今井戸川が、阿保村の海原池や三宅村の大滝池に分かれる流路と、松原市上田へ向かう本流の所にあり、享和元年(1801)7月、上田と三宅村の立会いで決められた。縦高は上端まで5尺(1.51m)とある。上田1丁目。



### ① 阿保茶屋跡

(あおんちやあと)  
上田と阿保の境、中高野街道と長尾街道の交差する所は、江戸時代以降、多くの茶屋があった。阿保茶屋村ともよばれていた。明治39年(1906)5月建立の「日露戦役記念碑」も建つ。

### ■中高野街道

#### 【なかこうやかいどう】

市域中央部を南北に縦断する街道。淀川沿いの守口市・文禄堤付近から発し、河内長野市で東高野街道と合流して高野山へ向かう。

### ■住吉街道【すみよしかいどう】

中高野街道の新堂付近と長尾街道の高見の里付近を斜めに結ぶバイパス的な街道で、飛鳥時代以降の斜向道の痕跡とも考えられている。

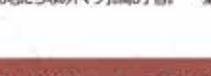
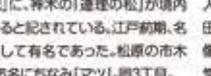
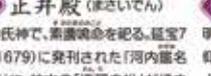
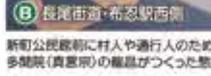
### ■斜向道【しゃこうどう】

一部は住吉街道として現在に伝わっているが、大半は、ほぼ忘却された道路となっている。

### ■長尾街道

#### 【ながおかいどう】

市域の中央を東西に走る街道。中世から近世において、堺や大坂を中心とした産業の流通や人々の伊勢詣りや熊野詣、高野詣などによって発展した街道。



### ③ 十二社権現社

(じゅうにしゃくわんげんじ)  
室町後期の永祿年間(1558~69)、権現宮によって創建されたという。もとは近くの新堂3丁目の良忠寺(真宗大谷派)前の東之坊(真言宗・真言寺)の境内に祀られていた。イザナギ・イザナミ・ミコトなどを祀る。



### ④ 正井殿

(まさいでん)  
岡の氏神で、兼盛公を祀る。延享7年(1679)に発行された「河内屋名所記」に、神木の「連理の松」が境内にあると記されている。江戸前期、名木として有名であった。松原の市木は、市名にちなみ「マツ」岡3丁目。



### ⑤ 大師堂

(たいしどう)  
明治時代後半、高野山・弘法大師信仰に基づき、岡の大師講(勧修派)の人々が高野山大講院で得度した神田覚榮師を招いて建てた。弘法大師像・不動明王像・千手観音像などが境内に祀られている。岡5丁目。



### ⑦ 竹内街道

【たけのうちかいどう】  
市域の岡や立部を東西に横断する街道。堺市大小路方面から南東斜めに下ったあと東進し、二上山の南の竹内峠を越えて葛城市の長尾神社付近に至る、日本最古の官道と呼ばれている。



E 竹内街道「緑の一里塚」・立部

※まつばらの史跡・文化財・街道についてより詳しく知るには、市制施行60周年記念「松原歴史ウォーク」(北東・南東・南西・北西コースの4巻)松原市発行、2015年を参考してください。(問合せ:松原市役所5階 教育委員会文化財課)

まつばら歴史さんぽ

## 「史跡・文化財紀行」

### 歴史と文化にふれる街歩き

松原市域には歴史上、興味深い史跡・文化財が数多く残されています。各街道ごとに“さんぽ”のモデルコースを示しました。それぞれに組み合わせて楽しんでください。

#### 【大阪府、松原市の指定有形文化財】

【大阪府指定有形文化財(本殿)】

【松原市指定有形文化財(布忍八景扁額)】

#### 1 布忍神社 (ぬのせじんじや)

素戔嗚命などが祀られている。大阪府指定有形文化財に指定されている本殿は、江戸時代初期の一間社流造。狩野派の唐獅子給もある。拝殿内の宝永2年(1705)の「布忍八景扁額」(6枚)は市指定有形文化財。北新町2丁目。



【大阪府指定天然記念物(いぶきの木)】

#### 2 来迎寺と丹南藤陣屋址 (きようごうじ)

奈良時代に行基が創建したという。后醍醐天皇、丹南藤1万石が築りにおかれ、丹南藤主の菩提寺となり、初代高木正次などの五輪塔がある。境内のいぶきの木は府指定天然記念物。丹南3丁目。



【松原市指定有形文化財(十一面観音立像)】

#### 3 大林寺 (たいりんじ)

西除川に架かる宮橋東詰にある。融通念仏宗で、河内西国第5番當麻である。市指定有形文化財の平安時代後期の十一面観音立像を安置する。本像は古代寺院の由緒をもつ布忍寺の本尊。北新町1丁目。



【松原市指定有形文化財(教如上人消息)】

#### 4 栄久寺 (えいきうじ)

真宗大谷派。本堂の内障り外障は天保7年(1836)上棟当時のもの。天正8年(1580)の「教如上人消息」があり、東本願寺を創始した教如が大坂合戦時、河内の門徒うに出したものの。立部1丁目。



#### ■下高野街道さんぽコース

河内天美駅—嶋田家住宅—阿麻美許曾神社—我堂八幡宮—西除川遊歩道—布忍神社—大林寺—田中家住宅(南新町)—尻池記念碑—河合神社—田中家住宅(高見の里)—高見ノ里駅(約8km)

#### ■長尾街道さんぽコース

布忍駅—大林寺—布忍神社—更池村 惣井戸—田中家住宅(南新町)—田坐神社—ちちかみばし道標—中門の分置石—阿保茶屋跡—丹比柴屋宮跡(柴屋神社)—河内大塚山古墳—河内松原駅(約6km)

#### 5 阿麻美許曾神社 (あまみこそじんじや)

素戔嗚命を祀る。延喜式内社。大同年間(806~809)の創建で、天美地区の城連寺。池内・油上・芝の氏神。明治初年まで神宮寺があった。「行基菩薩安住之地」の碑が建つ。



#### 6 嶋田家住宅 (しまだけじゅうたく)

天美東8丁目に所在する嶋田家住宅は、江戸時代に建てられた主屋をはじめ、明治時代の建物が優れた近代建築として評価され、平成26年10月、国の登録有形文化財となった。



#### 7 我堂八幡宮 (がどうはちまんぐう)

我堂八幡宮は応神天皇を祭神とし、厄除宮として有名。江戸時代から昭和初期にかけて若者が力懸べをした力石・八幡石・明治石・龍王石・金剛石と記す力石が残っている。天美我堂4丁目。



#### 8 田中家住宅 (たなかけじゅうたく)

南新町1丁目に所在する田中家住宅は、主屋は宝永6年(1709)の建築。文政年間(1818~29)に大増改築を行い、長屋門も建て替えられた。のち、主屋の屋根は茅から瓦に葺き替えられた。



#### 9 田坐神社 (たざじんじや)

延喜式内社。兵衛・漢羅などを祀る。明治41年(1908)3月、上田の柴屋神社に合祀されたが、昭和60年(1985)4月に再び旧社地に祀られた。武内宿禰が応神天皇を括く大船馬がある。田井城5丁目。





## 印の神社は「開運松原六社参り」社

開運松原六社参りとは、松原市内5座と天美地区の氏神である旧天見郷(現大阪市)1座をあわせて6座の神社を、元旦から15日までの間に参詣する行事。期間内に6座を参詣すれば、六社参拝記念の「開運干支張り子」を授かる。

### 15 深居神社 (ふかいじんじや)

奈良時代の養老元年(717)の創建と伝え、品陀別命(応神天皇)を祀っている。寛政5年(1793)をはじめとする多くの給馬が拜殿天井に掲げられている。境内は古墳の可能性もある。小川5丁目。



### 16 若林神社 (わかばやしじんじや)

品陀別命を祀る。鎌倉末期の元弘~建武年間(1331~37)に、深居神社から分祀されたと伝える。若林は戦国時代、戦場の舞台となるが、若林神社付近が陣取場と思われる。若林1丁目。



### 17 巖島神社 (いつくしまじんじや)

并耐天を祀る。境内は一部、濠が残り、鳥居の建つ西側が方形で、東側の本殿が小高い円丘上に建つことから、6世紀前後の前方後円墳ではないかと推察される。戦国時代には濠もつくられた。一津屋5丁目。



### 18 北山橋庵墓 (きたやまきつあんはか)

北山橋庵(1731~91)は一津屋村の医者であり、丹南藩主や狭山藩主、岸和田藩主の診察もした。漢学者・漢詩人としても有名。北山家一族の墓石が並んでいる。一津屋5丁目。



### 19 田中家住宅 (たなかけしゅうたく)

高見の里3丁目に所在する田中家住宅は、明治初期の農家建築で、主屋は町屋風の入母屋造、椽瓦葺。外壁には虫籠窓風の開口がしつらえられている。住宅前に「田中左近衛記功碑」(大正15年5月)が建つ。



### 20 柴籬神社 (しばがきじんじや)

5世紀末、24代仁賢天皇の勅命で創建されたと伝える。社地は18代反正天皇の丹比柴籬宮の伝承地とされる。江戸前期には井原西鶴も訪れ、柴籬宮の歌を詠んだ。徳神社も有名。上田7丁目。



### 21 河内大塚山古墳 (かわちおおつかやまこふん)

松原市の東部の西大塚1丁目に位置する巨大古墳。6世紀中葉ごろの築造。墳丘長335m、前方部幅230m、後円部直径185mを誇る前方後円墳。墳丘長では、全国で5番目に大きい前方後円墳。陵墓参考地。



### 22 王仁の聖堂址 (わにのせいどうあと)

4世紀末の応神天皇の時に百濟から、わが国に「論語」や「千字文」を伝えた渡来人の王仁が孔子を祀る聖堂を建てたという。江戸中期「河内志」に記載されてから、わが国学問発祥の地として広まる。岡1丁目。



### 23 丹南天満宮 (たんなんてんまんくう)

一間社流造の本殿は安土桃山時代の流れをくむ。徳川・豊臣方が戦った大坂夏の陣(1615年)で焼かれたが、まもなく再建された。菅原道真などを祭神とする。丹南藩陣屋や来迎寺に隣接し、丹南藩主高木氏も信仰したという。丹南3丁目。



### 24 河合神社 (かわいじんじや)

素戔嗚命を祀る。境内に元文5年(1740)8月16日「牛頭天王宮」と刻まれた手洗石が残る。一時、金岡神社(堺市)に合祀されていた。毎年10月の秋祭りには勇壮なだんじりが町内を練り歩く。河合3丁目。



※各住宅は、現在もお住まいですので、敷地及び建物の見学はできません。

菅原道真をまつり  
ゆかりの品々が宿る

# 道明寺天満宮

どうみょうじてんまんぐう



伯牙琴琴鏡(国宝)  
銅製の八花形の鏡。中国古代の琴の名手伯牙と鳳凰が表現されている。



青白磁内鏡(国宝)  
外面にやや青みを帯びた白釉のかかる円形の鏡。中国唐の官窯で焼かれた直径27cmの大型のもので、もとは20本の脚によって支えられていた。



外観  
本殿は本殿・幣殿・拜殿の構造からなる権現造り。創建年代は詳しくはわからないが、江戸時代初期に建てられ、中頃に移築されたといわれている。

道真公が偲ばれる

**道**明寺天満宮は、もと上師氏の氏神として創建され、現在では天穂日命、菅原道真、覚寿尼を祀っています。平安時代に土師氏の族であった道真は、延喜3年(903)に九州の太宰府で死去。道真の霊を慰めるために天曆元年(947)、道真の残した自作の像を祀ったのがこの神社のはじまりといわれます。宝物館には、道真の遺品が展示されています。道明寺は蓮上山と号し、真言宗の尼寺です。土師氏の氏寺として、7世紀中頃に建立されたと考えられます。建立当初は、道明寺天満宮の南方の参道付近に位置し、現在でも参道の西側に巨大な塔心礎が残っています。平安時代には、道真の叔母覚寿尼がこの寺に住んでいて、道真が度々この寺を訪れたことが伝えられています。

道真の叔母  
覚寿尼が住んだ寺

# 道明寺

どうみょうじ



山門としたれ桜  
枝が四方に拡がり、長い垂れ枝に無数の花を咲かせるしたれ桜。花色は濃紅で、山門と青空を背景にした、開花期の景観は詩情たっぷり。



十一面観音菩薩立像(国宝)  
像高1m。袖の一本通り。木肌のまま仕上げた権像彫刻。



きつめく遺産

Our Heritage

# 受け継ぐ宝

たから

人々の信仰を集めてきた社寺。古より先人たちが残した遺産が現代へと受け継がれ、まちの宝となっています。

## 信仰を集める観音霊場

**葛**

井寺は、紫雲山三寶院剛琳寺と号し、剛琳寺ともいいます。百済系王氏の子孫である葛井連の氏寺として、7世紀後半の白鳳時代に建立されました。真言宗御室派に属し、平安時代後半には、観音霊場として知られるようになり、江戸時代から西国三十三か所観音霊場の第五番札所として人々の信仰を集めています。寺蔵の古絵図や『河内名所図会』から見ると、東西に塔をもつ薬師寺式の伽藍配置をとっていたことが知られます。「藤井寺」の地名は、のちに大和在住の藤井安基という人が葛井寺の荒廃を嘆き、その復興に尽力したことから生まれたといえます。



千手観音坐像 (国宝)

像高約1.5mの本尊は頭上に十一面を頂き、千本あまりの手を光背のように彫作っている。天平時代の円熟しきった技巧が発揮された脱活乾漆造りの傑作。

かしら

## 葛井寺

「藤井寺」の地名の原点となった寺



外観

朱塗りの南大門から入ると石畳の道が本堂に導く。駅前の商店街に抜ける西門は、重文の四脚門(豊臣秀頼寄進)である。藤の名所としても知られる。





受け継ぐ宝

きざりめく遺産

こういせき

国府遺跡

貴重な遺構が複合する



縄文 珠状耳飾り



縄紋土器

旧石器時代の成果のみならず、縄紋・弥生時代の人骨の出土など古くから注目されている。また、飛鳥時代には日本最古の寺院の一つである衣懸堂寺が建てられるなど、貴重な遺構が複合する遺跡である。

歴史を語り継ぐ

藤

井寺市には、古市古墳群をはじめとして数々の歴史遺産や、葛井寺、道明寺天満宮など有名な寺社があります。国府遺跡は、縄紋時代より古い旧石器時代の石器が出土したり、河内国の役所「河内国府」が置かれていたり、貴重な遺構が複

合していることから、古代からの人々の生活を知ることができます。また、社寺では韓国の文字での表記もあり、往時、大陸との交流が深かった辛國神社、秘仏の二光三尊仏がある善光寺などがあり、二つひとつの遺跡や社寺は、歴史の興味やロマンを呼び起こします。

辛國神社

からくにしんじや

往古は韓国の文字で表記した



平安時代の文献にも記載のある古い神社で、物部の祖を祀ったことに始まる。室町時代には春日の神を合祀し、春日丘にその名が残る。後、明治時代には長野神社を合祀。

善光寺

せんこうじ

僧宗珍が現在の小山に再建した



寺伝によると、もともと津堂の字善光寺屋敷にあったが消失し、慶長年間に僧宗珍が現在の小山に再建したといわれる。

## はびきの略史

縄文・弥生時代  
約2万年前 翠鳥園遺跡で石器を作る  
旧石器時代

古墳時代  
西浦銅鐻が使われる  
約2千年前 滅山遺跡に集落ができる  
伊賀遺跡で土器棺を埋める  
株山遺跡で石器を作る

五世紀  
古市に古墳群が築か始める  
庭鳥塚古墳が築かれる

六世紀  
飛鳥・阿ヶ谷に群集墳が築かれる  
峯ヶ塚古墳が築かれる  
白鳥塚古墳が築かれる  
志神陵古墳が築かれる

六六六  
野中寺が創建される  
西琳寺が創建される  
観音塚古墳が築かれる  
丹比道が整備される

七二九  
東阪田遺跡に集落ができる  
古市で天守の瑞竜が見つかると  
道阻が初めて火葬される

七〇〇  
（弥勒菩薩像の紀年銘）  
野中寺が創建される

一〇四三  
源賴信が河内国司となる

一〇二〇  
源賴信が河内国司となる

一〇一五  
菅田八幡宮が現在の地へ移る  
前九年の役で河内源氏が活躍する  
通法寺が建立される

一〇〇二  
源賴信が河内国司となる

一〇〇一  
菅田八幡宮が現在の地へ移る  
前九年の役で河内源氏が活躍する  
通法寺が建立される

一〇〇〇  
菅田八幡宮が現在の地へ移る  
前九年の役で河内源氏が活躍する  
通法寺が建立される

翠鳥園遺跡



西浦銅鐻



庭鳥塚古墳・三角縁神獣鏡



高屋城絵図



古市古墳群の中心となる志神陵古墳。盛り土の量は大型ダンプカーで約17万台分。日本一を誇ります。



## 大王が眠るまち

金銅透彫鞍金具（国宝）は志神陵古墳の陪塚である丸山古墳から江戸時代に見つかりました。精巧な製作技術は目を見張るものがあります。

## トピックス“道輪馬の伝承”

田辺史伯孫の娘が古市に嫁ぎ、子供が生まれたお祝いの帰り道、菅田の近くで赤馬に乗った武士に出会いました。すばらしい馬だったので、自分の馬と取り替えて乗り、馬屋につなぎました。翌朝、楽しみに見に行く赤馬は道輪に変わっていて、不思議に思い昨夜の所へ戻ると、道輪馬に混じって自分の馬が草を食べていたという伝承があります。



南北4km、東西3.5kmの範囲に120基以上の古墳が集中する古市古墳群。大王墓と考えられる巨大な前方後円墳が密集し、4世紀末から6世紀にかけて古墳が次々と築かれました。

応神天皇を祀る菅田八幡宮は、当初は古墳の上に祠が築かれ、日本最古の八幡宮と言われていました。平安時代のはじめに今の場所に移され、多くの人々の信仰を集めています。



## 人・時をつないできた先人の足跡の数々

羽曳野市は大阪府の南東部に位置し、金剛、葛城の山並みを仰ぎ、石川が緩やかに流れる水と緑に恵まれた自然豊かなところです。二上山をはさんで古代の都があった大和（奈良県）と接していることから、古くから大陸と都を結ぶ重要な地域となりました。そして、人々の往来が盛んとなり、文化が早くから根付いた地域となりました。特に、古墳時代や飛鳥時代には渡来人によって大陸文化が大きく華ひらきました。

私たちの祖先はいつの時代も最先端の文化と情報を発信してきました。すぐれた国際的感覚を育み、独創性と協調性を合わせ持つてその歴史を受け継いで来ました。

今 私たちはこれらの歴史遺産を活かした街づくりを進めています。

- 一九五九 羽曳野市誕生
- 一九五六 2町4村が合併、南大阪町となる
- 西浦、丹比村ができる
- 一九八八 古市、高鷲、植生、駒ヶ谷古市がにぎわう
- 八世紀 大和川、大乗川付替え
- 七〇四 石川の剣先船が丹運する
- 七世紀 吉村家住宅が建築される
- 六一五 菅田八幡宮が再建される
- 一六〇六
- 江戸時代
- 一五七五 織田信長が古市、高屋城を焼討する
- その後 高屋城は焼失、復興を遂げず

吉村家住宅



史跡牽ヶ塚古墳は整備に伴う調査によって墳丘の大きさや構造が明らかになりました。見つかった多くの遺物などから5世紀末頃に築かれたと考えられ、大王墓の一端を知る事ができます。



金、銀に輝く副葬品の数々。アクセサリーをはじめ、花形飾りや三叉形垂れ飾りなど3,500点以上の副葬品が見つかりました。これらは当時の最先端の文化や技術を駆使したものです。

### 甦った古代のかがやき

石室西側で見つかった大刀は豪華な刀装具で飾られ、魚佩や鈴などが伴います。明らかに儀礼用のもので、王家のシンボルである玉織大刀のルーツと考えられます。



後円部墳頂で見つかった石室は盗掘で多くの石が抜き取られていました。



金銅製魚佩は全部で3セット見つかりました。うろこやひれなどを彫金でリアルに表現し、目には青いガラス玉をはめ込んだ精巧なもので、類例がありません。





弥勒菩薩像（重要文化財）は天皇の病気の回復を願って造られました。台座には創建年の参考となる「丙寅」（666年）の年号が刻まれています。



塔の柱を受ける柱穴は三方に添え木穴がある珍しい形をしています。表面には東を向いた亀が彫刻され、野中寺の亀石として親しまれています。



野中寺は寺伝によると聖徳太子の命によって創建され、「中の太子」と呼ばれています。境内の整備に伴う発掘調査で、たくさんの瓦が出土しました。特に「庚戌年」（650年）とヘラ描きされた瓦は創建年代を決める手がかりとなります。



年号の刻まれた瓦と様々な模様の軒瓦



西琳寺は7世紀初めに、有力な渡来系氏族であった西文氏によって創建されました。西文氏は文筆、記録、外交に優れた氏族でした。発掘成果から当時の社人伽藍が復元されます。

## 華ひらく仏教文化



推定26t。境内には当時の伽藍を偲ぶ巨大な塔心礎があります。



磚尾は旧境内の発掘調査で見つかり、ほぼ完全な形に復元されました。豊かな装飾が施されています(市指定文化財)。

### 文化財に親しみ、触れ、学ぶ。

私たち羽曳野市民は数々の歴史遺産を誇りとし、護り、次世代に引き継ぎます。

こうした豊かな歴史が育まれた郷土“はびきの”を愛しています。



歴史街道ウォーク



整理作業の体験学習（拓本）



古墳の現地説明会



## 日本史舞台の主人公“はびきの”

私たちの祖先は約2万年前にはすでに生活を営んでいました。翠鳥園遺跡ではサヌカイトと呼ばれる硬い石で石器を作る人々の活動が明らかにされました。弥生時代にはサヌカイトを矢尻や剣などの武器を作る集団が城山遺跡などに住もう一方、西浦銅鐸を使った人々の活躍の場となりました。古墳時代にはそれまでにない巨大な墓が築かれます。特に、5世紀中頃には応神陵古墳をはじめ、大王墓と考えられる巨大な前方後円墳が次々と築かれました。仏教文化が華開いた飛鳥時代には、渡来系氏族によって荘厳な寺院が創建されます。優美な姿の瑞尾が復元された西琳寺、弥勒菩薩像を秘仏とする野中寺などがその代表です。

平安時代後半には源頼信が河内国司として壺井に住まい、頼義・義家もここを拠点とします。彼らは河内源氏と呼ばれ、壺井八幡宮や通法寺を建てます。その手腕は鎌倉幕府を開いた源頼朝に受継がれました。また、室町時代には畠山義就らが古市に当時最大級の高屋城を築きました。江戸時代には河内木綿の栽培が盛んとなり、庶民生活は活気を取り戻します。古市は竹内街道と東高野街道が交差し、石川を剣先船が行き交うなど、交通と経済の拠点として賑わいをみせます。この他、現在まで続く歴史遺産の数々は、羽曳野市の歴史を知るだけでなく、日本史を考える上でもたいへん重要な“主人公”と言えます。

### 活躍する武士集団 河内源氏



境内にあるクスノキ（府天然記念物）は源氏三代を祀る記念に植えたと伝えられています。今、“トトロの木”として親しまれています。



武士団の棟梁として活躍した頼義は仏教に帰依し、通法寺本堂の下に葬られました。父頼信と子義家は南方の丘の上に葬られました。



通法寺は源頼義が山中で拾った仏像を祀ったことにはじまります。その後、河内源氏の菩提寺となりました。南北朝に焼失し江戸時代に再建されましたが、今は山門と鐘楼、本堂の礎石が残っています（国史跡）。



壺井八幡宮は、源頼義が東北遠征からの帰りに、石清水八幡の神霊を私宅の東に祀ったことに始まります。また、西側には義家の五男・義時が源氏三代などを祀った権現社があります（府指定文化財）。



源義家が愛用したとされる鎧（重要文化財）



1. 真正寺別院
2. 葛原第三階堂
3. 「あてまけのみち」の道標
4. 旧杉山家住宅
5. じないまち交流館



## Developed as the center of the southern Kawachi area

In Jinaimachi, which is a type of religious township, an investigation of town houses by academics began in 1955. In 1997, Jinaimachi was designated as a nationally important preservation district for traditional buildings. The area originated from the reclamation of waste land called "Tonda-no-shibe (literally the grass plot of Tonda) by Shoshu-shonin, the 16th head priest of Kosho-ji Temple in Kyoto in the mid-16th century, which led to the establishment of Jinaimachi through cooperation between the temple and the merchants in the town (Mocheshu). In recent years, "Jyounomon-suji," which is a street running north and south across Jinaimachi, was selected as one of the "Top 100 Streets of Japan" in 1986 and the entire Jinaimachi area was selected as one of the "Top 100 Beautiful Historical Climates of Japan" in 2007. In addition, "Jinaimachi Koryukan" opened in 2006 and has become a place to obtain information and for exchanges between citizens. In the future, we will push ahead with the improvement and conservation of the landscape in order to maintain it for posterity.

## 明星派の歌人 石上 露子 (1882~1959)



旧杉山家住宅は石上露子(本名杉山タカ)の生家です。露子は杉山家の長女として明治15(1882)年に生まれ、昭和34(1959)年に77歳で亡くなりました。20歳で小説「宵暗」を「婦女世界」に寄稿したのを皮切りに、生涯、短歌・詩・小説を数多く発表しました。そのなかでも明治40(1907)年12月号の「明星」に発表された詩「小板橋」は、絶唱といわれています。



## 河内名所図絵の版本

江戸時代の享和元(1801)年に発刊。当時の河内地方各地の名所を記したもので、そこに基ずく人々の生活やまちなかの景観が絵と文章で記されています。



自治都市の歴史



# 富田林寺内町

Jinrai-machi of Tondabayashi

町全体を寺院の境内と見なした宗教自治都市  
時代を超えて住民の知恵と努力で繁栄を続けてきました

創建、永禄年間 南河内地域の中心地として発展

寺内町は、昭和30(1955)年に学識経験者による町家調査が始まり、その後文化庁による建造物調査などを経て、平成9年10月31日に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。原点は16世紀中頃の永禄年間、京都興正寺の第16世、証秀上人による「富田の芝」という荒地の開拓です。そして寺と町衆の協力により寺内町が誕生しました。

寺内町の道路は、ほとんど直交しておらず、「あてまげ」といわれるように、少しずらすことで見通しを妨げています。このように戦国時代を生き抜いてきた知恵が随所に見られます。江戸時代には幕府の直轄地となり、「在郷町」として大きな

発展を遂げました。明治時代には郡役場や税務署、旧制中学校、高等女学校などの施設が整備され、南河内地域の中心地として発展しました。

近年では、昭和61(1986)年に寺内町を南北に通る「城之門筋」が「日本の道100選」に、平成19年には、町全体が「美しい日本の歴史的風土100選」に選ばれました。また、平成18年には「J」ないまち交流館」が、平成22年4月には「J」ないまち展望広場」が開館し、寺内町を訪れる人々へのさまざまな情報提供や市民の交流の場となっています。この優れた景観を後世に伝えていくためにも、今後も景観の整備保存を進めていきます。

▼河内名所図絵





**美具久留御魂神社**

天神天皇がこの地ゆかりの天國生命を祀ったのが始まりとされ、「大阪みどりの百選」に選ばれており、静かで深い緑に包まれています。

近代のものでは、「葛原家住宅主屋、倉庫」「中内眼科医院」「桃花塾本館、教室棟」「川西小学校教育歴史資料室」などの大正や昭和初期の建築物が、歴史的に価値あるものとして国の登録有形文化財とみられています。

また、錦織神社については、平成15年から16年にかけて大規模な保全修理が行われ、現在は建立当時の漆塗りの華麗な彩色がよみがえっています。

文化財は、一度失われると元には戻りません。失われる前に少しでも早く、文化財の保存、活用を図ることで、市内に現存する貴重な文化財の数々を通じて脈々と受け継がれてきた富田林市の歴史を、現在そして未来に伝えていくことができます。



**瀬谷不動明王寺**

日本三不動のひとつ。弘仁12(821)年に弘法大師が創建したと伝えられ、本尊の不動明王像は両脇の二童子立像とともに国の重要文化財指定を受けています。



**桶巖庵観音寺**

楠公夫人が、夫・正成を淡川の戦いで、子・正行を四条堀の戦いで失った後に出家し、草庵を結んで一族の冥福を祈ったとされることです。



**龍泉寺**

眉山中腹にあり、新技術子の創建で弘法大師が中興したとされる古寺。仁王門は国の重要文化財に、境内の庭園は国の名勝に指定されています。



**新堂庵寺跡**

創建時の側面配置は四天王寺式ですが、その後、その東西の回廊に大型建物が取り付く独特のものであったことが最近の発掘調査でわかりました。

**足跡の化石**



**アケボノゾウ骨格のレプリカ**

平成元年8月、石川の河床からアケボノゾウの足跡化石を発見。およそ100万年前に生息していたゾウの仲間。肩長短足、長く湾曲したキバを持っています。

**アケボノゾウのキバの化石**

昭和56(1981)年、市西部丘陵地で一対を発見。ナウマンゾウより古い時代に生息していたゾウで、全国でも数少ない化石です。





錦織神社

古代に錦部郷と呼ばれたこの地の守護神を祀ったとされ、本殿の唐破風と千鳥破風を組み合わせた独特の様式は国の重要文化財指定を受けています。

# 歴史的遺産

Historical Legacies



現在にたたずむ富田林の歴史

点在する文化財や遺跡の数々から学ぶ  
先人の暮らしと技術

富田林市では先史時代より人々の暮らしが営まれ、弥生時代には二上山周辺から産出されるサヌカイトを利用した石器が喜志地区や中野地区において大量に生産され、交易を通じて近畿地方に広く流通していたものと思われまます。また、石川を望む丘陵上には、流域に繁栄したであろう氏族の首長たちの古墳が数多く造営されています。飛鳥時代前半創建の古代寺院跡である新堂廃寺跡の北西には、瓦窯跡（オガシジ池瓦窯跡）と終末期古墳（お亀石古墳）があります。

墳があり、いずれも寺院のものと同じ瓦が見つかったことから、互いに深いかかわりがあったことが想定されます。平安時代には、「延喜式神名帳」にも記載される美具久留御魂神社や佐備神社、また、「目の神様」として広く信仰されている瀬谷不動明王寺が、室町時代には錦織神社が創建されています。以後時代を追っていくと、11世紀末制作の瀬谷不動明王像と両脇の二童子立像、14世紀制作の板持共同墓地にある十三重層塔などがあります。



お亀石古墳

オガシジ池北側の丘陵に残る方墳。地表に露出している石椁の上部が亀に見えるため、こう呼ばれています。内部は、横口式石椁と羨道との組み合わせからなり、横穴式石室のような玄室がないのが特徴です。

Learning from the many cultural properties and remains

There are many historical legacies in Tondabayashi, including stone tools and ancient tombs from and after the Yayoi period (between the mid-10th century BC and the mid-3rd century), the remains of Shindohai-ji Temple founded in the first half of the Asuka period (592 - 694) and Migukurumitama-jinja Shrine founded in the Heian period (794 - 1192). As for Nishikiori-jinja Shrine founded in the Muromachi period (1338 - 1573), the colors of the lacquer coating applied at the time it was established have been reproduced after being repaired and maintained. Through conserving cultural properties and making use of them, we can inherit the history of Tondabayashi and preserve it for the future.

## History Of Sayama

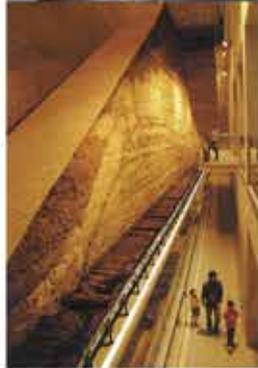


### 大阪府立狭山池博物館

平成13年に開館した、世界でも珍しい土木技術史・土地開発史の専門博物館。建築家の安藤忠雄氏の設計で、流れ落ちる水の音や水しぶきを感じることで「水庭」など、水をイメージした建物となっている。

(写真上)「水庭」。高さ10メートル、幅60メートルの水の滝が水鏡をはさんで流れ落ち、訪れた人は水との一体感を感じることができる。

(写真下)狭山池堤の断面。高さ15.4メートル、奥行きは62メートルの巨大なもの。



### 旧取水塔

およそ60年間、狭山池の取水設備として活躍した旧取水塔は、現在、狭山池博物館内に移設展示されています。



### 狭山池ととも

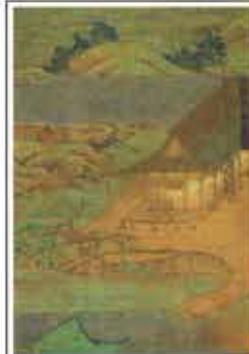
長い歴史の中で、たくさんの恵みを与えてくれた狭山池。現在は、カルガモやコサギ、カワセミなどの野鳥や水生動物がたくさん見られます。北堤では、桜並木を復活させる植樹が行われ、狭山池周辺には絶滅危惧I類に指定されているシルビアアシジミを含め、たくさんの蝶を観察することができます。これら、豊かな自然を守り、育て、美しい狭山池を未来に伝えていくことはわたしたちの務めでもあります。

「橋」：池から水を導き送る長い管のこと。

### 狭山池院

(狭原寺所蔵)

三間五面の入母屋造(いりもやづくり)の狭山池院と狭山池が描かれている。狭山池を描いた絵巻では最古のもので、重要文化財に指定されている。



### 紅裾濃緋腹巻

(演田恒一氏所蔵)

狭山藩北条氏に伝わった具足。戦国大名北条早雲の塗れを染む。狭山藩北条氏は1万1千石の大名として江戸時代、12代270年に遷り、この地を治めた。



## 文化財

多くの文化財は、わたしたちに歴史を語り伝えてくれます。そっと耳を澄ませて、わたしたちの源流を旅してみませんか

### 吉川家住宅(非公開)

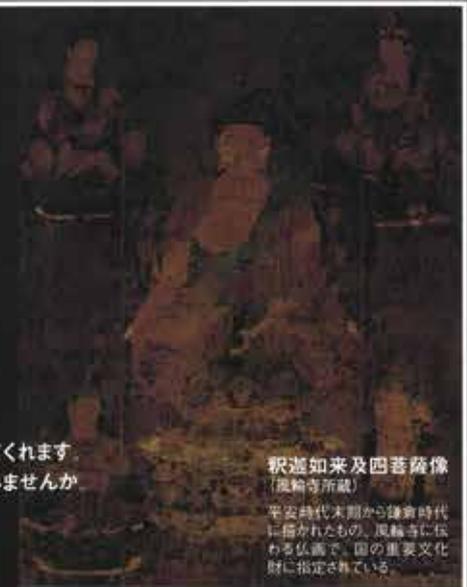
間取りは、田の字型の書入り四間取り型、江戸初期の建築といわれ、河内地方の農家の姿をよく伝えている。



### 釈迦如来及四菩薩像

(興輪寺所蔵)

平安時代末期から鎌倉時代に作られたもの。興輪寺に伝わる仏像で、国の重要文化財に指定されている。



### 陣羽織

(神奈川県立歴史博物館所蔵)

狭山藩北条氏に伝来した陣羽織。防寒のため、裾の上に羽織った。裾の裏地に白羅紗で雲文、全唐皮で北条家の紋、三輪紋をはめている。



### 狭山池石樋の蓋

狭山池の樋管のふたとして使用されていたもので、もとは古墳の石棺。鎌倉時代の改修で、備前源が北堤の下に伏せた。





水郷  
「ささやま」  
の歴史



狭山池石樋の発掘作業

大正14年から昭和3年にかけて行われた改修工事は、古墳時代の家型石樋が多く発見された。「お亀石」と呼ばれたこの石は、鎌倉時代の備前源が狭山池から取水する設備として伏せたもの。現在は、狭山池博物館内に展示されている。

## 狭山池をめぐると人と水の物語。

### 狭山池の恵み

現在も、灌漑用のため池として田畑を潤している狭山池ですが、以前は漁業も行われていました。「ぬくづけ」という伝統的な漁法で取ったモロコは狭山池の特産品としても有名でした。冬の水温が下がる時期、カマスの中へ人工的に魚の住みかをつくり、これを池の底へ三、四週間沈めておきます。モロコは、温かい場所へ群れをなして集まる習性があるので、すき間なく、モロコがカマスいっぱいになることもあり、四季を通じてさまざまな魚が取れた狭山池は、多くの太公望で賑わい、

昭和三十年代には冬の風物詩としてワカサギ釣りも行われ、近畿一円からも釣り客が訪れていました。しかし、外来種の繁殖や餌料の投入による池の汚濁などで、その姿を消すこととなりました。



狭山競艇

昭和27年狭山池が全国で四番目のモーターボート開催地となる。しかし、昭和31年には干ばつなどの影響で閉鎖され、住之江へとゆずることになった。



狭山八景図  
(山崎倫生氏所蔵)

狭山池を描いたとみられる狭山八景図。手前中央の山門・鐘樓・堂宇は、かつての金蔵寺が現在の極楽寺だろうか。多くの詩人や歌人によって詠まれた、古い時代の狭山池を垣間みることができる。

### 水害と改修

千四百年の歴史ある狭山池は、昭和三十九年には記録的な干ばつが起こっています。また昭和五十七年には台風10号による大雨で、下流の西除川が氾濫し、松原市などで三千戸

以上の家屋が浸水、住民は多大な被害を受けました。このため、洪水を調節する機能を持った治水ダムに生まれ変わる、大改修が行われることとなります。

昭和六十三年から平成十三年にかけて行われた平成の大改修と呼ばれるこの工事は、さまざまな文化財が見つかりました。中でも、「東壙」は狭山池の築造された時期を示す貴重な資料となり、多くの注目を集めました。また、狭山池博物館に展示されている狭山池の堤の断面は、各時代の改修の歴史をうかがうことができ、当時の土木技術を知る貴重な手がかりとなっています。

## History Of Sayama

# まちが描いてきた軌跡。

### 大阪狭山市のはじまり

明治二十二年四月に発足した狭山村と三郡村は、昭和六年六月に合併し狭山村に、昭和二十六年四月町制の施行により狭山町になります。昭和四十年代に入ると、ニュータウン建設や宅地開発が進み、人口の急激な増加に伴い農村集落から住宅都市へと変貌しました。都市化に伴い、大阪狭山市内のため池の数も減少しつつありますが、今でも市内には百を超えるため池が存在します。平成八年には全国「水の郷百選」に選ばれるなど、今なお、水と緑の豊かなまちとして多くの住民の生活を潤っています。

### 古代の狭山池をめぐる

狭山池は、市内でもっとも広い面積を誇るため池です。その歴史は古く、「日本書紀」や「古事記」にも記述が残されており、築造は七世紀前半にまでさかのぼります。狭山池は日本最古のダム形式のため池として、古来、農業に必要な水を確保するためにつくられました。農耕を営む人々にとって、狭山池やそのほか多くのため池は生活に欠かせないものでしたが、古くから景勝の地としても、清少納言や藤原仲実、上田秋成など、数多くの詩人や歌人によって詠まれてきました。

狭山池は、その長い歴史の中で幾度も改修が行われています。奈良時代には僧行基が改修とともに狭山池院・尼院を建立し、鎌倉時代には東大寺の僧重源が石樋をつくるなど、歴史上の著名人が数多く改修に関わっています。

### 狭山池の新しい顔

大正十五年から始まった改修工事では、慶長の大改修以来使用されてきた木製四段からなる樋の上三段が撤去され、一番下の底樋のみを残した状態で、鉄筋コンクリートづくりの近代的な取水塔が完成しました。取水塔は、水位に応じて池の水を下流に放流できる構造となっており、取水塔は、人々から親しまれ、子どもたちの恰好の遊び場となっていました。取水塔は狭山池の顔として水面の風景を彩っていました。



干ばつで飲み水が不足し、給水車が登場。(昭和39年・1964)



さやま遊園閉園。(平成12年・2000)



市制施行。(昭和62年・1987)



さやま遊園営業再開。(昭和34年・1959)

## 1951—2006

年	1951	1952	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1977	1980	1985	1986	1987	1988	1994	1996	1998	2000	2001	2002	2003	2005	2006
町制施行、狭山町になる。	狭山池でホートレース開催。	戦争のため中断していたさやま遊園営業再開。	町章制定。	上水道完成。	干ばつのため狭山池の水がなくなる。	帝塚山学院大学開校。	「狭山町史」発行。	狭山ニュータウン入居開始。	府道狭山池雷田林線完成。	アメリカオレゴン州オンタリオ市と姉妹都市提携。	近畿大学医学部附属病院開設。	公民館、回書館完成。	府立狭山高等学校開校。	総合体育館完成。	国勢調査で人口5万人突破。	陶器山トンネル開通。	市制施行。	宋永雅雄先生、文化勳章受章。	狭山池ダム化工事着工。	SAYAKAホール開館。	市民ふれあいの里「花と緑の広場」完成。	風輪寺(釈迦如来及四菩薩像)が国の重要文化財に指定。	全国「水の郷百選」の認定を受ける。	市立コミュニティセンター開館。	さやま遊園閉園。	和歌山県美山村(現白高川町)と友好都市提携締結。	府立狭山池博物館開館。	市循環バス運行開始。	狭山池まつり開催。	全線駅西口交通広場完成。	市民協会の一環として、行政サービスパートナーを導入。	子育て支援センター開設。	狭山池周辺でパタフラナイカーデンの整備。



# 水郷 「さやま」 の歴史

水郷「さやま」の歴史は、  
狭山池の歴史といっても過言ではありません。  
千四百年の歴史を持つ狭山池には、  
多くの人の池への想いが込められています。  
先人の知恵と情熱を守り続けてきた狭山池は、  
これからもわたしたちと  
ともにあり続けます。



町制10周年記念。(昭和36年・1961)

## History Of Sayama

### 昭和30年代ごろの狭山池

季節の彩り、人々やまの成長を時代とともに見つめてきた狭山池。昭和の時代の狭山池は、隣接するさやま遊園とともに、ボート遊びや釣りなど、大人も子どもも楽しめる憩いの場として、人々に親しまれていました。



# 河内長野 歴史の鼓動

## 1. 河内長野のあけぼの

### ■ 旧石器時代・縄文時代

河内長野の歴史の第1ページは、旧石器時代までさかのぼります。

三日市遺跡から、サヌカイトの石核や剥片とともに、後期旧石器時代のナイフ形石器やスクレイパーなどの石器が発掘され、上原遺跡ではナイフ形石器、高向遺跡では有舌尖頭器、寺ヶ池遺跡でも有舌尖頭器らしいものが出土しています。

このことから、河内長野でも後期旧石器時代(約3万年～1万5千年前)には、すでに人びとが生活していたことが推測されます。

次の縄文時代も、早い時期から人が住んでいたらしく、同じ三日市遺跡や小塩遺跡から早期(約8千年前)の縄文土器の押型土器が出土しています。さらに、前・中期や後・晩期の土器の出土する遺跡が13か所程度あります。彼ら縄文人は、河川にのぞむ段丘や台地上に居を構え、周囲の林野に分け入って鳥獣を狩り、食用植物を採集して暮らしていたのです。このような生活をする縄文人にとって、まことに好ましい居住空間であったに違いありません。

### ■ 弥生文化の波

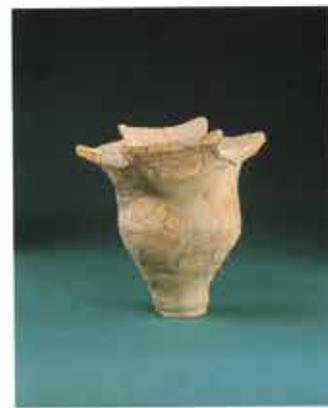
今から2千7～800年前、日本列島に新しい弥生文化が誕生しました。塩谷・大師山・三日市・三日市北の各遺跡から、中期の土器や稲の穂を刈る石包丁と呼ばれる石器などが出土しています。特に三日市北遺跡は大規模な集落跡で、東大阪周辺で作られた土器やこの周辺では手に入らない石材で作られた石器などが出土しており、ほかの地域と活発な交易活動を行っていたとみられます。また、大師山遺跡は卑弥呼の時代におこった倭国大乱の時に造られたと考えられている「高地性集落」の跡です。



●ナイフ形石器・スクレイパー  
[Knife-shaped stone tools, scrapers]  
約3万～1万年前の市内最古の石器。



●宮山遺跡竪穴住居跡  
[Remains of pit dwelling at the Miyayama site]  
縄文時代中期。市内でも最古級の住居跡。



●三日市遺跡出土縄文土器  
[Jomon pottery unearthed at the Mikkaichi site]  
縄文時代中期末の鉢形土器。口縁部に縄文が見られます。



●大師山遺跡出土弥生土器  
[Yayoi pottery unearthed at the Daishiyama site]  
弥生時代後期。壺・高杯・甕の各種。



## 2.古墳の出現から歴史時代へ

### ■ 大師山古墳の出現

やがて、古墳時代が到来します。河内長野にも、前期の前方後円墳である大師山古墳が造営されました。宝器とみられる碧玉製の腕飾が数多く副葬されていましたが、この古墳の主は大和の畿内政権とつながりのある豪族の一人であったと考えられます。

中期には、市域の北や北西方の藤井寺・羽曳野・堺の各市に、古市古墳群や百舌鳥古墳群など大王たちの巨大な古墳群が営まれています。この時期の河内長野については、現在の調査段階では古墳が1基とムラの跡がみつかっています。三日市遺跡などで韓式系土器が出土し、朝鮮半島からの新しい文化の波及を物語っています。

後期では、横穴式石室の塚穴古墳があり、ほかに須恵器や馬具の出土した例もあって、工事などで消滅したものを含めると、本来はかなりの数があったようです。さらに平成4年の三日市遺跡の発掘調査では、横穴式石室を持つ古墳が一举に4基検出されました。中には銀装飾の圭頭大刀や鍍金の円頭大刀の出土したものもありました。



● 大師山古墳出土鏡・鍍形石

[A bronze mirror and a Kuvagata-ishi; a hoe-shaped stone bracelet, both unearthed at the Daishiyama burial mound]

古墳時代前期。前方後円墳の大師山古墳の副葬品。鍍形石は石製の腕輪の一種です。



● 三日市10号墳出土の飾大刀（市指定文化財）

[Kazari-tachi, a decorated sword, unearthed at the Mikkaichi burial mound No.10 (city-designated cultural asset)]

三日市10号墳からは多くの土器や鉄器とともに圭頭柄頭大刀と呼ばれる飾大刀が出土しました。柄頭の飾りは銀製です。



● 三日市10号墳

[Mikkaichi burial mound No.10]

古墳時代後期の円墳。横穴式石室を持ち、多くの副葬品が出土しました。

### ■ 河内国錦部郡

古代律令制下に入ると、本市域は河内国錦部郡と呼ばれるようになりました。渡来系の錦部氏の住地もこの郡内だったと考えられます。また高向郷(旧高向村)は、高向朝臣や高向村主などと「新撰姓氏録」に見られる高向氏の住地と推定されます。大化改新の際に登場する国博士高向漢人玄理をこの一族とすれば、中央の歴史の舞台にも登場する人物が住んでいたことになります。

考古学的には、市域から「和同開珎」が2枚出土していて、奈良時代の文化の波及を如実に物語っています。また小山田や三日市で須恵器の藏骨器(火葬骨を納める容器)が見つかり、先進的な火葬の風習が伝わっていたことを示しています。



● 富山遺跡・金剛寺出土の和同開珎

[Old minted coins found at the Miyayama site and Kongo Temple]

奈良時代に日本で初めて流通した貨幣です。墓に副葬されていたものと思われる。

## ■ 高野街道と寺院

平安時代に入って、弘法大師空海により高野山に金剛峯寺が建てられると、高野山参詣のために高野街道が開かれました。京からの東高野街道と大阪・堺方面からの西高野街道が本町で合流し、ここから先は一本化して高野街道となりました。

高野信仰が盛んになるとともに、飛鳥・奈良時代創建の伝承を持つ寺院が一層の興隆を見せました。河合寺は飛鳥時代の創建と伝えますが、この時期に空海が寺観を整えたと伝えられています。また、観心寺も文献的には空海の高弟実恵によって、また金剛寺も高野山の僧阿観によって再興（あるいは草創）されたと考えられています。やがて、これらの寺院は広大な寺領を所有するようになりました。

南北朝時代に入ると、金剛寺には後醍醐天皇の護持僧文観の弟子禅恵がおり、観心寺は中院が楠木氏の菩提寺というつながりを持っていたことから、南朝方に属しました。

室町から戦国時代にかけて、金剛寺で醸造される「天野酒」は、京の柳酒、奈良酒と並んで賞味され、河内守護畠山氏は毎年将軍家に献上していました。また、金剛寺は織田信長・豊臣秀吉はじめ戦国武将に、天野酒を盛んに贈っていました。中でも秀吉は大いに気に入り、朱印状を与えているほどです。



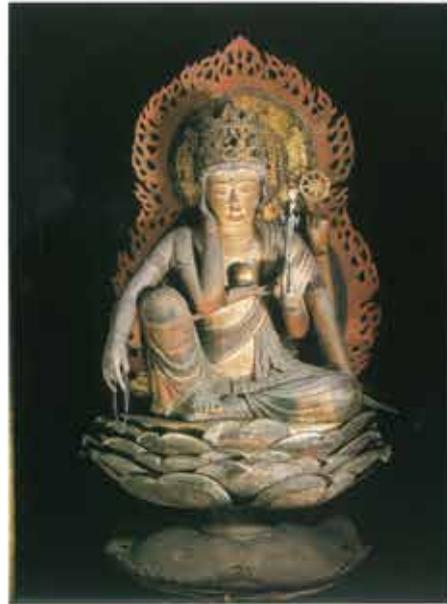
●観心寺・金堂（国宝）  
[Main hall of Kanshin Temple (national treasure)]  
南北朝時代の正平15年（1360年）ごろの建立。7間四方の入母屋造り。全体の調子は和様ですが、細部に禅宗様を取り入れた折衷様として有名。



●金剛寺出土・備前甕  
[Bison earthenware pot at Kongo Temple]  
室町時代のもの。秀吉や家康に愛飲された銘酒「天野酒」の醸造用に使われていたものでしょう。



●金剛寺・紙本墨書楠木氏文書（重要文化財）  
[The Kusunoki family's documents written on paper in Chinese ink (important cultural asset)]  
鎌倉時代末～南北朝時代。後醍醐天皇や南朝方に味方した楠木一族が書き残した文書類です。



●観心寺・木造如意輪観音坐像（国宝）  
[Seated wooden image of Kannon with mece at Kanshin Temple (national treasure)]  
平安時代初期の作で、かや材の一本造り。当時流行した六臂（6本の手）の像です。



●観心寺・建掛塔（重要文化財）  
[Unfinished pagoda at Kanshin Temple (important cultural asset)]  
南北朝時代。楠木正成が願主となり三重塔を建立しようとしたが湊川合戦で戦死したため、初重だけで終わったと伝えられています。



●金剛寺・金銅観世音菩薩立像（重要文化財）  
[Standing gilt bronze Kannon figure at Kongo Temple (important cultural asset)]  
白鳳時代の作。像は火災にあって鍍金はなくなっていますが、顔は微笑みをたたえています。



●金剛寺・二天王立像（重要文化財）  
[Statue of two heavenly rulers at Kongo Temple (important cultural asset)]  
楼門に安置されている持国天立像と増長天立像です。鎌倉時代の弘安2年（1279年）に大仏師法興正快などにより造られたことが、像内から発見された墨書でわかっています。



## ■ 中世城砦跡と烏帽子形城

市域には、中世の城砦跡と考えられるものが多く点在しています。烏帽子形城もその一つで、南北朝時代の赤坂城の出城の中では最も大きく、楠木氏の武将高向氏が拠点としたと伝えられています。後に支配が河内守護畠山氏に移り、さらにその被官甲斐庄氏が城主となったと考えられています。この烏帽子形城のことが、フロイスの「日本史」(1581年)に見られます。城主の一人がキリシタン大名で、城中の人びと300人以上が洗礼を受けたと記されています。また、教会も建てられており、烏帽子形城の界隈にはエキゾチックな風景が展開していたと思われます。



● 烏帽子形城址 (市史跡)  
[Eboshigata Castle  
(city-designated  
historical site)]

南北朝時代から安土桃山時代ごろまで長期間使用されたこの地方の要の城。織田信長の時代にはキリシタン大名がいて、城下には教会も建てられたようです。

## ■ 幕藩体制下の河内長野

江戸時代になると、観心寺や金剛寺などの寺領のほか、狭山藩・近江膳所藩・西代藩(伊勢神戸藩)の三藩と、幕府や旗本によって分割支配されることになりました。この状態は、大きく変わることなく幕末に至ります。高野街道は一般民衆の高野詣や修験道の大峯登山の道筋としてにぎわい、三日市は宿場として栄えました。また商品経済の発達とともに特産品が脚光を浴びることになりました。滝畑村の白炭は「光滝の白炭」として有名で、京都の茶人の間でもてはやされました。麦門冬や紫など、薬草類の栽培も多くの村で行われていました。また山間部では寒冷な気候を利用して、19世紀初頭から凍豆腐の製造が盛んで、狭山藩では重要な収入源として、藩の専売品に指定したほどです。



● 流谷の石造十三仏像 (市指定文化財)  
[Thirteen stone buddhist images  
at Nagaredani  
(city-designated cultural asset)]

江戸時代初頭。テウロ、シタニなどの銘が刻まれているキリシタン関係の石像。



● 三日市宿(里程石)  
[Mikkaichi post town(a milestone)]

江戸時代。高野街道の河内側の最後の宿場町です。高野山・大峯山への参詣者など多くの旅人が行き交い、たいへんにぎわいました。里程石には高野山までの距離が一里ごとに刻まれています。

## ■ 幕末動乱の波

嘉永6年(1853)、アメリカの使節ペリーの浦賀来航で、世情不安は頂点に達しました。狭山藩は、滝畑・石見川・鳩原などの村の農民で鉄砲の操作に熟練した者を調べあげ、90人の鉄砲組を編成しています。ペリー来航時には、滝畑村の鉄砲足軽(農民)40人を江戸に差し向けています。山間地にある河内長野では、イノシシなどの害獣駆除のため、かねてから鉄砲所持を許されている村が多く、彼ら農民たちは、時勢の切迫とともに武器として銃をとることとなりました。

文久3年(1863)には、京都をたった天誅組の団が、長野村・三日市宿を経て観心寺に立ち寄っています。ここで後村上天皇陵や楠公首塚に詣でた後、大和五條の代官所を襲いました。この天誅組には、河内長野から9人が参加しました。



● 河州錦部郡西代村絵図 (市指定文化財)  
[An illustration of Nishikai Village in Nishikibe County of Kashi  
(city-designated cultural asset)]

江戸時代の享保17年(1732年)に作成された村絵図。その年の4月に伊勢神戸に転封した西代藩の陣屋が描かれています。

## ■ 維新から現代へ

明治維新後の河内長野は、堺県を経て大阪府に所属することになりました。さらに町村制の施行などを経て昭和29年、長野町と三日市・加賀田・川上・高向・天見の各村が合併し、今日の河内長野市が誕生しました。



● 引札  
[A handbill]

明治時代の商業チラシ。テレビや雑誌がなかった時代の広告媒体の一種です。当時開通した高野街道の絵なども入っています。



Eifukuji Temple, which was built to preserve the tomb of the so-called great historical personage Prince Shotoku, who established the Seventeen Article Constitution and Twelve Offices and Ranks, was destroyed in the fires of war by Oda Nobunaga, but was later rebuilt. The Shoryoden (holy spirit hall) and Tahoto (two-storied pagoda) are important cultural properties of Japan.



聖霊殿



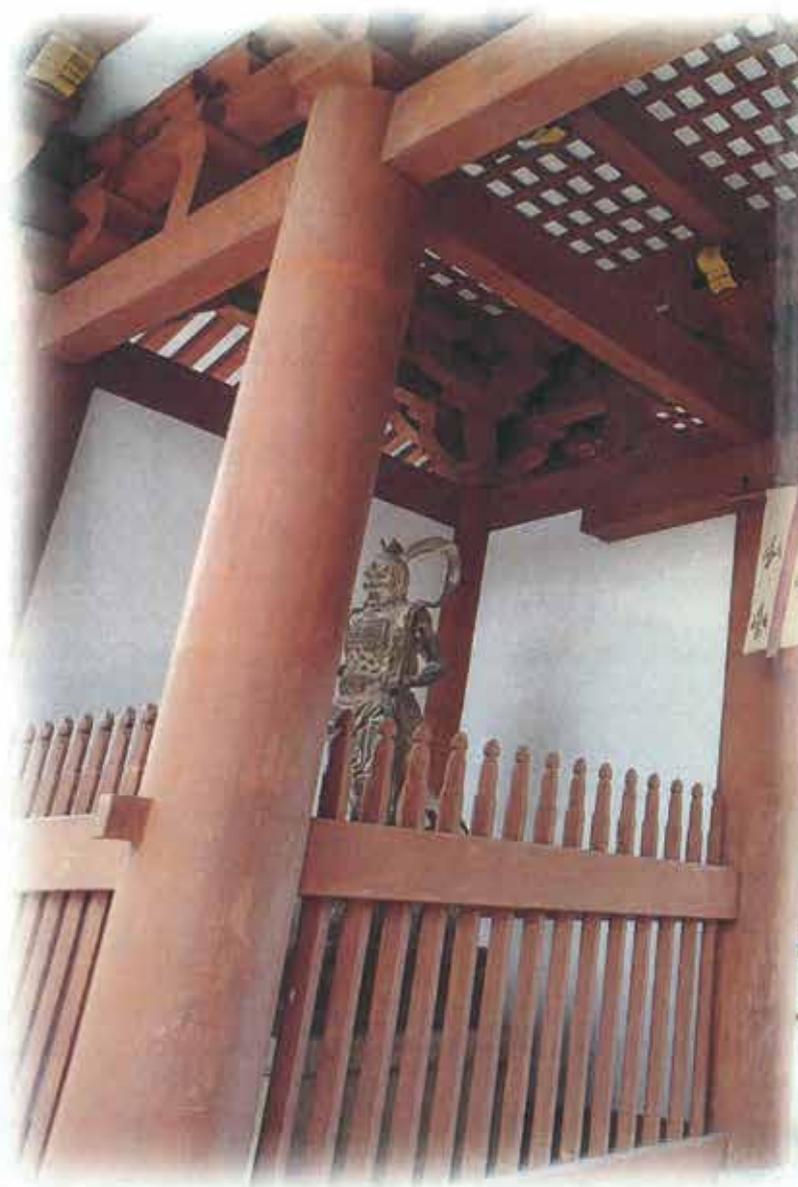
金堂



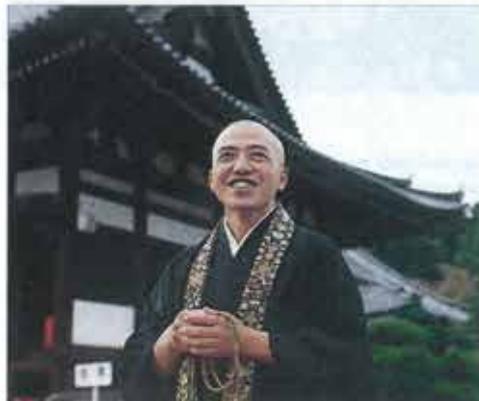
多宝塔



聖徳太子御廟



南大門



叡福寺住主 近藤本蔵さん

はなく、言葉で融和をはかること。そうした太子の精神を参詣者のみなさんにお伝えしたいと思っています」と話しています。



太子の魅力

【1】 聖徳太子

日本史の偉人聖徳太子の精神を  
今に伝える叡福寺



小早川好古画伯作「聖徳太子絵図」

十七条憲法や冠位十二階を制定するなど日本史の偉人と呼ばれる聖徳太子。数々の業績を残して49歳で薨去し、その前日に亡くなった妃の膳部郎女、前年に亡くなった母の穴穗部間人皇后とともに磯長の太子廟に葬られたとされています。推古天皇は太子の冥福を祈り、墓所を守るために香華所を建立しました。それが叡福寺の開基となりました。

叡福寺は織田信長による兵火で一度焼失しましたが、その後再建され、現在は金堂をはじめとする堂宇が甍を並べています。特に聖霊殿と多宝塔は国の重要文化財に指定されており、聖霊殿は1603年に再建された安土桃山末期様式の特徴を持つ建築物です。多宝塔は1652年に江戸の三谷三九郎による再建です。

叡福寺管主の近藤本龍さんは「十七条憲法にある『和』の精神がとても重要だ」といいます。力で他人をねじ伏せるので



## 住民インタビュー

### 中学生にもわかる 歴史紹介を



上野勝己さん

歴史に興味を持つようになったのは、高校生の時に二子塚古墳の調査を手伝ったのがきっかけです。大学では史学を学び、卒業後は中学校の社会科教師になりました。その後は趣味で地域の史跡に親しんできました。

平成3年に教職を離れ、資料館の準備にあたり、平成5年に開館した資料館の館長に就任しました。歴史が好きなので、制限なくのめり込んでいます。

今まで趣味だったことが仕事になってしまい、趣味がなくなってしまったことが現在の悩みです。

個人的には聖徳太子御廟に三骨一廟の言い伝えが生まれた理由などに興味を持って研究を続けています。

館長として心がけていることは若い人にも興味を持ってもらい、理解してもらえるように歴史を紹介していきたいということです。

「竹内街道」は、現在の大阪府堺市の小路と奈良県富麻町長尾を結ぶ約26kmの街道です。そのうち、堺市金岡町から太子町を通り富麻町長尾までの区間は、飛鳥時代に推古天皇によって作られた日本最古の官道「大道」のルートと重なっています。当時の日本の玄関先であった難波津と大和飛鳥の都を結んだ「大道」は、まさに「竹内街道」の前身といえるのです。

「大道」は大陸や朝鮮半島からの使節を迎えるために作られた外交路であったと考えられています。建築や彫刻などの優れた作品を今に伝える飛鳥文化は、当時の先進的な大陸の思想や文化の影響を受けて花開きました。「竹内街道」はそうした最先端の文化を携えた人々が通った大陸情緒あふれる道だったのです。

しかし、都が飛鳥から平城京に移ると、次第に華やかさは影をひそめました。中世になると聖徳太子信仰が盛んになり、聖徳太子御廟とそれを守る叡福寺を

訪れる参詣者らの通行が増えます。また、堺が自治都市として栄えると、大和と堺を結ぶ経済道としてかつての活気をとりもどしました。

江戸時代になって世の中が安定すると伊勢参りや西国巡礼をする庶民などが盛んに利用するようになりました。松尾芭蕉や吉田松陰も「竹内街道」を訪れています。

明治には大阪南部と奈良を併せた地域が堺県となって行政上一体化したため、そのふたつの地域を結ぶ「竹内街道」の重要性が増しました。明治10年には峠を掘り下げる工事が始まり、峠越えが容易になりました。

しかしその後大阪奈良間に鉄道が開通すると、街道の利用は次第に減っていきませんが、昭和57年に国道166号が完成し、多くの車が通行する現在の姿となりました。「竹内街道」は昔から奈良と大阪を結ぶ交通の大動脈だったのです。



叡運天聖蹟



二子塚古墳



小野妹子墓



孝徳天皇蹟

In the Asuka period, people of the most updated culture of the time passed along the Takenouchi highway, retaining the flavor of the continent. In the Medieval Period, more people began believing in Prince Shotoku many visited Eifukuji Temple. In the Edo Period haiku poet Matsuo Basho and ordinary people who made pilgrimages in Western Japan used this path.



# 太子の魅力



【2】  
竹内街道

「大道」から「竹内街道」へ  
大阪と奈良を結ぶ大動脈



竹内街道



用明天皇陵



推古天皇陵



西行記念館



弘川寺歴史と文化の森

西行塚



西行堂



弘川寺

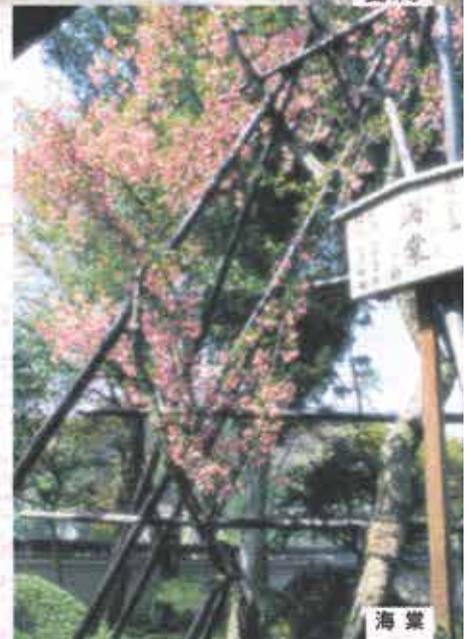
「願わくは花の下にて春死なむ  
そのきさらぎの望月のころ」と詠  
んだ西行法師の終えんの地である  
弘川寺は、閑静な山里にあり、毎  
年春には、樹齢約350年の「海棠」  
(府天然記念物)が美しい花をつ  
けます。境内には「西行記念館」  
があり、西行法師にまつわる数多  
くの資料が展示公開されています。

また、周辺の森林は「弘川寺歴史と文化の森」と名付けられた里山となっ  
ており、桜やモミジなど四季折々の自然を楽しめる遊歩  
道が整備されています。



河南町ホームページキャラクター  
西行くん

*Hirokawadera is the temple at which the famous poet Saigyō Hōushi chose to die. Tucked away in a peaceful mountain area, it is popular for cherry blossom viewing in spring, in particular the 350 year old tree "Kaido". The memorial hall houses many historical articles relating to Saigyō Hōushi. The woods surrounding Hirokawadera Temple are a tranquil place where one can enjoy nature all year round, with both cherry blossoms and beautiful autumn colours.*



海棠



額証寺



一須賀神社



近つ飛鳥博物館



大念寺



鴨習太神社



得生寺 木造阿彌陀如来坐像



船形神社

町の歴史をはるかにたどっていくと、旧石器時代にはすでに人が住んでおり、弥生時代になると丘陵部を中心に集落が形成され始めました。5～6世紀には、この地域は「近つ飛鳥」と呼ばれ、渡来人などにより、文化の一大中心地となりました。町北部の丘陵上にある一須賀古墳群や南部にある日本最大の瓢形双円墳・金山古墳などが往時の隆盛を物語っています。

*The town's history dates back to ancient times when early man was living in the surrounding hills. In the 5th and 6th centuries the region came to be known as "Chikatsu Asuka" and became a major centre of culture with visitors from abroad.*

*The "Ichisuka Tumulus" and the great keyhole shaped "Kanayama Kofun Tomb" offer a glimpse into past.*



近つ飛鳥風土記の丘



寺内町の民家



金山古墳

7世紀末には役行者が葛城修験道を創始し、弘川寺や高貴寺が開かれました。南北朝時代には、険しい山間部の地形を活かして平石城や持尾城が築かれ、一帯は戦乱の地と化しますが、戦乱が鎮まると額証寺や善正寺、大念寺を中心として、寺内町「大ヶ塚」が繁栄しました。今日でも民家や白壁の土蔵などが昔の面影を伝えています。

*Hirokawadera Temple and Kokiji Temple date back to the end of the 7th century. The first Mochi area prospered during the Nanbokuchō era (circa 1336 to 1392). Even today, one can feel a strong presence of olden times there, thanks to the old private residences and the white walled storehouses that still exist.*





# 河南町を散策しよう!

## イラストマップ





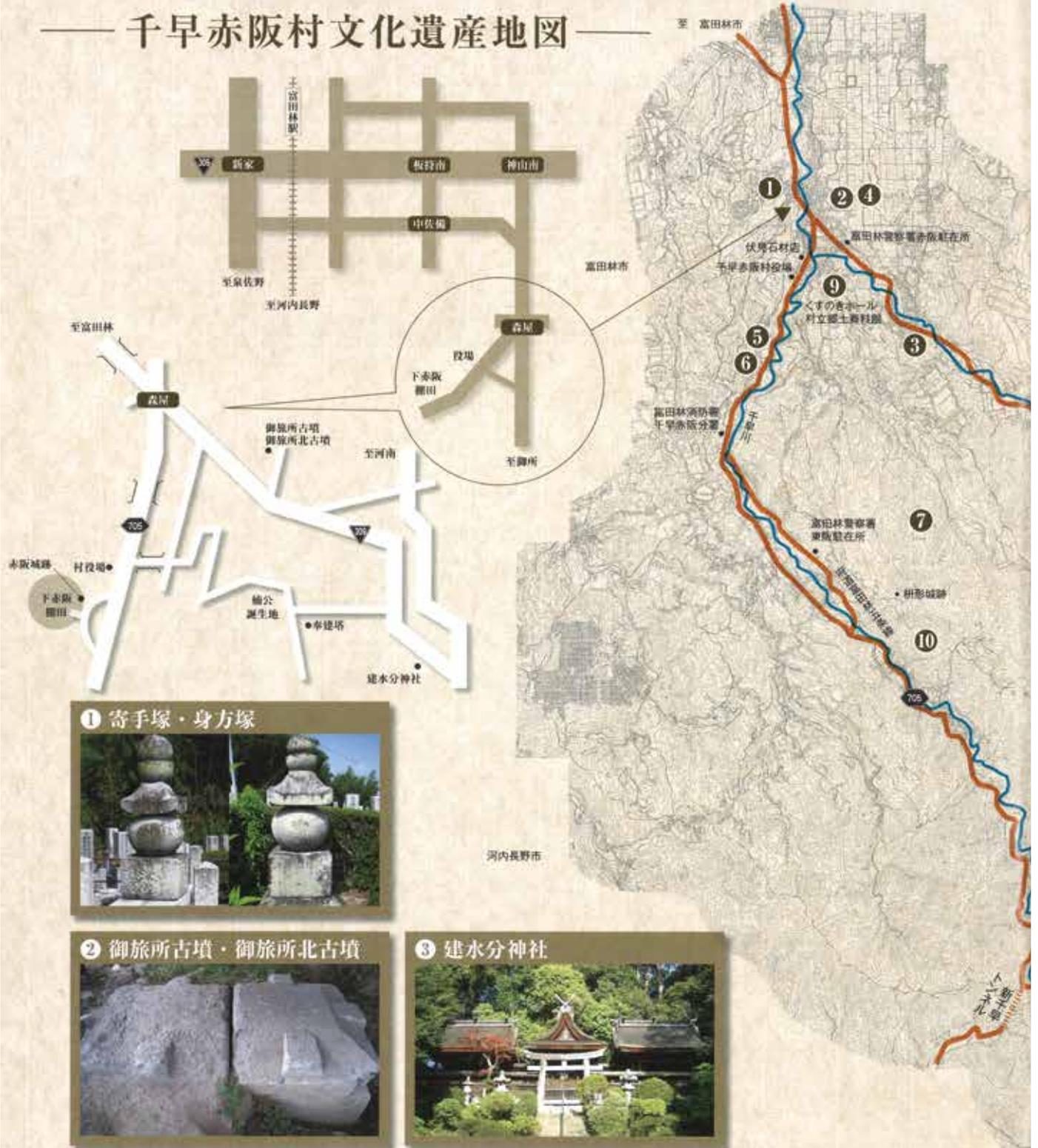


なにもないから いいところ……。  
なにもしない警沢。  
のらりくらり、ほけ〜っと……。  
いやしの里で のんびり過ごす警沢。  
ちはやあかさかで過ごす、  
至福の刻。

道の駅「ちはやあかさか」より



## 千早赤阪村文化遺産地図





## 河内に残る楠公史跡

### ●日本人の心を伝える楠公父子

明治33年、大和田建樹が作詞した鉄道唱歌・関西・参宮・南海編は、今の片町を出た後、木津から伊勢に入り、奈良、柏原、橋本、和歌山、難波終点までを謳っている。

そして、その作詞を貫く一本の筋が、南朝ゆかりの歴史である。四條畷の小楠公に始まり、笠置元弘の変、伊勢の結城、金剛山大楠公、吉野南朝跡、如意輪寺正行辞世句、最後は阿倍野北畠顕家で結んでいる。

河内を語るとき、楠公父子抜きには語れない。

時折しも、産経新聞は平成28年3月より、「公を忘れた日本人へ」と題し、「戦後71年楠木正成考」の特集を一面トップで取り上げた。この特集は、1部5日連続構成で、12月の10部まで、計50日間一面のトップを飾る超ロングランとなった。

＜正成の生涯が現代に伝えるものは何なのか＞をこの連載で考えたい、と大阪特派員、山上直子は以下綴っている。

一 掲げたテーマは、忠義と仁の人という正成の生涯が現代に伝えるものとは何か。そこに、戦後失われてきた「日本人の心」が見えてくるのではないか、という問いかけでもある。

### ●河内に広がる楠公史跡

産経新聞は、その特集の第一回で、楠公に関する主な史跡として、地図上に9か所を紹介しているが、実際はこんな数ではない。

河内（大阪市内一部含む）における楠氏ゆかりの主な史跡は以下の通り。

四條畷市／四條畷神社、小楠公墓所、和田賢秀墓  
大東市／十念寺

東大阪市／正行首洗いの井戸（枚岡神社）、正行首塚、齒嚙みさん、往生院六万寺

八尾市／恩智城址、恩智左近の墓

藤井寺市／葛井寺

羽曳野市／誉田八幡宮、壺井八幡宮

富田林市／楠妣庵観音寺

河内長野市／観心寺、後村上天皇檜尾陵、金剛寺、摩尼院

千早赤阪村／建水分神社、楠公誕生地、下赤坂城址、上赤坂城址、千早城址、奉

献塔、楠公産湯井戸、寄手塚・身方塚

大阪市／渡辺橋・小楠公義戦之跡、天王寺、住吉大社、住吉行宮正印殿跡

### ●各地に語り継がれる楠公物語

楠木正成の精神を創った河内の地、観心寺。

観心寺には、「楠公学問所」とされた中院が残る。正成は此の中院で8歳から15歳まで、龍覚坊に学んだ。正成の精神の根幹となった四恩の教え、「国・親・衆生・三宝の恩」である。

父、楠木正成が日本の歴史を大きく切り拓いた千早の戦いの場、千早城址。

千早赤阪村には、下赤坂城址、上赤坂城址、そして千早城址と3つの城址が残る。特に、千早城址は100名城の一つに数えられる難攻不落の「鉄壁の城」である。

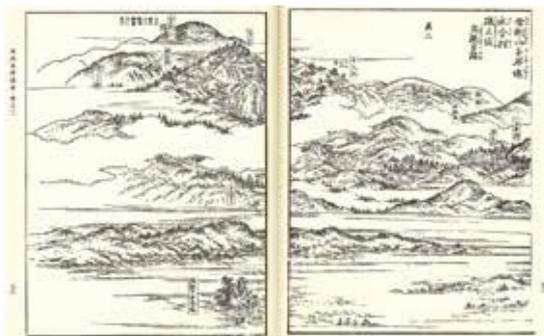
また千早赤阪村には、敵味方を問わず手厚く慰霊するため建立された寄手塚・身方塚がある。敵と言わず寄せ手といい、しかも味方の塔よりも大きく建てているが、ここには楠公精神が生きている。溺れる敵兵を救ったと伝わる正行の渡辺橋の美談同様、家門の為ではなく、天下国家のために戦った楠公父子の精神が読み取れる。

そして、長男、楠正行が忠孝両全の道を全うし散って逝った四條畷の合戦。

古戦田の字地名が、四條畷に2か所、大東市に1か所、またハラキリの字地名が大東市に1か所残り、四條畷の合戦がこの地であったことを物語る。

また北条にある十念寺は、四條畷の合戦で亡くなった者たちの魂がさまよったことから、その供養のため永禄年間に建てられた。

これらの地をつなぐ東高野街道は、京の都と高野山を結ぶ幹線道路であり、河内の国の流通を支えると同時に、南朝・北朝の戦いの場となった道である。



## 楠公父子の生きざま

### ●楠一族に見る武士道の精神

#### 後醍醐天皇と楠木正成の利害一致

南北朝の時代、その背景に「公家社会」と新興「武家社会」の大きな対立関係があった。

そして、後醍醐天皇は、天皇親政を目指し、反・北条幕府の立場を鮮明に行動した。

また、楠木正成は、幕府の非御家人、当時の悪党としてはとびぬけた存在で、運輸・流通業、辰砂や金剛砂等の鉱物資源を取り仕切る商人として、河内を中心に近畿一円を支配していた。

正成は、土地にしがみつき民百姓を支配下に置くしか自らの糧を稼ぐ手段を持たない武家支配を倒し、商売・流通等をより安全かつ自由にできる新しい社会＝体制の構築を目指し、反・北条幕府の立場に拠った。

ここに、後醍醐天皇＝南朝と、楠木正成＝楠一族の利害が一致したのである。

そして、この二人の雄の接近を可能にしたのが、後醍醐天皇の命を受け全国に散った側近の公家等の存在、日野資朝、日野俊基等である。

#### 父子ともに、立てた志を貫いた散り際の潔さ

しかし、父・正成が足利尊氏との和睦策や帝の比叡山臨幸策を諫言・献策するも退けられ、「君の戦、必ず破るべし」と湊川に散ったと同様に、子・正行も、自らの力ではどうすることも出来ない公家社会の厚い壁に阻まれ、四條畷に散ることになる。

敵、足利尊氏に勝利感を与えて、東条に引き、地の利を活かして師直・師泰軍をたたく作戦を立てたものの、南朝公家たちの理解が得られず、身分の低い己の立場ではその実現の困難さを知り、最期は討死覚悟で高師直に挑み、潔く散っていったのが正行の心情、と分析する。

そして、この覚悟は、戦いを前に吉野を訪れ、後村上天皇に別れの挨拶をし、如意輪堂の板壁に辞世の歌「かゑらじと かねて思へハ 梓弓なき数にいる 名をぞとどむる」を刻した時点で、すでに固まっていたものと思える。

正行の生き方には、今の世相に最も欠ける「己を空なしうする精神」、すなわち、究極としての散り際の潔さが脈々と息づいている。ここ

に、四條畷の合戦の本質を見て取れる。

#### 「義」「忠」「礼」の志に生きる究極の美学

楠一族に武士道の精神を見ることが出来る。

実践の「勇」、英知の「智」、武士の情けの「仁」、誠実足らん「信」を最下段に、その上に、正しいことを行う「義」、社会的規範の「礼」を置き、最上段に、身体を張って主人に仕えもし、諫言もする「忠」、そして究極の名声を得る「名誉」を位置づける、これが新渡戸稲造の説いた武士道の精神である。

智＝英知、仁＝武士の情け、勇＝実践はもちろんのこと、正統な南朝を復権するという「義」、寄せ手塚・身方塚建立の精神、渡辺橋の美談にみる「礼」、後醍醐帝への足利尊氏との和睦策・比叡山臨幸策の諫言・献策にみえる「忠」の精神、すなわち武士道の精神を、楠一族に見ることが出来る。

正統な帝の復権、南北朝の統一を夢見て、自らの志を立てたなら死をも顧みず突き進むという美学、潔さに生きた正成、正行親子。

そして、二人とは逆に、生き続けることで忠を尽くそうとした正行の弟・正儀。

かれら楠一族と河内は切っても切れない。

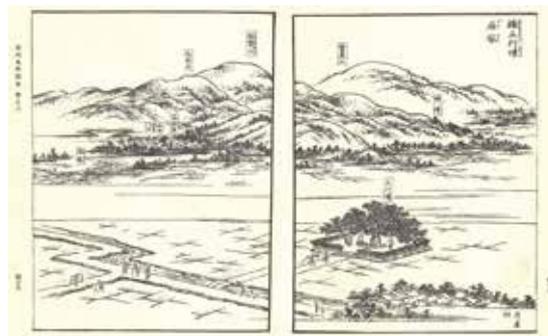
これら楠一族三代の生きざまがあったればこそ、日本の近代史を切り拓くこととなった明治維新が開花したと言えるのではないだろうか。

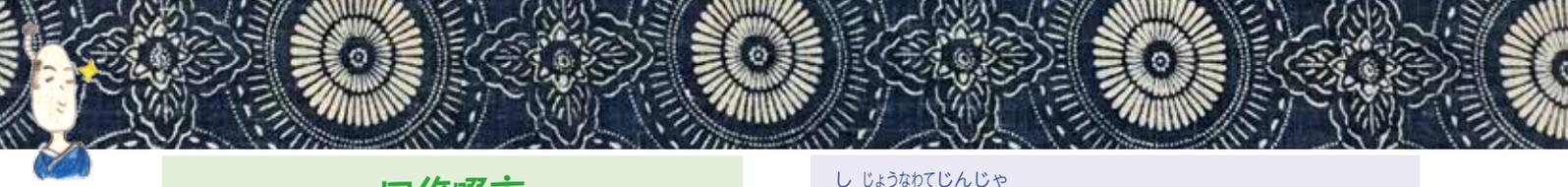
湊川に祀られる楠木正成の墓「嗚呼忠臣楠子之墓」を訪れた幕末の志士たちの名前が、湊川神社刊「神戸と楠公さん」に記されている。

吉田松陰、真木保臣、高杉晋作、坂本竜馬、伊藤博文、西郷隆盛、三条実美、大久保利通、木戸孝允等と、誰もが知っている幕末の志士たちの名前がずらりと並ぶ。

次ページ以降、河内に残る楠公史跡を掲載する。

河内に息づく楠公の生きざまを訪ね、武士道に生きた日本人の心にぜひ触れていただきたい。





## 四條畷市



四條畷神社鳥居



四條畷神社



楠公父子像



御妣神社

## しじょうなわてじんじや 四條畷神社

〒 575-0021 四條畷市南野 2-18-1

電話 072-876-0044

JR 学研都市線四條畷駅下車徒歩約 15 分

正平 3 年 (1348) 1 月 5 日、四條畷の合戦で自刃した楠正行を主神に、弟正時以下 24 柱を配祀する。兵庫・湊川に正成を祀る立派な神社が創建されたことを受け、住吉平田神社の神官、三牧文吾らの尽力で、明治 23 年 (1890) 4 月 5 日、御鎮座祭を挙げた。別格官幣社。

境内に、楠公父子別れの像、楠天神社 (菅原道真公を祀る)、御妣 (みおや) 神社 (小楠公ご母堂を祀る 大正 14 年 10 月 5 日鎮座) 等がある。



和田賢秀墓

## わだけんしゅうぼ 和田賢秀墓

〒 575-0021 四條畷市南野 4-15

JR 学研都市線四條畷駅下車徒歩約 10 分

四條畷神社一の鳥居北約 200 メートルの東高野街道沿いにある。和田賢秀は正行のいところで、正行の死後も敵にまざれ高師直の首を取ろうと迫ったが、わずかのところで首を取られて絶命した。

しかし、齒を食いしばって目を見開いたその凄絶な姿に日夜悩まされたこの敵兵は、遂に狂い死んだという。以来、賢秀は「齒神さん」と呼ばれて篤い信仰を受けた。

墓碑は、天保 2 年 (1831)、大阪の永田友之が建てたもので、碑背に「昔問へば すすき



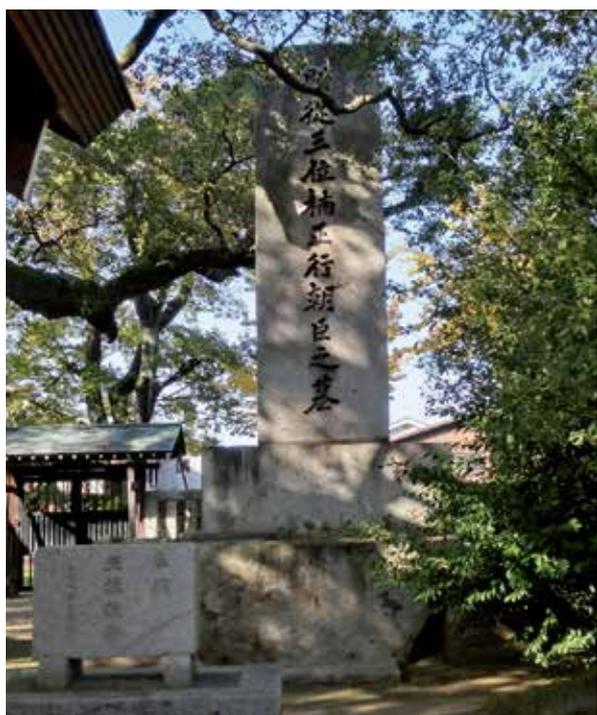
尾花の「嵐吹く」の句を刻んでいる。  
 昭和 40 年、四條畷カントリークラブ造成中、小松寺跡から一石五輪塔の和田賢秀墓碑が出土。調査の結果、この寺の勸教阿闍梨という高層は和田賢秀の三代目にあたることが分かった。



小楠公墓所



小楠公墓所の楠



小楠公墓所石碑

しょうなんこう ぼしよ  
**小楠公墓所**

〒 575-0036 四條畷市雁屋南町 27-5  
 JR 学研都市線四條畷駅下車徒歩約 5 分

正行は討死後、ご遺体はただちに当時深野池の堤防であった現在地に移され、南無権現と書いた小碑を建て二本の楠の若木を両脇に植えて墓とした。一説では楠の木を植えたのは 82 年後という。

年を経て一株のごとく合した楠は、この小碑を包み込み、幹回り 10 メートル以上の大木に成長し、大阪府天然記念物に指定された。樹齢約 580 年。現在の石碑（総高さ 7.5 メートル）は明治 11 年（1878）に建てられたもので、大久保利通による銘「贈従三位楠正行朝臣之墓」が刻まれている。

小楠公の墓・首塚は、この地のほか、京都宝篋院、東大阪往生院、東大阪山手町、宇治正行寺、鹿児島甑島金吾山と、全国六か所にある。

**交野市**



楠正行石像



くすのきまさつらせきぞう  
**楠 正行石像**

〒 576-0016 交野市星田 3-33-4

星田小学校 電話 072-891-2034

JR 学研都市線星田駅下車徒歩 5 分

交野市には、正平 7 年、荒坂山の戦いで、宮方、楠正儀に与して戦った交野郷士、加えて、亀山院、そして長慶天皇とゆかりの深い獅子窟寺の存在等の歴史がある。

これらの事実からして、交野の郷土や寺院衆徒らを中心に交野の人々が、南朝に与するその歴史を刻んでいたことが読み取れる。

昭和 7 年から昭和 18 年にかけて大阪府下(除く大阪市)の学校に設置された楠木像(正成像・正行像・父子訣別座像等)は 76 校、77 体に上り、内、正行像は柏原校、玉川校、星田校の 3 体が確認されており、現在、現存するのは星田校の石像のみである。

交野市域は、正平 7 年の荒坂山の戦いで楠正儀に与して宮軍として戦ったり、長慶天皇ゆかりの獅子窟寺があるなど、南朝に連なる歴史が残ることから、大阪府下の学校での楠木像の建立気運と呼応して、紀元 2600 年を記念して、昭和 16 年(1941)、正行像が設置されたと思われる。

電話 072-879-3600

JR 学研都市線四條畷駅下車徒歩約 15 分

「・・・貞和年中(1345～1349)飯盛山の辺りにして戦死の靈魂永禄年中(1558～1570)に至るまで山野に火を立、夜夜相闘、耳に夥し・・・」(大東市北条 山本家所蔵版木「楠正行菩提寺本堂再建奉加帳」と記されるように、飯盛山の辺りでは正行方戦死者の魂がさまよったことから、その供養に永禄年間(1558～1570)この地に十念寺を建て、正行以下の菩提を弔った。

東高野街道沿いにあり、楠正行の菩提寺といわれる。四條畷の合戦で戦死したわが子のために日参する母の姿を憐れみ、村人が尊堂を建てた。寺宝のほかに、願い地藏と願い観音も祀られる。

**大東市**



**十念寺**

じゅうねんじ  
**十念寺**

〒 574-0011 大東市北条 6-4-49



**小楠公像**



## しょうなんこうぞう 小楠公像

### ■ 飯盛山山頂

昭和 10 年、小楠公会が設立され、北河内郡内の小学校児童約 2 万人による「1 日 1 銭献金」や他地域の学校の児童・生徒、教員、府民有志ら延べ 22 万人の寄付によって建立された。

銅像は、正行が四條畷の戦いへの出陣に際し、吉野山如意輪寺の板戸に辞世の歌を認め、その筆跡を見つめる姿を写したもので、高さ約 3 メートル 60 センチ。

昭和 18 年に台座を残して銅像は回収され、現在建っているのは昭和 47 年に再建されたもの。



正行公石龕

## くすのきまさつらくびづか 楠 正行首塚

〒 579-8022 東大阪市山手町

近鉄奈良線額田駅下車、東へ約 300 メートル

四條畷の合戦のおり、楠正行は往生院着陣の翌日、家来高内定行を伴い枚岡神社に詣で、武運を祈り、仏具と太刀を奉納したとの記録（枚岡神社）が残る。

正行は自刃を決意し、額田神社の若宮前で自決をし、高内定行がその首級をもって生駒山に登り、この地に葬ったとされる。（湊川神社楠木同族会会員 政和美氏記録より）

近鉄額田駅から長尾の滝に登る道の北側に「山神」と呼ばれる土地があり、ここに楠正行の首を埋めたと伝える石龕（せきがん）があることから、大正 13 年、小楠公遺跡顕彰碑が建てられた。石龕の扉には菊水の紋様が刻まれている。

## 東大阪市



正行公五輪塔

## おうじょういんろくまんじ 往生院六萬寺

〒 579-8061 東大阪市六万寺町 1-12-36

電話 0729-81-2597

近鉄奈良線瓢箪山駅下車徒歩約 30 分

四條畷の合戦に際し、楠正行が本陣を構えた場所。六万寺町に正行が乗馬の鍛錬をしたと伝える馬場、横小路町には弓の練習に励んだ弓場の字名や、幼名と同じ多聞寺跡が残る。

大日本史によれば、正行の遺骸を往生院に葬るとあり、正行公五輪塔、正成公供養塔石碑が境内にある。



枚岡神社鳥居



## まさつらゆかり いど 正行縁の井戸

〒579-8033 東大阪市出雲井町 7-16 枚岡神社境内  
電話 072-981-4177

近鉄奈良線枚岡駅下車すぐ

四條畷の合戦の時、正行は枚岡神社に参り、井戸で首を洗って身を浄めたと伝わる。

もともと「楠正行首洗いの井戸」と伝わっていたものを、「正行縁の井戸」と改められた。井戸脇に立つ案内板には、楠正行公縁の井戸として、「正平3年（1348）1月、小楠公楠正行、正時兄弟、和田高家、賢秀兄弟をはじめ一族郎党が、高師直率いる北朝軍の大軍と戦った“四條縄手の合戦”が、この地であったとの言い伝えが伝わっています。」と記されている。

枚岡神社は、四つのご祭神の内、「天児屋根命」（あめのこやねのみこと）「比売御神」（ひめみかみ）の二神を春日大社に分祀されたことから「元春日」と呼ばれ、延喜式神名帳では名人大社に列せられ、中世には一宮制度の成立で河内の国一之宮となった。

## おんちじょうし 恩智城址

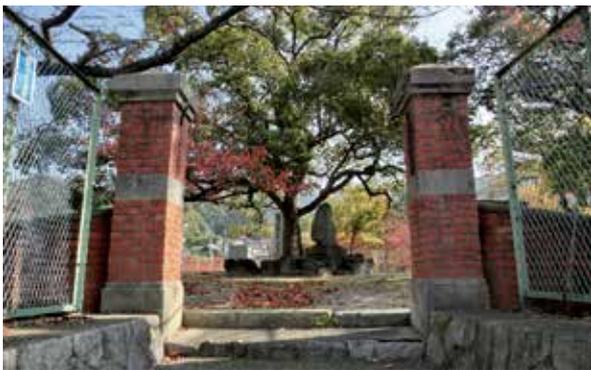
〒581-0883 八尾市恩智中町  
近鉄大阪線恩智駅下車徒歩約20分

恩智城址公園には、高さ約2メートルの自然石碑「恩地城址」が建つ。

現地説明板は、「恩智城は中世この地の豪族恩智左近満一が築いた。自然の高地を利用した城郭で、高安連峰との間に堀を廻らせ前方に大阪平野を一望のもとに収めた。堀の中にかつては小島があったがそれは昔の一の丸で現在の城址は二の丸跡という。正平3年（1348）四條畷の戦いで楠正行が戦死し恩智城も落ちた。学制頒布の時ここに小学校が新築され、今では桜の名所として知られる。」とある。

恩智城址公園には、「南高安小学校（旧恩智小学）発祥の地」の石碑もたち、公園正面には旧小学校の門柱が左右に残る。

## 八尾市



恩智城址公園の門柱



恩智城址石碑



恩智左近の墓

## おんち さこん はか 恩智左近の墓

〒581-0883 八尾市恩智中町  
近鉄大阪線恩智駅下車徒歩約20分

恩智城址の西に恩智左近の墓が建っている。案内板に「恩智左近満一は恩智神社の社家の出で、この地の豪族として恩智城を築き、楠木正成方に味方した八臣の一人である。湊川の戦の後はその子正行を助けて南朝方を守ったが、不幸にして延元2年（1337）6月熱病のため急



死した。」と記されている。

墓石前の自然石(高さ約 1.2 メートル)に、「贈従四位 恩智左近満一之墓」と記される。



神宮寺小太郎の塚

### じんぐうじ こたろう つか 神宮寺小太郎の塚

〒 581-0000 八尾市神宮寺町 5 丁目

近鉄大阪線法善寺駅下車徒歩約 20 分

恩智左近の墓から南へ約 300 メートルの地に神宮寺小太郎の塚が建つ。

案内板には、「神宮寺小太郎は当地の豪族で、神宮寺城を構え、恩智左近満一とともに楠木正成に属し、その八臣の一人である。正成湊川で戦死後はその子正行に従い、四條畷に出陣して討死し、その時北朝方により神宮寺城も落ちた。塚はもともと古墳で、明治末年、所有者により発掘され破壊されたという。」とある。

なお、楠氏八臣は、和田和泉守正遠、安満了願、恩智左近満一、湯浅孫六入道定仏、八尾別当顕幸、宇佐見河内守正高、志貴右衛門朝氏、神宮寺太郎左衛門正師の 8 人といわれる。なお八臣の読み方については諸説ある。

## 藤井寺市



葛井寺

### ふじいでら 葛井寺

〒 583-0024 藤井寺市藤井寺 1-6-21

電話 072-938-0005

近鉄南大阪線藤井寺駅下車すぐ

南北朝時代には後醍醐・後村上両帝も帰依され、楠正行が正平 2 年 (1347) 自軍 700 余騎にて当寺に屯し細川顕氏 7000 の兵を破った藤井寺合戦の折、般若心経六百巻を書写して守り刀一振り、非理法権天の菊水旗を奉納し戦勝祈願を行った、と寺案内にある。

正平 2 年 (1347) の藤井寺合戦の折、境内松の木に「非理法権天」の旗を掛け、正行、正時、正儀は秘策を練り、十倍の細川顕氏勢に大勝した。是よりこの松は「旗掛けの松」と呼ばれるようになり、この松からは珍しい三葉松が現われた。このことから三人が力を合わせ堅く一致団結すればどんな困難にも打ち勝つ不思議な力が授かると云われ、今も珍重されている。松の木は、後世、場所を移し替えられている。





## 羽曳野市



譽田八幡宮



河内源氏三代を祀る社

### こんだ はちまんぐう 譽田八幡宮

〒 583-0857 羽曳野市譽田 3-2-8

電話 072-965-0635

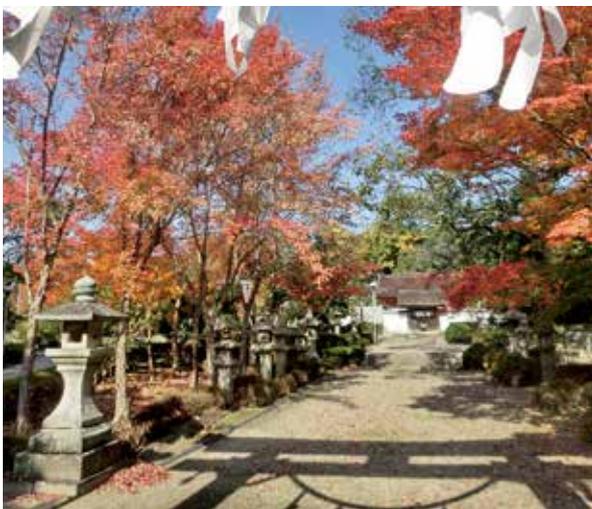
近鉄南大阪線古市駅下車 400 メートル

楠正行ゆかりの遺物は残っていないが、境内に、「譽田林古戦場址」（正面）の石碑が建つ。側面に、「正平二年九月一七日楠正行年二五今年…年にあたり、今は命…思蓮。手兵五百余騎…譽田林に於いて大勝す 翌三年正月、四條畷…」、裏面に「昭和八年四月一七日 国威宣揚祈願…」と記されている。…は判読不明。

「譽田林古戦場址」石碑横の説明文に、「譽田八幡宮の付近は、南北朝から室町、戦国の各時代を経て江戸初期の元和年間にかけて、戦略上の要地であったため、再三古戦場の舞台となったところである。」と記されている。



源義家の歌碑



壺井八幡宮本殿

### つばい はちまんぐう 壺井八幡宮

〒 583-0844 羽曳野市壺井 605-2

電話 072-956-2824

近鉄南大阪線上ノ太子駅下車徒歩約 15 分

寛仁 4 年（1020）源頼信がこの地の香呂峰に館を営み、河内源氏の祖となる。その後二代目頼義、三代目八幡太郎義家が誕生し、河内源氏の発祥の地となった。

前九年の役の天喜 5 年（1057）、勝利を導いた頼義公祈りの水を壺に入れて持ち帰り、城内にその壺を埋めて壺井水と称したことから、地名は壺井と改められた。



壺井八幡宮には、菊水白旗(麻製・縦3尺4寸・横3尺2寸)、楠正行添え状(広瀬大夫宝眼御房宛)、楠正儀下文(石河万寿宛)、以上三点の楠木氏ゆかりの品・古文書が残る。

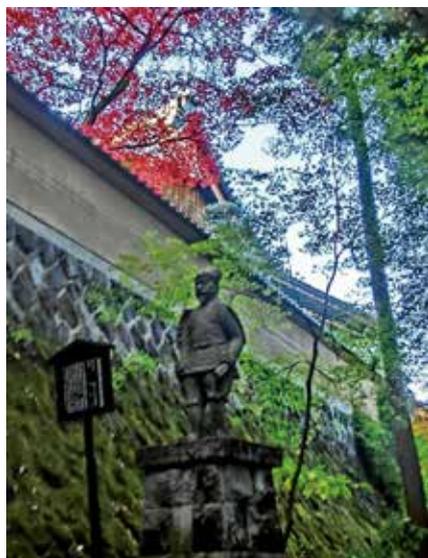
## 富田林市



楠妣庵観音寺の山門



草庵



楠公像



楠母子像

## なんぴ あんかんのんじ 楠妣庵観音寺

〒584-0054 富田林市甘南備 1103 番地

電話 0721-35-5161

近鉄南大阪線富田林駅下車 金剛バス甘南備停留所  
下車徒歩3分

楠公夫人の遺蹟で、正成・正行戦死後、正成を始め一族郎党の菩提を弔いつつ生まれ故郷の甘南備に隠棲し、寂寥の余生をここで過ごされた。草庵、観音堂、夫人の墓所、夫人常用泉がある。

楠木母子の像がある。昭和10年大楠公600年祭に竣工、久子夫人が正行を詩仏堂で訓戒の銅像。

## 河内長野市

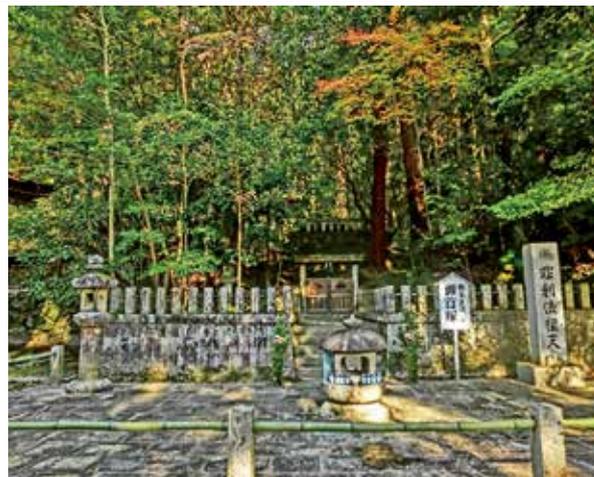


観心寺の門

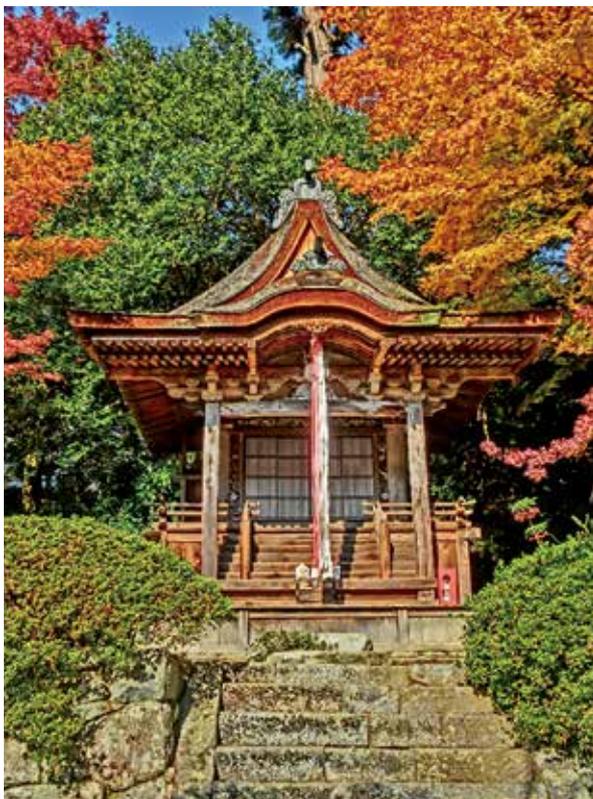




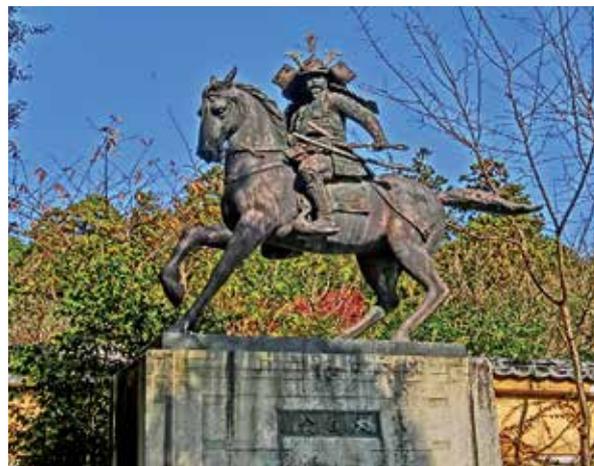
金堂



楠木正成首塚



訶梨帝母天堂



楠木正成銅像

かんしんじ  
**観心寺**

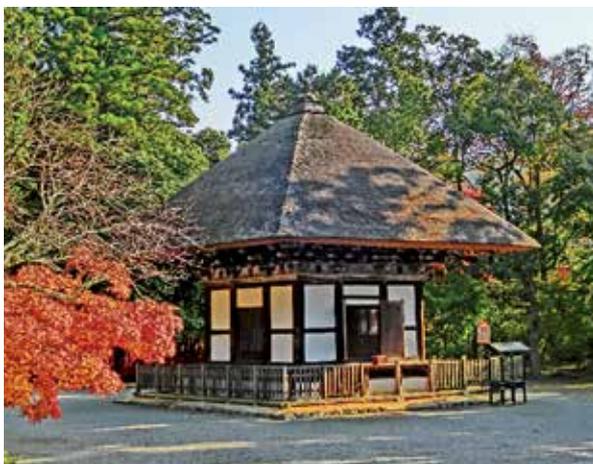
〒 586-0053 河内長野市寺元 475

電話 0721-62-2134

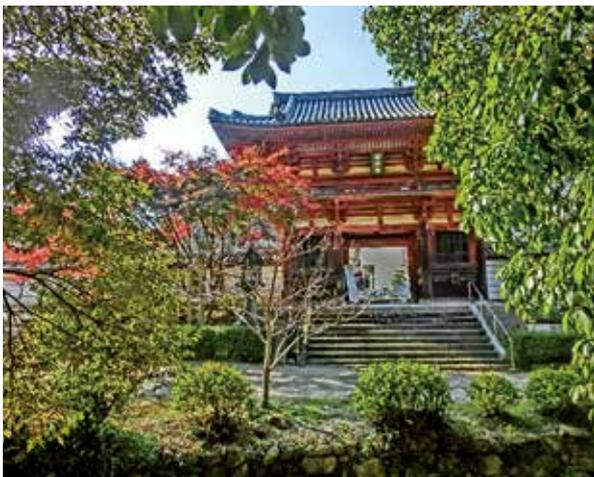
近鉄長野線・南海高野線河内長野駅下車バス観心寺  
バス停下車すぐ

文武天皇の大宝元年（701）、役小角によって開かれた真言宗の寺。金堂は後醍醐天皇の命を受けた楠木正成によって建てられた。延元元年（1336）、湊川で討死した楠木正成の首級が当寺に送り届けられ、首塚として祀られている。

鎮守堂は正行によって再興され、楠木家の菩提寺・中院は正成の首級が送り届けられた時、正行が切腹しようとしたところ。正行が刻したと伝わる楠木正成像や、小堀鞆音作の楠木正成画像・楠正行画像が霊宝館にある。



建掛塔



樓門



観蔵院



金剛寺庭園



金剛寺境内



## こんごうじ 金剛寺

〒 586-0086 河内長野市天野町 996

電話 0721-52-2046

近鉄長野線・南海高野線河内長野駅下車バス天野山  
バス停下車すぐ

南北朝の争乱期にあたって南朝側の要衝の寺であった。後村上帝が正平9年（1354）から6年間食堂を正殿とされた一方、北朝の光源・光明・崇光の三上皇も4年間御座所とされたため、南北両朝が同座することとなった。

何れも重要文化財の、運慶作の大日如来坐像・降三世明王坐像・不動明王坐像や同じく重要文化財の、尊勝曼荼羅図・五秘密曼荼羅図・虚空蔵菩薩像等宝物多い。十二月九日楠木正成自筆書状以下十四通の楠木氏文書が残る。



摩尼院



南朝後村上天皇行在所の碑



摩尼院正面



摩尼院の書院



摩尼院の縁と庭

### まにいん 摩尼院

〒586-0086 河内長野市天野町 1006

電話 0721-52-5832

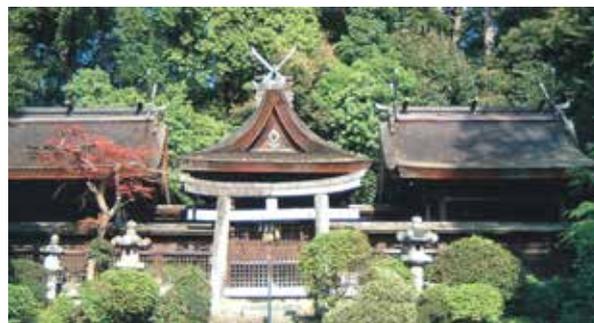
近鉄長野線・南海高野線河内長野駅下車バス天野山バス停下車すぐ

金剛寺の塔頭の一つで、南北朝時代、大和の賀名生から金剛寺に移られた後村上帝は正平9

年（1354）から6年間仮の宮居とされた。現在残る書院は文献によって慶長年間（1596～1614）のものと認められ、重要文化財に指定された。

鞆皮に金箔を打ち、碁盤目の丁寧な縫いとりがなされ、墨痕鮮やかな菊水の紋と「非理法憲天 正成」と書かれた楠木正成の軍旗。また、正成が後醍醐帝から笠置で賜った銀鞘龍紋の短刀は、桜井の駅で正行に授けられ、父の訃報に接した正行が自刃に使おうとしたもので、ともに摩尼院に保存されている。

## 千早赤阪村



建水分神社本殿

### たけみくまりじんじゃ 建水分神社

〒585-0041 南河内郡千早赤阪村水分 357

電話 0721-72-0534

近鉄長野線富田林駅バス水分神社前すぐ

霊峰金剛山の総鎮守で、古来より付近一八か村の産土神、この地を本拠とした楠木氏の氏神でもある。境内に楠木正成公を祀る南木神社（摂社）がある。大鳥居に掛かる扁額「正一位 水分大明神」は後醍醐天皇宸筆と伝わるもので、木額の表面が摩滅したため金銅製にて模造したもの。

本物の「扁額」表面は摩滅しているが、裏面には楠正行の直筆で、「延元貳年丁丑四月廿七日被奉授御位記 同五年庚辰卯月八日 題草創之額 左衛門の少尉橘正行」と書かれている。このことから延元五年（一三四〇）当時、正行は元服していたことがうかがえる。



楠公誕生地

なんこうたんじょうち そんりつきょうど しりょうかん  
**楠公誕生地・村立郷土資料館**

〒 585-8501 南河内郡千早赤阪村大字水分 180  
電話 0721-72-1447

近鉄長野線富田林駅バス森屋下車徒歩約 10 分

楠木正成は千早赤阪村水分の里で誕生した。この地に建つ石碑は、明治時代、大久保利通の奨めによって建てられた。郷土資料館には楠木正成にまつわる様々な史料等が展示されている。

付近に、楠公産湯の井戸、奉建塔がある。



上赤坂城址の碑

かみあかさかじょうし  
**上赤坂城址**

南河内郡千早赤阪村桐山  
近鉄長野線富田林駅バス森屋下車徒歩約 50 分

元弘 3 年 (1333) 2 月、上赤坂城の攻防が始まった。強固な自然の要害に守られていた

上赤坂城も、衆寡敵せず落城、守将平野将監ら 30 余名は幕府軍に降伏した。上赤坂城の落城を見た正成は、金剛山中腹の千早本城に籠城し、頑強に忍耐強い戦いを展開し幕府軍を悩ませた。

上赤坂城は、金剛山の北斜面につきだした一独立峰の先端部に築城された典型的な山城で、海拔約 350 メートルの高所に位置し、北・東・西の三方が急崖をなし、天然の要害を形作る。今も本丸跡・茶碗原跡等がわずかに往時をしのばせてくれる。



下赤坂城址の碑

しもあかさかじょうし  
**下赤坂城址**

南河内郡千早赤阪村東阪  
近鉄長野線富田林駅バス千早赤阪中学校前下車徒歩約 5 分

元弘元年 (1331) 8 月、後醍醐天皇が笠置に入るや、楠木正成

は下赤坂城に拠って挙兵した。500 余騎といわれる正成の軍勢は釣堀の戦法や熱湯を注ぐ戦法を駆使して闘ったといわれるが、10 月 21 日落城し、正成は消息を絶つ。

下赤坂城は、現在の村立千早赤阪中学校の裏手の丘陵部一带にあたるが、今は村立中学校の裏手に「史蹟赤坂城址」の碑が建っているのみ。碑の建つ場所から棚田の風景を鑑賞することができる。



千早神社



千早城址の碑

ちはやじょうし  
**千早城址**

南河内郡千早赤阪村千早  
近鉄長野線富田林駅バス金剛登山口下車徒歩約 20 分

元弘 2 年 (1332) 11 月、楠木正成によって築かれ、翌年 5 月



まで約 100 日に及ぶ間、鎌倉方の大軍勢の攻撃に耐えた。自然の要害に築かれ、東は尾根続きに金剛山に連なり、南は妙見谷、北は風呂谷、西は大手口筋と急崖をなし、籠城に欠くべからざる水は金剛山中腹一帯にあるという五か所の湧水口から引いたと史料に見える。

馬の背部分に四段階に区画されてつくられ、千早神社付近が本丸・二の丸の跡、神社の先端部に三の丸・四の丸と続き、三の丸の一部と四の丸跡は、現在削平されて城址公園となっている。



寄手塚と身方塚

よせてづか みかたづか  
**寄手塚・身方塚**

南河内郡千早赤阪村森屋 森屋惣墓内  
近鉄長野線富田林駅バス森屋下車徒歩約 20 分  
河内名所図会によると、この二つの塔は、南北朝動乱期、千早赤阪の地を舞台に起きた戦により命を落とした兵の霊を弔うために楠木正成によって造立された供養塔とある。  
幕府軍を敵と呼ばず寄せ手とし、その五輪塔を味方（楠木軍）の塔より大きく建てたという、何とも奥ゆかしい、楠木正成の人情味が感じられる伝承が伝わる。



**大阪市**



小楠公義戦之跡



碑文

わたなべばし しょうなんこうぎせん の あと  
**渡辺橋・小楠公義戦之跡**

〒 540-0031 大阪市中央区北浜東 1 番地  
地下鉄谷町線・京阪本線『天満橋』駅下車、大川沿いキャッスルホテル前

正平 2 年（1347）11 月 26 日、楠正行は瓜生野の戦い（住吉・天王寺）で山名時氏・細川頼氏を打ち破り、逃げる敵を大川に追い詰め、500 人を超える敵兵が渡辺橋に集中し、川に落ち流された。この時正行は、部下に命じ、敵兵を救い、衣服や薬を与え、京へ帰した。これこそ日本精神の化身ともいふべきもので、今より 150 年前のナイチンゲールに先立つこと 500 年も前の話で、我が国が赤十字社に加盟することを容易にした出来事“渡辺橋の美談”として語り継がれている。

南北朝時代の渡辺橋は、現在の天満橋と天神橋の中間あたり（八軒家浜）にあった。碑は昭和 15 年、紀元 2600 年を記念し建立されたもので、八軒家浜の再整備に合わせ、現在のところにて再建された。

## 河内の国今昔フェスタ・フォトアルバム



2015.11



大阪駅会場で開会式



大阪駅会場の様子



大阪商業大学蒼天ホールでフォーラム



河内街道音頭を発表

2016.9



京セラドームスカイホールで開会式



伝統芸能河内唄



枚岡神社所蔵布団太鼓レプリカ



絵画コンクール応募作品

## 登録有形文化財 川中邸と屋敷林



川中邸屋敷林全景

### ■地質と位置

河内平野は周知のとおり、太古は難波の内海であった。今から約 80 万年前に生駒山系が次第に隆起し、やがて上町台地も隆起し、難波の内海は河内湖となり、古大阪湾に流入していた淀川や旧大和川の砂礫の堆積によって陸化し、低湿地帯となった。

江戸時代まで南東より北西に水系を広げて流れていた旧大和川が宝永元年（1704）現在の流路に付け替えられ、湖の名残であった深野池や新開池が干拓され、生駒山脈と上町台地に挟まれた南北に細長い低湿地帯は河内平野となり、広大な新田が生まれた。

この河内平野のほぼ中心で、大阪府最大といわれる土地区画整理事業が行われ、屋敷林の周辺は猛烈な勢いで市街化が進んだ。国道 308 号線上を走る阪神高速道路東大阪線、その下を走る近鉄東大阪線の吉田駅から北へ 200 メートル。屋敷林の東端は旧大和川の支流であった吉田川跡に開かれた川中新田に接し、標高 6.2 メートル、林の中央部で 4.67 メートル、西端は 4.3 メートルと、わずかに西に緩勾配のある面積約 8000 平方メートルの雑木林である。

地盤は河内平野の一部として、当然やわらかい沖積層上にあるが、地表の暗青灰色のシルト質粘土上部の層厚 0.5 メートル余りは有機物質（腐植物に覆われ、この堆積有機物の上にコケ、シダといった隠花植物をはじめ、キノコ、

木本、草木など 400 種に近い植物が生育した。

### ■変遷

江戸時代から長い年月、木々の交替を繰り返しながら存続してきた屋敷林は、かつて燃料やたい肥などの供給源として、また一部は観賞用であり、防風・防災などの大切な役割も果たしてきた。

そして常に人の手が入り、特有の生態系を保つよう整備されてきた。しかし、マキは燃料としての必要性を失い、たい肥は手軽な化学肥料に代わり、屋敷林は生活に直接必要のないものになった。何度かの台風で大木は倒れ、人手不足も加わって、長年手入れされずに荒れ果てていった。林縁には草丈の高い繁殖力の旺盛な草が茂り、市街化が進むにつれ粗大ゴミが捨てられるようになった。

### ■緑地保全地区と大阪みどりの百選

一度失えば短期間でこれに代わる林を生み出すのは容易ではない。歴史ある屋敷林を、昔の姿で維持、管理していくことは経済事情と環境の変化の中で極めて困難である。

しかしこの林を生息の場としている昆虫も含めた多くの生き物たちを、人間のエゴのために捨て去ることはできなかった。そんな願いがかなえられて、屋敷林のうち、約 5000㎡が昭和 59 年 9 月、大阪府における緑地保全地区の第 1 号として指定された。

また、平成元年 2 月には府民投票による「大阪みどりの百選」が選定され、この屋敷林もその一つに選ばれた。また、ここは江戸時代に大和川付け替えにその生涯を捧げた河内平野の開拓者、中甚兵衛の生地でもある。自然的環境と歴史的環境を合わせて一体的に保全し、先人の遺産をより一層充実した郷土の緑として、ランドマークとしても維持していきたいと願っている。



# ロマンあふれる河内へようこそ！

19 市町村勢要覧で繙く河内の歴史と文化&楠公史跡

私たちは、平成 27 年 11 月、第 1 回河内の国今昔フェスタ「歴史・文化と見本市 in 大阪駅」「地域資源と観光を考えるフォーラム」を開催し、河内の歴史や文化を宣伝し、物産や伝統芸能も披露した。

会場を訪れた多くの方からアンケートをいただいたが、河内地域の活性化に向けて「河内の優れた文化や技術を広く広めてほしい」「河内の PR が足りない」との声が多かった。

この観光パンフレット第 2 版は、これらの要望を受けて、昨年制作した初版（オールカラー・24 頁）に盛り込めなかった 19 自治体の文化・観光情報を、各自治体が発行する市町村勢要覧（未発行自治体は別途、観光関係パンフレット等掲載）を集約する形式で盛り込んだ。

この観光パンフレットが、一人でも多くの人の手に渡り、河内の歴史や文化がさらに知られ、広がり、全国いや全世界から多くの人がこの地、河内を訪れることを切に願っている。

最後に、19 自治体の市町村勢要覧を集約するにあたって、四條畷市秘書広報課に多大のご支援・ご協力をいただいたこと、この誌上をお借りしてお礼申し上げます。

河内の国文化遺産総合活用実行委員会  
パンフレット製作チーム 扇谷 昭

表紙＝大和川を東西に付け替えた中甚兵衛の生家ゆかりの登録有形文化財・川中邸の秘蔵物の一つとして残る河内を中心に描いた絵図。

河内木綿文様＝各ページに使った河内木綿文様は、大阪商業大学商業史博物館所蔵資料。

イラスト＝2 種類の正行イラストは、藤戸学さん、扇谷美織さんの作品。

発行

平成 29 年 3 月

“河内の国”文化遺産総合活用実行委員会  
一般社団法人河内観光局内

〒578-0903

東大阪市今米 1 丁目 4 番 38 号

TEL 06-6788-9159

## 観光&防災対応 Wi-Fiステーション みまもりロボくん ii

全国自治会活動支援ネットGでは  
観光&防災対応Wi-Fiステーション  
『みまもりロボくん ii』の  
普及を目指しています！



ソフトバンクの  
スマホと契約の方



ドコモ・au等の  
スマホと契約の方



こちらからも募金  
を募っております



特定非営利活動法人  
地域情報支援ネット



一般社団法人 全国自治会活動支援ネット

〒540-0012 大阪府大阪市中央区谷町 2 丁目 3-1 第 2 ターネンビルディング 5F TEL.06-7878-6407

協賛企業



小阪産病院



mart  
copa

SMART SCOPA Produced by FID CORP.



HIGHCLASS-DRINK  
ハイクラスドリンク株式会社



大阪商業大学  
Osaka University of Commerce



アンテナ/無線装置  
風力発電装置  
太陽パネル発電装置  
防犯カメラ(人感)  
パトライト  
LED&気象センサー  
スピーカー  
デジタルサイネージ  
警報ボタン  
内臓蓄電池